

シト雖現行裁判所構成法ハ事物ノ管轄ノ点ニ付キ各兩者ノ間ニ之カ區別ヲ設ケタリ蓋シ區裁判所ノ事件タルヤ訴訟物ノ價額僅少ナルモノアリ事急速ヲ要スルモノアリ故ニ地方裁判所ヨリモ其手續ヲ簡便ナラシメサル可ラサルノ必要アリ從テ區裁判所ニ於ケル訴訟手續ト地方裁判所ニ於ケル訴訟手續トハ互ニ異ナルコトアルハ論ヲ俟タサル所ナリ而シテ本章ハ區裁判所ニ於ケル特別ナル訴訟手續ヲ示シタルモノニシテ其他ノ手續ハ總テ地方裁判所ニ於ケル第一審ノ訴訟手續ニ依ルヘキモノトス

第一節 通常ノ訴訟手續

第三百七十三條 區裁判所ノ通常ノ訴訟手續ニ付テハ區裁判所ノ構成又ハ第一編及七本節ノ規定ニ依リ差異ノ生セサル限リハ地方裁判所ノ訴訟手續ニ付テノ規定ヲ適用ス

(解) 本條ハ區裁判所ノ通常訴訟手續ハ地方裁判所ノ訴訟手續ヲ適用スルヲ以テ原則トシ區裁判所ノ構成又ハ第一編及七本節ノ規定ニ依リ差異ノ生スルトキニ限リ例外トシテ此等ノ規定ニ從フヘキモノト爲シタリ

第三百七十四條 訴ハ書面又ハ口頭ヲ以テ裁判所ニ之ヲ爲スコトヲ得

(解) 區裁判所ニ於ケル訴ハ地方裁判所ニ於ケル訴ト異ナリ必スシモ訴狀ヲ差出スノ要ナシ是ヲ以テ書面ニテモ又ハ口頭ニテモ之ヲ爲スコトヲ得ルナリ

第三百七十五條 起訴アリタルトキハ裁判所書記ハ訴狀ヲ被告ニ送達スル手續ヲ爲ス準備書面ノ交換ハ之ヲ爲スコトヲ要セス

(解) 原告ヨリ訴ヲ起シタルトキハ區裁判所ノ書記ハ之ヲ相手方タル被告ニ送達スル手續ヲ爲ス義務アリ然レトモ地方裁判所ノ如ク準備書面ノ交換ヲ爲スノ要ナキモノトス

第三百七十六條 原告若クハ被告ハ其申立及ヒ事實上ノ主張ニシテ豫メ通知スルニ非サルハ相手方ニ於テ之ニ對シ陳述ヲ爲シ得ヘカラサルモノヲ口頭辯論ノ前直接ニ相手方ニ通知スルコトヲ得

(解) 本條所定ノ「直接ニ相手方ニ通知」トハ當事者ノ一方カ他ノ一方ニ對シ自身直接ニ通常ノ書面ニテ通知スルコトヲ得ルノ義ナリ其他本條中別ニ説明ヲ附スヘキモノナクレハ之カ説明ヲ省ク

第三百七十七條 口頭辯論ノ期日ト訴狀送達トノ間ニ少ナクトモ三日ノ時間ヲ存スルコトヲ要ス急迫ナル場合ニ於テハ此時間ヲ二十四時マテニ短縮スルコトヲ得

送達ヲ外國ニ於テ爲スコトキハ事情ニ應シテ時間ヲ定ムヘシ

第三百七十八條 當事者ハ通常ノ裁判日ニ於テハ豫メ期日ノ指定ナクシテ裁判所ニ出頭シ訴訟ニ付キ辯論ヲ爲スコトヲ得

此場合ニ於テ訴ノ提起ハ口頭ノ演述ヲ以テ之ヲ爲ス

(解) 以上ニケ條ハ別ニ説明スルノ要ナシト雖、第三百七十八條ノ「通常ノ裁判日」トハ如何ナルモノナルヤ短簡ニ説明スルノ要アリ通常ノ裁判日トハ區裁判所カ事務章定ニ依リ民事訴訟事件ヲ裁判スヘキ日例ハ何時ヨリ何時マテトシ以テ裁判日ヲ定メ之ヲ公衆ニ示シタルモノヲ云フ

第三百七十九條 數箇ノ妨訴ノ抗辯ヲ本案ノ辯論前同時ニ提出ス可キ規定ハ裁判所管轄違



ノ抗辯ニ限り之ヲ適用ス

被告ハ妨訴ノ抗辯ニ基キ本案ノ辯論ヲ拒ム權利ナシ然レトモ裁判所ハ職權ヲ以テ右抗辯ニ付キ分離シタル辯論ヲ命スルコトヲ得

(解) 地方裁判所ニ於ケル數個ノ妨訴ノ抗辯ヲ本案ノ辯論前同時ニ提出スヘキ規定ハ區裁判所ニ於テハ單ニ管轄違ノ抗辯ニ限り之ヲ適用スルモノトス何トナレハ被告カ管轄違ノ抗辯ヲ爲サシテ本案ノ辯論ヲ爲シタルトキハ管轄ニ付キ合意アリタルモノト看做ストナ得レハナリ而シテ被告ハ妨訴ノ抗辯ニ基キ別ニ本案ノ辯論ヲ拒絶スル權利ナ有スルヲナシ併シナカラ裁判所カ職權ヲ以テテスルキニ限り其抗辯ニ付キ分離シタル辯論ヲ命スルヲ得ルナリ

第三百八十條 第二百二十二條、第二百六十六條乃至第二百七十二條ノ規定ハ區裁判所ノ訴訟手續ニ之ヲ適用セス

然レトモ原告若クハ被告ノ申立及ヒ陳述ハ裁判所ノ意見ニ從ヒ訴訟關係ヲ十分ニ明確ナラシムル爲メ必要ナルモノニ限り調書ヲ以テ之ヲ明確ナラシム可シ

第三百八十一條 訴ヲ起サントスル者ハ和解ノ爲メ請求ノ目的物ヲ開示シテ相手方ヲ其普通裁判籍ヲ有スル區裁判所ニ呼出ス可キコトヲ得其申立ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

當事者雙方出頭シ和解ノ調ヒタルトキハ調書ヲ以テ之ヲ明確ナラシム可シ

和解ノ調ハサルトキハ當事者雙方ノ申立ニ因リ其訴訟ニ付キ直チニ辯論ヲ爲ス此場合ニ於ケル訴ノ提起ハ口頭ノ演述ヲ以テ之ヲ爲ス

相手方カ出頭セス又ハ和解ノ調ハルトキハ此カ爲ニ生シタル費用ハ訴訟費用ノ一分ト看做ス

以上ニテ條ハ簡明ニ付キ別ニ説明スルノ要ヲ見ス

第二節 督促手續

(解) 促手續ハ通常ノ訴訟手續ニ依ラス頗フル簡易ナル方法ヲ以テ或訴訟ヲ完結シ其執行ヲ爲ストナ得セシムル特別ナル手續ヲ云フ

第三百八十二條 一定ノ金額ノ支拂其他ノ代替物若クハ有價證券ノ一定ノ數量ノ給付ヲ目的トスル請求ニ付キ債權者ハ通常ノ訴訟手續ニ依ラスシテ督促手續ニ依リ條件附ノ支拂命令ヲ債務者ニ對シ發センコトヲ申立ルコトヲ得

申請ノ旨趣ニ依レハ申請者反對給付ヲ爲スニ非サレハ其請求ヲ主張スルコトヲ得サルトキハ支拂命令ノ送達ヲ外國ニ於テ爲シ若クハ公示送達ヲ以テ爲スコキトキハ督促手續ヲ許サス

(解) 本案ハ債權者カ通常ノ訴訟手續ニ依ラスシテ督促手續ニ依リ條件附ノ支拂命令ヲ債務者ニ對シ發センコトヲ申



立ツルヲ得ル場合ヲ定メタルモノニシテ即チ

(甲) 一定ノ金額ノ支拂ヲ目的トスル請求ナルトキ

(乙) 一定ノ金額以外ノ代替物ノ給付ヲ目的トスル請求ナルトキ

(丙) 有價証券ノ一定ノ數量ノ給付ヲ目的トスル請求ナルトキ

是ナリ然レトモ以上三場合ノ中其一場合アルトキハ總テ督促手續ヲ許スヘキモノナリト誤解スル勿レ何トナレハ本條

第二項ノ場合ニ於テハ督促手續ノ申立ヲ爲スト雖法律ハ之ヲ許可セサルニ依リテ明カナリ

第三百八十三條 支拂命令ハ區裁判所之ヲ發ス

此命令ハ區裁判所ノ第一審ノ事物ノ管轄ノ制限ナキモノト看做シ通常ノ訴訟手續ニ於ケ

ル訴ノ提起ニ付キ普通裁判籍又ハ不動産上裁判籍ノ屬ス可キ區裁判所ノ管轄ニ專屬ス

(解) 本條ハ支拂命令ヲ發スル裁判所ハ區裁判ニシテ而モ區裁判所ハ專屬管轄權ヲ有スルモノト規定シタリ

第三百八十四條 支拂命令ヲ發スルコトノ申請ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

此申請ハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス

第一 當事者及ヒ裁判所ノ表示

第二 請求ノ一定ノ數額、目的物及ヒ原因ノ表示若シ請求ノ數個ナルトキハ其各箇一定

ノ數額、目的物及ヒ原因ノ表示

第三 支拂命令ヲ發センコトノ申立

(解) 本條ハ支拂命令ノ申請ヲ爲ス方法及ヒ其申請ノ條件ヲ定メタル者ナリ

第三百八十五條 裁判所ハ申請ヲ調査シ其申請力前三條ノ規定ニ適當セス又ハ申請ノ旨趣

ニ於テ請求ノ理由ナク又ハ現時理由ナキコトノ顯ハルルトキハ其申請ヲ却下ス

請求ノ一分ノミニ付支拂命令ヲ發スルコトヲ得サルトキハ亦其申請ヲ却下ス然レトモ數

箇ノ請求中或ルモノニ理由ナクシテ其他ノモノニ理由アリト見ユルトキハ其理由アリト

見ユルモノニ限り申請ヲ許容ス

右却下ノ命令ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス然レトモ通常ノ訴訟手續ニ依リ訴追

スルヲ妨クルコト無シ

(解) 本條ハ區裁判所カ支拂命令ノ申請ヲ調査シタル結果之ヲ却下スヘキ場合ニ付テノ原則其原則ニ對スル例外及

ヒ右却下ノ命令ニ對シテハ申請者ニ不服ノ權ナキヲ等ニ關スル規定ナリ

第三百八十六條 支拂命令ハ豫メ債務者ヲ審訊セスシテ之ヲ發ス

支拂命令ニハ第三百八十四條第一號及ヒ第二號ニ掲ケタル申請ノ要件ヲ記載シ且即時ノ

強制執行ヲ避ケント欲セハ此命令送達ノ日ヨリ十四日ノ期間内ニ請求ヲ満足セシメ及ヒ

其手續ノ費用ニ付キ定ムル數額ヲ債權者ニ辨濟ス可ク又ハ裁判所ニ異議ヲ申立ツ可キ旨



ノ債務者ニ對スル命令ヲ記載ス可シ  
前項ノ期間ハ爲替ヨリ生スル請求ニ付テハ二十四時間其他ノ請求ニ付テハ申立ニ因リ三日マテニ之ヲ短縮スルコトヲ得

(解) 支拂命令ハ簡易ナル手續ニ屬スルヲ以テ區裁判所ハ豫メ之ヲ發スルニ當リ債務者ヲ審訊スルノ必要ヲ見ス是レ本條第一項ノ設ケアル理由ナリ  
第二項及ヒ第三項ハ規定明瞭ナルカ故ニ説明ノ要ナシ

第三百八十七條 權利拘束ノ効力ハ支拂命令ヲ債務者ニ送達スルヲ以テ始マル支拂命令ノ送達ハ之ヲ債權者ニ通知ス可シ

(解) 區裁判所ニ於ケル權利拘束ノ効力モ亦第九十五條ノ權利拘束ト同一ノ精神ニ出テ支拂命令ヲ債務者ニ送達スルニ依リテ開始ス而シテ支拂命令ノ送達ハ裁判所書記ヨリシテ之ヲ債權者ニ通知セサル可ラス何トナレハ裁判所書記ノ通知ナカリセハ債權者ハ何時ニ支拂命令ノ送達アリタルヲ知ル能ハサレハナリ

第三百八十八條 債務者ハ支拂命令ニ對シ書面又ハ口頭ヲ以テ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

(解) 債務者ハ支拂命令ニ對シ異議ヲ申立ツル權利アリ故ニ本條ハ其異議ノ申立ヲ爲スニハ書面ニテモ又ハ口頭ニテモ可ナル旨ヲ示シタリ

第三百八十九條 債務者カ請求ノ全部又ハ一分ニ對シ適當ナル時間ニ異議ヲ申立ツルトキ

ハ支拂命令ノ効力ヲ失フ然レトモ權利拘束ノ効力ヲ存続ス

數箇ノ請求中或ルモノニ對シ異議ヲ申立テタルトキハ支拂命令ハ其他ノ請求及ヒ之ニ相當スル費用ノ部分ニ付キ効力ヲ有ス

(解) 本條ハ支拂命令ノ効力ニ關シテ規定セリ殊ニ第一項ハ支拂命令カ効力ヲ失フ場合ニ關セリ即チ債務者カ請求ノ全部タルト將タ一部タルトナ間ハ適當ナル時間ニ異議ヲ申立ツル場合ヲ云フ此場合ニ於テハ支拂命令ノ効力ヲ失フヘシト雖權利拘束ノ効力ニ至テハ何等ノ影響ヲ及ホスナク依然トシテ其効力ヲ存続スルナリ

第二項ハ第一項ト異ナリ二個以上ノ請求中或ルモノニ對シ異議ヲ申立テタル場合ニ於ケル支拂命令ノ効力ニ關シテ定ム此場合ニ於ケル効力タルヤ其他ノ請求及ヒ之ニ相當スル費用ノ部分ニ付テノミ有スル者トス

第三百九十條 適當ナル時間ニ異議ヲ申立テタル場合ニ於テ請求ニ付キ起ス可キ訴カ區裁判所ノ管轄ニ屬スルトキハ其訴ハ支拂命令ノ送達ト同時ニ區裁判所ニ之ヲ起シタルモノト看做ス其口頭辯論ノ期日ハ第三百七十七條ノ規定ニ從ヒテ之ヲ定ム

第三百九十一條 請求ニ付キ起ス可キ訴カ地方裁判所ノ管轄ニ屬スル場合ニ於テハ適當ナル時間ニ異議ノ申立アリタルコトヲ債權者ニ通知ス可シ

債權者其通知書ノ送達アリタル日ヨリ起算シ一个月ノ期間内ニ管轄裁判所ニ訴ヲ起ササルトキニハ權利拘束ノ効力ヲ失フ



以上二ヶ條ハ法文簡易ニ付キ説明スルノ要ナシ故ニ左ニ第三百九十一條ニ關スル實例ノミヲ掲グ

(實例) ○貸金請求件 三十一年第九十八號  
三十二年一月十九日

大審院ノ判決要旨左ノ如シ

支拂命令ノ申請ニ依リ裁判所カ債務者ニ向ケ其命令ヲ發シタルトキハ時効中斷ノ效果ヲ生スルモ若シ債務者カ之ニ對シ異議ヲ申立テタル場合ニ於テハ其事件地方裁判所ノ管轄ニ屬スルトキハ民事訴訟法第三百九十一條第二項ノ手續ヲ爲スニアラサレハ既ニ爲シタル支拂命令ノ申請ハ時効中斷ノ效果ヲ保續スルコトヲ得ス

第三百九十二條 督促手續ノ費用ハ適當ナル時間ニ異議ノ申立アリタル場合ニ於テハ起ス可キ訴訟ノ費用ノ一分ト看做ス

前條ノ場合ニ於テ期間内ニ訴ヲ起ササル片ハ手續ノ費用ハ債權者ノ負擔ニ歸ス

(解) 本條ハ督促手續ノ費用ニ關スルモノナリ此種ノ費用ハ適當ナル時間ニ異議ノ申立アル場合ニ於テハ起訴スヘキ訴訟費用ノ一部ト看做シ訴訟費用ト共ニ之ヲ裁判スルモノトス併シナカラ債權者ニ於テ異議ノ通知後一ヶ月内ニ訴ヲ起サルトキハ爲メニ督促手續ハ全ク其效果ヲ失フニ至ルヘシ故ニ此場合ニ於テハ督促手續ノ費用ハ常ニ債權者ニ於テ之ヲ負担セサル可ラサルモノトス

第三百九十三條 支拂命令ハ其命令中ニ掲ケタル期間ノ經過後債權者ノ申請ニ因リ之ヲ假

ニ執行シ得ヘキコトヲ宣言ス但假執行ノ宣言前債務者異議ヲ申立テサルトキニ限ル  
右假執行ノ宣言ハ支拂命令ニ付ス可キ執行命令ヲ以テ之ヲ爲ス其執行命令ニハ債權者ニ於テ計算スル手續ノ費用ヲ掲ク可シ

債權者ノ申請ヲ却下スル決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第三百九十四條 執行命令ハ假執行ノ宣言ヲ付シタル闕席判決ト同一ナリトス其執行命令ニ對シテハ第二百五十五條乃至第二百六十四條ノ規定ニ從ヒテ故障ヲ申立ツルコトヲ得  
請求カ區裁判所ノ管轄ニ屬セサルトキハ區裁判所ハ其故障ヲ法律上ノ方式及ヒ期間ニ於テ申立テタルヤノ點ノミニ付キ辯論及ヒ裁判ヲ爲ス此場合ニ於テハ第三百九十一條第二項ニ定メタル期間ニ故障ヲ許ス判決ノ確定ヲ以テ始マル

以上二ヶ條ハ規定ノ意義別ニ説明スルノ要ヲ見ス

第三百九十五條 時期ニ後レテ申立テタル異議ハ命令ヲ以テ之ヲ却下ス  
此却下ノ命令ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

(解) 本條ハ時期ニ後レテ申立テタル異議ノ却下及ヒ此却下ノ命令ニ對シテ不服ヲ申立ツル權利ナキ旨ヲ明カニセ  
法文ニ所謂「時期ニ後レテ申立テタル異議」トハ第三百八十六條第二項所定ノ十四日ノ期間經過後ニ申立テタル異議ヲ



### 第三編 上訴

謂フ

(定義) 上訴トハ下級裁判所ノ下シタル未確定ノ裁判ニ對シ其不服ヲ上訴裁判所ニ訴ヘ以テ權利救済ヲ求ムル方法ヲ云フ

(種類) 上訴ニハ三種アリ曰ク控訴(本編第一章)曰ク上告(本編第二章)曰ク抗告(本編第三章)即チ是ナリ以下各章ニ於テ之ヲ説明セシ

#### 第一章 控訴

第三百九十六條 控訴ハ區裁判所又ハ地方裁判所ノ第一審ニ於テ爲シタル終局判決ニ對シテ之ヲ爲ス

(解) 本條ハ控訴ハ如何ナル判決ニ對シテ爲スヲ得ルヤヲ明カニセリ夫レ法律上控訴スルヲ得ル判決ハ第一審裁判所ノ終局判決ナリ第一審裁判所ニハ區裁判所ト地方裁判所トニアルコトハ既ニ述ヘタル所ノ如シ故ニ茲ニ重複説明スルノ要ナシ唯本條ニ於テハ區裁判所カ第一審トシテ受理シタル事件ニ付キ終局判決ヲ爲シタルトキハ於テ原告若クハ被告カ其判決ニ對シテ不服ナルトキニ之ヲ地方裁判所ニ控訴シ又地方裁判所カ第一審トシテ受理シタル事件ニ付キ終局判決ヲ爲シタルトキニ於テ原告若クハ被告カ其判決ニ對シテ不服ナルトキハ之ヲ控訴院ニ控訴スルヲ得ル旨ヲ明カニスルハ足レリ

(實例) ○貸金請求件 二十八年第五百十九號 全年五月十一日

大審院ノ判決要旨左ノ如シ

獨立ナル上訴ハ總テ終局判決ト看做ス可ラサル中間判決ニ付テハ之ヲ許サス  
上訴ヲ爲スヲ得ルモノハ終局判決ナルカ若クハ終局判決ト看做ス可キモノナルコトヲ要ス

第三百九十七條 終局判決前ニ爲シタル裁判ハ亦控訴裁判所ノ判斷ヲ受ク但此法律ニ於テ不服ヲ申立ツルコトヲ得スト明記シタルトキ又ハ抗告ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得ルトキハ此限ニ在ラス

(解) 本條所定ノ「終局判決前ニ爲シタル裁判」トハ中間判決其他決定命令等ヲ謂フ此等ノ裁判モ終局判決ニ對スル控訴ト共ニ亦控訴裁判所ノ判斷ヲ受クルモノトス然レトモ本法各條項ニ於テ「不服ヲ申立ツル」ヲ得スト規定シタルトキ又ハ「抗告ヲ以テ不服ヲ申立ツル」ヲ得ル場合ニハ此限リニアラサルナリ

(實例) ○養嗣子離縁復籍要求件 明治三十年第五四〇號 全三十一年四月十九日

大審院ノ判決要旨左ノ如シ

訴訟ノ受繼ヲ許ス裁判ハ中間判決ナリ故ニ獨立ナル上訴ヲ許サス



第二百九十八條 闕席判決ニ對シテハ期日ヲ懈怠シタル者ヨリ控訴ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス但故障ヲ許ササル闕席判決ニ對シテハ懈怠ナカリシコトヲ理由トスルトキニ限り控訴ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得

(實例) ○不當相續取消請求件 三十二年第五十九號  
三十二年七月四日判決

大審院ノ判決要旨左ノ如シ

相手方ノ訴訟代理人カ合意ノ延期申請ヲ爲ス約束ニ背キタルカ爲メ期日ニ出頭セサルニ立チ至リ闕席判決ヲ受ケタル場合ノ如キハ民事訴訟法第三百九十八條但書ノ懈怠ナカリシコトノ中ニ包含セサルモノトス

第二百九十九條 控訴ハ口頭辯論ノ前ニ於テハ被控訴人ノ承諾ナクシテ之ヲ取下クルコトヲ得

控訴ノ取下ハ上訴權ヲ喪失スル結果ヲ生ス

(解) 本條ハ控訴ノ取下ニ關スル規定ニシテ第九十八條第一項ト其意義同一ナリ更ニ一言スレハ控訴モ第一審ニ於ケル訴ノ取下ト同シク口頭辯論ノ前ニ於テハ被控訴人ノ承諾ナクシテ之ヲ取下クルコトヲ得ルモ之ニ反シテ口頭辯論ノ後ナルトキハ被控訴人ノ承諾ナケレハ之ヲ取下クルコトヲ得サルナリ然レトモ控訴ノ取下ハ第一審ニ於ケル訴ノ取下ト異ナリ將來上訴權ヲ喪失スル結果ヲ生スルモノトス

第四百條 控訴期間ハ一个月トス此期間ハ不變期間ニシテ判決ノ送達ヲ以テ始ムル判決ノ送達前ニ提起シタル控訴ハ無効トス

第二百四十二條ノ規定ニ從ヒ控訴期間内ニ追加裁判ヲ以テ判決ヲ補充シタルトキハ控訴期間ノ進行中ハ最初ノ判決ニ對スル控訴ニ付テモ追加裁判ノ送達以テ始ムル

(解) 本條ハ控訴ノ期間ニ付テ規定シタルモノニシテ而モ法文明瞭ナルカ故ニ詳解ヲ附スルノ要ナシ

第四百一條 控訴ノ提起ハ控訴狀ヲ控訴裁判所ニ差出シテ之ヲ爲ス

此控訴狀ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス

第一 控訴セラルル判決ノ表示

第二 判決ニ對シ控訴ヲ爲ス旨ノ陳述

此他控訴狀ハ準備書面ニ關スル一般規定ニ從ヒテ之ヲ作り且判決ニ對シ如何ナル程度ニ於テ不服ナルヤ及ヒ判決ニ付キ如何ナル變更ヲ爲ス可キヤノ申立ヲ掲ケ若シ新ニ主張セントスル事實及ヒ證據方法アルトキハ其新ナル事實及ヒ證據方法ヲモ掲ク可シ

(解) 本條ハ控訴ノ提起及ヒ控訴狀ヲ作成スル方法ヲ定メタル者ニシテ前キニ説明シタル第九十條ノ規定ト其精神殆ント同一ナリ



(實例) 共有金算用取戻請求ノ件 明治三十一年第三百八號

全 三十二年五月二十日

大審院ノ判決要旨左ノ如シ

控訴狀ニ於ケル不服ノ程度ハ民事訴訟法第四百一條ニ規定シタル控訴狀ノ必要條件ニ  
アラス

第四百二條 判然許ス可カラサル控訴又ハ判然法律上ノ方式ニ適セス若クハ其期間ノ經過  
後ニ起シタル控訴ハ裁判長ノ命令ヲ以テ之ヲ却下ス  
此却下ノ命令ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

(解) 本條ハ裁判長ノ命令ヲ以テ却下スヘキ控訴及ヒ此却下ヲ命令シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得ル旨ヲ明ニセリ  
法文ニ所謂「判然許ス可カラサル控訴」トハ控訴ヲ爲シ得ヘキ事件外ノモノ例ヘハ第三百九十八條ノ如キヲ云ヒ「判然法  
律上ノ方式ニ適セス」トハ控訴狀ヲ作成スル方法ヲ定メタル第四百一條第二項ノ條件ヲ具備セサル場合ヲ云ヒ其期間  
ノ經過後ニ起シタル控訴」トハ一ヶ月ノ不變期間經過後ニ起シタル控訴ヲ云フナリ

第四百三條 控訴狀ノ送達ト口頭辯論ノ期日トノ間ニ存スルコトヲ要スル時間ニ付テハ第  
百九十四條ノ規定ヲ適用シ答辯書ヲ差出ス可キ期間ノ催告ニ付テハ第百九十九條ノ規定  
ヲ適用ス  
前項ノ場合ニ於テモ亦第二百三條ノ規定ヲ適用スルコトヲ得

(解) 本條ハ控訴狀ノ送達ト口頭辯論期日トノ間ニ存スルコトヲ要スル時間ニ付テハ地方裁判所ノ第一審ニ於ケル答  
辯書差出ノ期間即チ十四日ノ期間内(第九十條)ニ爲シ又答辯書ヲ差出スヘキ期間ノ催告ニ付テモ第百九十九條ヲ適用  
スヘキ旨及ヒ以上ノ各場合ニ於テモ亦第二百三條ノ規定ヲ適用スルヲ得ル旨ヲ規定シタルニ過キス

第四百四條 答辯書ハ準備書面ニ關スル一般ノ規定ニ從ヒテ之ヲ作り且被控訴人ノ一定ノ  
申立及ヒ其主張セントスル新ナル事實及ヒ證據方法ヲ掲ク可シ

第四百五條 被控訴人ハ自己ノ控訴ヲ拋棄シタルトキ又ハ控訴期間ノ經過シタルトキト雖  
モ附帶控訴ヲ爲スコトヲ得

關席判決ニ對シ附帶控訴ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトニ付テハ第三百九十八條ノ規定ニ從  
フ

(解) 此兩條ハ別ニ説明スルマテモナク第四百四條ハ控訴狀ニ對スル答辯書ノ作成ニ關シテ規定シ第四百五條ハ附  
帶控訴ニ關シテ規定シタルニ過キス  
法文ニ所謂「附帶控訴」トハ被控訴人カ獨立ナル控訴ヲナスシテ控訴人ノ控訴ニ付テノ口頭辯論ニ於テ第一審判決ニ  
對シ不服ヲ申立ツル方法ヲ謂フ

第四百六條 左ノ場合ニ於テハ附帶控訴ハ其効力ヲ失フ

第一 控訴ヲ不合法トシテ判決ヲ以テ棄却シタルトキ

第二 控訴ヲ取下ケタルトキ



然レトモ被控訴人カ控訴期間内ニ附帶控訴ヲ爲シタルトキハ之ヲ獨立ノ控訴ト看做ス

(解) 本條ハ附帶控訴カ效力ヲ失フ場合ヲ第一號及ヒ第二號ニ列記セリ然レトモ被控訴人カ控訴期間内(十四)ニ附帶控訴ヲ爲シタルトキハ法理上控訴ヲ拋棄若クハ懈怠ス可キ意思存セサリシモノト推定スルモ不可ナシ是ヲ以テ此場合ニ於テハ之ヲ獨立ノ控訴ト看做ス所以ナリ

第四百七條 答辯書ニ新ナル事實若クハ證據方法ヲ掲ケ又ハ附帶控訴ヲ爲ス旨ノ陳述ヲ掲ケタルトキハ之ヲ控訴人ニ送達ス可シ

第四百八條 右ノ外控訴ノ訴訟手續ニハ地方裁判所ノ第一審ノ訴訟手續ノ規定ヲ準用ス但本章ノ規定ニ依リ差異ノ生スルモノハ此限ニ在ラス

以上ニケ條ハ讀テ字ノ如ク別ニ説明スルノ要ナシ

第四百九條 當事者ニ雙方ヨリ控訴ヲ起シタルトキハ其兩控訴ニ付キ辯論及ヒ裁判ヲ同時ニ爲スヲ以テ通例トス

(解) 本條ハ一ノ判決ニ對シ原告及ヒ被告ノ兩方ヨリ控訴ヲ起シタル場合ニ關ス其場合ニ於テ其兩方ノ控訴ニ付キ辯論及ヒ裁判ヲ同時ニ爲ストキハ審判上頗フル便益多キヲ以テ法律ハ原則トシテ之ヲ分離スルヲナク同時ニ爲スヘキ旨ヲ明カニシタリ

第四百十條 口頭辯論ハ其期日ニ於テ被控訴人ノ控訴期間ノ未タ經過セサルトキハ其申立ニ因リ期間ノ滿了マテ之ヲ延期ス

闕席判決ヲ受ケタル原告若クハ被告ヨリ其判決ニ對シ故障ヲ申立テ相手方ヨリ控訴ヲ起シタルトキハ控訴ニ付テノ辯論及ヒ裁判ハ故障ノ完結マテ職權ヲ以テ之ヲ延期ス

(解) 本條ハ別ニ解説スルマテモナク控訴ニ付テノ辯論ヲ延期スルヲ得ル事項ヲ定メタル者ナリ

第四百十一條 控訴裁判所ニ於ケル訴訟ハ不服ノ申立ニ因リ定リタル範圍内ニ於テ更ニ之ヲ辯論ス

(解) 本條ハ控訴裁判所ニ於ケル訴訟ハ不服ノ申立ニ因リ定マリタル範圍内即チ第二百二十二條ニ從ヒ申立ツル範圍内ニ於テ更ニ之ヲ辯論スルモノトス

(實例) ○賃金請求件 明治三十年第六十九號 全年十月十二日

大審院ノ判決要旨左ノ如シ

控訴裁判所ハ不服ノ申立ニ因リ定マリタル範圍内ニ於テ更ニ訴訟ヲ裁判スルモノナリ

第四百十二條 當事者ハ控訴ノ申立及ヒ不服ヲ申立テラレタル裁判ノ當否ヲ明瞭ナラシムル爲メ必要ナル限リハ口頭辯論ノ際第一審ニ於ケル辯論ノ結果ヲ演述ス可シ  
演述ノ不正確又ハ不完全ナル場合ニ於テハ裁判長ハ其更正若クハ補充ヲ爲サシメ又必要



ナル場合ニ於テハ辯論ヲ再開シテ之ヲ爲サシム可シ

本條ハ意義明瞭ナルカ故ニ説明スルノ要ナシ

第四百十三條 訴ノ變更ハ相手方ノ承諾アルトキ雖モ之ヲ許サス

(解) 第九十五條第二項第五號ハ規定シテ曰ク原告ハ訴ノ原因ヲ變更スル權利ナシ但シ變更シタル訴ニ對シ本案ノ口頭辨論前被告カ異議ヲ述ヘサルトキハ權限ニ在ラスト然レトモ控訴審ニ至テハ第一審ノ訴訟手續ト異ナリ假令相手方ノ承諾アルトキト雖絕對的ニ訴ノ變更ハ許サルナリ

(實例) ○諏訪神社受持神官約定履行件 二十三年第四百二十號

二十四年五月七日

大審院ノ判決要旨左ノ如シ

控訴ニ付テ旨趣ヲ變更シタリトノ点明瞭ナラサルトキ本案起訴ノ旨趣ニ基キテ判斷スルモ決シテ不法ニアラス

第四百十四條 妨訴ノ抗辯ハ職權ヲ以テ調査ス可カラサルモノニシテ且原告若クハ被告カ其過失ニ非スシテ第一審ニ於テ提出シ能ハサリシコトヲ疏明スルニ限り之ヲ主張スルコトヲ得

本案ノ辯論ハ妨訴ノ抗辯ニ基キ之ヲ拒ムコトヲ得然レトモ裁判所ハ職權ヲ以テ妨訴ノ抗辯ニ付キ分離シタル辯論ヲ命スルコトヲ得

第四百十五條 當事者ハ第一審ニ於テ主張セサリシ攻撃防禦方法殊ニ新ナル事實及ヒ證據方法ヲ提出スルコトヲ得

第四百十六條 新ナル請求ハ第九十六條第二號及ヒ第三號ノ場合又ハ相殺スルコトヲ得ヘキモノニシテ且原告若クハ被告カ其過失ニ非スシテ第一審ニ於テ提出シ能ハサリシコトヲ證明スルトキニ限り之ヲ起スコトヲ得

第四百十七條 事實又ハ證書ニ付キ第一審ニ於テ爲サ、リシ陳述又ハ拒ミタル陳述ハ第二審ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

以上四ヶ條ハ一讀明瞭ナリ故ニ解説スルノ要ナシ

第四百十八條 第一審ニ於テ爲シタル裁判所上ノ自白ニ第二審ニ於テモ亦其效力ヲ有ス

(解) 本條ハ裁判所上ノ自白ニ關ス即チ第一審裁判所ニ於テ爲シタル自白ハ獨リ其裁判所ニ於テ效力ヲ有スルノミナラス第二審(控訴)裁判所ニ於テモ亦其效力ヲ有スルモノトス  
法文ニ所謂「裁判所上ノ自白」トハ原告若クハ被告カ裁判官ノ面前ニ於テ爲シタル自白ヲ云フ此ノ自白ニアラサレハ本條ニ於ケル效力ナシ從テ裁判所上ノ自白ハ決シテ效力ヲ有セサルヤ疑ナキナリ

(實例) ○小作契約不成立確認件 二十九年第三百四十三號

三十一年五月十八日

大審院ノ判決要旨左ノ如シ



裁判上ノ自白トハ獨リ口頭辯論中ニ發生シタルモノ、義ナリ

(實例) ○田用水使用權事件 三十二年第四八三號  
三十二年五月十八日

大審院ノ判決要旨左ノ如シ

裁判上ノ自白ハ一般ニ確實ナルモノト看做サ、ル可ラス故ニ相手方ヨリ舉證セサルモ  
裁判所ハ法律上ノ自白ニ基キテ舉證スヘキモノナリ

第四百十九條 控訴裁判所ハ控訴ヲ許ス可キヤ否ヤ又控訴ヲ法律上ノ方式ニ從ヒ若クハ其  
期間ニ於テ起シタルヤ否ヤヲ職權ヲ以テ調査ス可シ若シ此要件ノ一ヲ缺クトキハ判決ヲ  
以テ控訴ヲ不適法トシテ棄却ス可シ

(解) 本條ハ控訴裁判所カ職權ヲ以テ調査ス可キ要件ヲ定メタル者ニシテ左ノ如シ  
(甲)控訴ヲ許ス可キヤ否ヤ

(乙)控訴ヲ法律上ノ方式ニ從ヒテ起シタルヤ否ヤ

(丙)控訴ヲ法律上ノ期間内ニ起シタルヤ否ヤ

等ナリ從テ若シ此(甲)乃至(丙)ノ三要件中其要件タリトモ缺クトキハ控訴裁判所ハ控訴ヲ不適法トシテ棄却スヘシ然レト  
モ此棄却タルヤ判決ヲ以テシ決定命令ヲ以テスルコトナシトス

(實例) ○養女入籍並後見人等戶籍簿ニ登記請求件 明治二十七年第四百四十九號  
全廿八年三月二十七日

大審院ノ判決要旨左ノ如シ

民事訴訟法第四百十九條所定ノ「法律上ノ方式ニ適セサル控訴」トハ本法第四百一條第  
二項第一號及ヒ第二號ノ要件ヲ缺キ又ハ民事訴訟費用法第十一條ニ背反シタル控訴ヲ  
云フ故ニ控訴狀ニ當事者ノ資格ヲ明示セサルモ其控訴ヲ不適法トシテ棄却スルニ及ハ  
ス

第四百二十條 第一審ノ裁判ハ變更ヲ申立テタル部分ニ限り之ヲ變更スルコトヲ得

第四百二十一條 第一審ニ於テ是認シ又ハ非認シタル請求ニ關スル總テノ爭點ニシテ申立  
ニ從ヒ辯論及ヒ裁判ヲ必要トスルモノハ第一審ニ於テ又爭點ニ付キ辯論及ヒ裁判ヲ爲サ  
サルトキト雖モ控訴裁判所ニ於テ其辯論及ヒ裁判ヲ爲ス

本條ハ一讀明瞭ナルカ故ニ説明スルノ要ナシ

第四百二十二條 控訴裁判所ハ左ノ場合ニ於テ事件ニ付キ尙ホ辯論ヲ必要トスルトキハ其  
事件ヲ第一審裁判所ニ差戻ス可シ

第一 不服ヲ申立テラレタル判決カ闕席判決ナルトキ

第二 不服ヲ申立テラレタル判決カ闕席裁判ニ對スル故障ヲ不適法トシテ棄却シタルモ



ノナルトキ

第三 不服ヲ申立テラレタル判決カ妨訴ノ抗辯ノミニ付キ裁判ヲ爲シタルモノナルトキ

第四 請求カ其原因ノ數額ニ付キ争アル場合ニ於テ不服ヲ申立テラレタル判決カ先ツ其

原因ニ付キ裁判ヲ爲シタルモノナルトキ

第五 不服ヲ申立テラレタル判決カ證書訴訟及ヒ爲替訴訟ニ於テ敗訴ノ被告ニ別訴訟ヲ

以テ追行ヲ爲ス權ヲ留保シタルモノナルトキ

(解) 凡ソ形式ニ於テ欠缺ナキ控訴裁判所ニ於テ其訴訟事件ヲ完結スルハ原則トス然レトモ原則アレハ例外アリト  
ノ格言ニ依リ總テ此原則ニ依リテ其事件ヲ完結スル能ハサルナ故ニ本條及ヒ次條ハ特ニ其例外ヲ設ケタリ殊ニ本條ハ  
控訴裁判所カ訴訟事件ニ付キ尙ホ辯論ヲ必要ト認メタルトキハ其事件ヲ第一審裁判所ニ差戻ス可キ場合ヲ第一號乃至  
第五號ニ列記シタリ

(實例) ○闕席判決件 二十八年第一四二號  
同年六月十七日

大審院ノ判決要旨左ノ如シ

民事訴訟法第四百二十二條ニ規定シタル差戻ノ裁判ハ中間判決タリ故ニ獨立ナル上訴  
ヲ爲スコトヲ得サルモノトス

○借地權故障排斥件 二十九年第三五五號  
三十一年二月十日

大審院ノ判決要旨左ノ如シ

第二審ニ於テ第一審裁判所ニ差戻ス判決ハ中間判決ニ屬ス故ニ獨立シテ上訴スルヲ  
得ス

○損害賠償ノ件 明治三十一年第四五七號  
全三十二年三月三十一日

大審院ノ判決要旨左ノ如シ

民事訴訟法第四百二十二條第四號ニ該當スル場合ニ於テ尙ホ辯論ヲ必要トスル場合ニ  
ハ控訴裁判所ハ其事件ヲ第一審裁判所ニ差戻スヘキモノトス

第四百二十三條 第一審ニ於テ訴訟手續ニ於テノ規定ニ違背シタルトキハ控訴裁判所ハ其  
判決及ヒ違背シタル訴訟裁判ノ部分ヲ廢棄シ事件ヲ第一審裁判所ニ差戻スルコトヲ得

第四百二十四條 控訴ヲ理由ナシトスルトキハ判決ヲ以テ控訴ノ棄却ヲ言渡ス可シ

第四百二十五條 判決ヲ控訴人ノ不利益ニ變更スルコトハ相手方カ控訴又ハ附帶控訴ノ方  
法ヲ以テ判決ニ付キ不服ヲ申立テタル部分ニ限り之ヲ爲スコトヲ得

第四百二十六條 第二百十條ノ規定ニ從ヒテ防訴ノ方法ヲ却下スルトキハ其防訴ノ方法ヲ  
主張スル時ハ之ヲ被告ニ留保ス可シ



判決ニ此留保ヲ掲ケサルトキハ第二百四十二條ノ規定ニ從ヒテ判決ノ補充ヲ申立ツルコトヲ得

留保ヲ掲ケタル判決ハ上訴及ヒ強制執行ニ付テハ終局判決ト看做ス

第四百二十七條 防禦ノ方法ニシテ被告ニ其主張ヲ留保スルモノニ付テハ其訴訟ハ第二審ニ繫屬ス爾後ノ手續ニ於テ之ヲ主張シタル請求ノ理由ナカリシコトノ顯ハルルトキハ前判決ヲ廢棄シテ其訴ヲ棄却シ且申立ニ因リ判決ニ基キ支拂ヒタルモノ又ハ給付シタルモノヲ返還ス可キコトヲ言渡シ並ニ費用ニ付キ裁判ヲ爲ス可シ

第四百二十八條 控訴人カ口頭辯論ノ期日ニ出頭セサルトキハ出頭シタル被控訴人ノ申立ニ因リ闕席判決ヲ以テ控訴ノ棄却ヲ言渡スヘシ

第四百二十九條 被控訴人口頭辯論ノ期日ニ出頭セサル場合ニ於テ出頭シタル被控訴人ヨリ闕席判決ノ申立ヲ爲ストキハ第一審裁判ノ憑據ト爲リタルモノニ抵觸セサル控訴人ノ事實上ノ供述ハ被控訴人之ヲ自白シタルモノト看做シ且第一審裁判所ノ事實上ノ確定ヲ補充シ若クハ反駁スル爲メ控訴人ノ申立テタル適法ノ證據調ハ既ニ之ヲ爲シ及ヒ其結果ヲ得タルモノト看做シ闕席判決ヲ爲ス

以上第四百二十三條乃至第四百二十九條ハ意義然際別ニ解釋ヲ試ムル程ノ規定ニアラス故ニ説明ヲ省キタリ

第四百三十條 判決中ノ事實ノ摘示ニ付テハ前審ノ判決ヲ引用スコトヲ得

(解) 本條ハ第一審ノ判決ニ明示シタル事實ト第二審ニ提出シタル事實ト異ナラサルトキハ第二審即チ控訴裁判所ノ判事ハ其判決中ニ第一審ノ判決ニ明示セシ事實ノ摘示ヲ引用スルコトヲ得ルモノト爲シタリ

(實例) ○不法引渡地所建物取戻件 二十四年第三百四十三號  
二十五年二月二十六日

大審院ノ判決要旨左ノ如シ

控訴裁判所ハ事實ノ摘示ニ付キ第一審ノ判決ヲ引用スルコトヲ得ルカ故ニ特ニ事實ノ明示ヲ爲スノ要ナシ

第四百三十一條 控訴裁判所ノ書記ハ控訴狀ノ提出ヨリ二十四時間ニ第一審裁判所ノ書記ニ訴訟記録ノ送付ヲ求ム可シ

控訴完結ノ後其記録ハ第二審ニ於テ爲シタル判決ノ認證アル謄本ト共ニ第一審裁判所ノ書記ニ之ヲ返還ス可シ

(解) 本條ハ控訴裁判所書記ノ職務ニ關スル事項ヲ規定シタル者ナリ

(實例) ○欠席判決故障申立却下命令ニ對スル抗告件 明治二十九年抗告第十五號  
全年 五月二十八日



大審院ノ決定判旨左ノ如シ

本條ノ規定ニ基キテ認證シタル判決謄本ハ原本ニ代用スル効力ヲ有ス故ニ其認證謄本ニ依リ作成シタル正本ヲ受ケタル者ハ之ニ依リテ不變期間ヲ計算スヘキモノトス

### 第二章 上告

第四百三十二條 上告ハ地方裁判所及ヒ控訴院ノ第二審ニ於テ爲シタル終局判決ニ對シテ之ヲ爲ス

(解) 本條ハ上告ハ如何ナル判決ニ對シテ爲スコトヲ得ルヤヲ明カニセリ元來上告スルコトヲ得ル判決ハ第三審ノ終局判決ナリサレハ地方裁判所カ控訴審ナルトキハ控訴院之上告裁判所ト爲リ控訴院カ控訴審ナルトキハ大審院之上告裁判所ト爲ルナリ

第四百三十三條 終局判決前ニ爲シタル裁判ハ上告裁判所ノ判斷ヲ受ク但此法律ニ於テ不服ヲ申立ツルコトヲ得スト明記シタルトキ又ハ抗告ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得ルトキハ此限ニ在ラス

(解) 本條ハ控訴ニ關スル第三百九十七條同一ノ規定ナリ故ニ第三百九十七條ノ說明ト彼是對照スルコトヲ要ス然ルトキハ其意義自ラ明カナリ

第四百三十四條 上告ハ法律ニ違背シタル裁判ナルコトヲ理由トスルトキニ限り之ヲ爲ス

コトヲ得

(解) 上告裁判所ハ法律ノ統一ヲ專ラトスルモノナリ故ニ法律ニ違背シタル裁判ナルコトヲ理由トスルトキニ限り上告スルコトヲ得ヘシ從テ事實上ノ点ニ付テハ上告スルコトヲ得ス是レ控訴ト大ニ異ナル点ナリ

(實例) ○約定請求件 明治二十四年第二百八十七號 全二十五年二月十四日

大審院ノ判決要旨左ノ如シ

事實ノ確定ニ就テハ法律ニ違背シタルモノト云フコトヲ得ス從テ上告ノ理由トナラス

○衆議員議員當選無効件 二十六年第二百六號 全年 五月十七日

大審院ノ判決要旨左ノ如シ

原裁判所ニ於テ毫モ論述セサル事項ハ上告ノ理由トナラス

○印刷料請求件 二十六年第六百三十二號 二十七年六月十二日

大審院ノ判決要旨左ノ如シ

原裁判ニ申立テサル事柄ハ上告ノ理由トナラス

第四百三十五條 法則ヲ適用セス又ハ不當ニ適用シタルトキハ法律ニ違背シタルモノトス

(解) 本條ハ如何ナル場合ニ於テ法律ニ違背シタルモノト云フコトヲ得ヘキカ其定義ヲ明カニセリ而シテ本條ニ所謂



「法律ニ違背シ」トハ法則ヲ適用セス又ハ不當ニ適用シタルトキナ云フ法則トハ頗フル汎博ノ意味ヲ有シ例ヘハ公法タルト私法タルトナトナ問ハス或ハ主法タルト助法タルトナ論セス或ハ一般法タルト特別法タルトニ拘ハラヌ又ハ成文法タルト慣習法タルトナ問ハス總テ包含スル者ナリ

(解例) ○田用水口制限件 明治二十四年第八十九號  
全二十五年二月廿六日

大審院ノ判決要旨左ノ如シ

訴訟ノ趣旨ニ副ハサル裁判ハ上告ノ理由ト爲スコトヲ得ルニ依リ破毀ヲ免カレヌ

○白根暗礁進退差障解除件 二十四年第八十一號  
二十五年三月十日

大審院ノ判決要旨左ノ如シ

原被両造ノ申立以外ノ事物ヲ訴訟人ニ歸セシメタル判決ハ不法ナリ

第四百三十六條 裁判ハ左ノ場合ニ於テハ常ニ法律ニ違背シタルモノトス

第一 規定ニ從ヒ判決裁判所ヲ構成セサリシトキ

第二 法律ニ依リ職務ノ執行ヨリ除外セラレタル判事カ裁判ニ參與シタルトキ但忌避ノ申請又ハ上告ヲ以テ除外ノ理由ヲ主張シタルモ其效ナカリシトキハ此限ニ非ラス

第三 判事カ忌避セラレ且忌避ノ申請ヲ理由アリト認メタルニ拘ハラヌ裁判ニ參與シタルトキ

ルトキ

第四 裁判所管轄又ハ管轄違フ不當ニ認メタルトキ

第五 訴訟手續ニ於テ原告若クハ被告カ法律ノ規定ニ從ヒ代理セラレタリシトキ

第六 訴訟手續ノ公行ニ付テノ規定ニ違背シタル口頭辨論ニ基キ裁判ヲ爲シタルトキ

第七 裁判ニ理由ヲ付セサルトキ

(解) 本條第一號乃至第七號ニ列記シタル裁判ハ實際上不當ナル裁判ナ爲シタルヤ否ヤニ論ナク常ニ法律ニ違背シタルモノトセリ是レ他ダシ本條第一號乃至第七號ニ列記シタル裁判ハ公益ニ關スルカ故ニ絕對的ニ上告ノ理由ト爲シタルニ外ナラサルナリ

(實例) ○土地收用補償金額不服件 二十八年第二一七號  
全二十一年一月九日

大審院ノ判決要旨左ノ如シ

民事訴訟法第四百三十六條第七號ニ所謂「裁判ニ理由ヲ附セサルトキ」トハ全然理由ヲ欠缺シタルトキ又ハ其文詞曖昧ニシテ判決ヲ爲スニ至リタル裁判ノ思考知ルニ由ナキ場合ニ適用ス可キナリ(判旨第一点)

○株券引渡請求件 二十九年第五〇〇號  
三十年十一月十日



大審院ノ判決要旨左ノ如シ

本條第五號ト第四百六十八條第四號ハ其法文同一ナルモ法意異ナレリ即本條第五號ハ當事者カ自己ノ代理ニ欠缺アルト相手方代理ニ欠缺アルトヲ論セス共ニ上告ノ理由ト爲スヲ得ヘキモ之ニ反シテ第四百六十八條第四號ハ自己ノ代理ニ欠缺アル場合ノミヲ指示シタルモノニシテ相手方代理ニ欠缺アル場合ニ適用スヘキモノニアラサルナリ  
第四百三十七條 上告期間ハ一个月トス此期間ハ不變期間ニシテ判決ノ送達ヲ以テ始マル判決ノ送達前ニ提起シタル上告ハ無効トス

(解) 本條ハ上訴ノ場合ニ於ケル第四百條第一項及ヒ第二項ト同シク上告期間ニ付テ定メタル者ナリ

第四百三十八條 上告ノ提起ハ上告狀ヲ上告裁判所ニ差シテ之ヲ爲ス

此上告狀ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス

- 一 上告セララルル判決ノ表示
- 二 此判決ニ對シ上告ヲ爲ス旨ノ陳述

此他上告狀ハ準備書面ニ關スル一般ノ規定ニ從ヒテ之ヲ作り特ニ判決ニ對シ如何ナル程度ニ於テ不服ナルヤ及ヒ判決ニ付キ如何ナル程度ニテ破毀ヲ爲ス可キヤノ申立ヲ掲ケ且

法則ヲ適用セス若クハ不當ニ適用シタルコトヲ上告ノ理由トスルトキハ其法則ノ表示又ハ訴訟手續ニ付テノ規定ニ違背シタルコトヲ上告ノ理由トスルトキハ其欠缺ヲ明カニスル事實ノ表示又ハ法律ニ違背シテ事實ヲ確定シ若クハ遺脱シ若クハ提出シタリト看做シタルコトヲ上告ノ理由トスルトキハ其事實ノ表示ヲ掲ク可シ

(解) 本條ハ上告ノ提起及ヒ上告狀作成ノ方法等ニ關スル規定ニシテ畢竟第四百一條ト殆ント其趣旨ヲ同フスルナリ

(實例) ○預金請求件 三十年抗告第四十二號  
三十一年一月二十日

大審院ノ判決要旨左ノ如シ

判決ノ表示ハ其言渡ノ日付ニ付テ誤記アリト雖、其他ノ要件ニシテ記載シアレハ敢テ他ノ事件ト混淆セサルニ依リ決シテ不法ニアラス

第四百三十九條 上告裁判所ハ上告人ヲ呼出シ其陳述ヲ聽キ上告ヲ許ス可カラサルモノナルトキ又ハ法律上ノ方式及ヒ期間ニ於テ起ササルトキ又ハ第四百三十四條ノ規定ニ依ラサルトキハ判決ヲ以テ之ヲ棄却ス可シ

上告人カ呼出ノ期日ニ出頭セサルトキハ上告ヲ取下ケタルモノト看做ス但出頭セサリシ



コトヲ期日ヨリ七日ノ期間内ニ十分ナル理由ヲ以テ辨解シタルトキハ更ニ期日ヲ定ム  
(解) 本條ハ上告狀ノ正本ヲ被上告人ニ送達セシムル以前ニ上告裁判所ハ上告人ヲ呼出シ其陳述ノミヲ聽キ調査ス  
ヘキニ關スル規定ニ外ナラサルナリ

(實例) ○預金請求件 明治三十一年第一二二號  
全三十一一年十二月三日

大審院ノ判決要旨左ノ如シ

判決ノ主タル理由ニ付キ不法ノ点ナキ以上ハ其附加ノ理由ニ付キ不法ノ点アルモ之ヲ  
以テ上告ノ理由ト爲スコトヲ得ス依テ本條第一項ニ依リ棄却スルキモノトス

第四百四十條 上告狀ノ送達ト口頭辯論ノ期日トノ間ニ存スルコトヲ要スル時間ニ付テハ  
第九十九條ノ規定ヲ適用シ答辯書ヲ差出ス可キ時間ノ催告ニ付テハ第九十九條ノ規  
定ヲ適用ス

前項ノ場合ニ於テモ亦第二百三條ノ規定ヲ適用スルコトヲ得

第四百四十一條 答辯書ハ準備書面ニ關スル一般ノ規定ニ從ヒテ之ヲ作り且一定ノ申立ヲ  
掲ク可シ

第四百四十二條 被上告人ハ附帶上告ヲ爲スコトヲ得

此附帶上告ニ付テハ附帶控訴ノ規定ヲ準用ス

第四百四十三條 答辯書ニ附帶上告ヲ爲ス旨ノ陳述ヲ掲ケタルトキハ之ヲ上告人ニ送達ス  
可シ

第四百四十四條 右ノ外上告ノ訴訟手續ニハ地方裁判所ノ第一審ノ訴訟手續ノ規定ヲ準用  
ス但本章ノ規定ニ依リ差異ノ生スルモノハ此限ニ在ラス

第四百四十五條 上告裁判所ハ當事者ノ爲シタル申立ノミニ付キ調査ヲ爲ス

第四百四十六條 上告裁判所ハ裁判ヲ爲スニ付キ控訴裁判所カ其裁判ノ憑據トシタル事實  
ヲ標準トス此事實ノ外ハ第四百三十八條第三項ニ掲ケタル事實ニ限り之ヲ斟酌得スルコ  
トヲ得

證據調ヲ必要トスルトキハ上告裁判所ハ之ヲ命ス可シ

以上第四百四十條乃至第四百四十六條ハ一讀明瞭ナクカ故ニ説明ヲ會ケ

第四百四十七條 上告ヲ理由アリトスルトキハ不服ヲ申立テラレタル判決ヲ破毀ス可シ  
訴訟手續ニ關スル規定ニ違背シタルニ因リ判決ヲ破毀スルトキハ其違背シタル部分ニ限  
リ訴訟手續ヲモ亦破毀ス可シ



(解) 本條ハ上告裁判所ニ於ケル破毀ニ關スル規定ニシテ殊ニ第一項ハ上告裁判ガ上告人ノ上告ヲ理由アリト認ムル場合ニ關シテ規定セリ此場合於テハ不服ヲ申立ラレタル判決即チ控訴裁判所ノ判決ヲ破毀トス

第二項ハ訴訟手續ニ關スル規定ニ違背シタルニ因リ判決ヲ破毀スル場合ニ關シテ規定スル場合ニ於テ其違背シタル部分ニ付テノミ訴訟手續モ亦破毀スヘキモノトス

第四百四十八條 判決ヲ破毀スル場合ニ於テハ第四百五十一條ノ規定ヲ除ク外更ニ辯論及ヒ裁判ヲ爲サシムル爲メ事件ヲ控訴裁判所ニ差戻シ又ハ之ヲ他ノ同等ナル裁判所ニ移送ス可シ

事件ノ差戻又ハ移送ヲ受ケタル裁判所ハ新口頭辯論ニ基キ裁判ヲ爲スコトヲ要ス

第四百四十九條 當事者ハ破毀セラレタル判決ノ以前ニ於ル口頭辯論ニ當リ提出スルコトヲ得ヘカリシ事項ヲ新口頭辯論ニ際シ提出スル權利アリ

第四百五十條 差戻又ハ移送ヲ受ケタル裁判所ハ上告裁判所ノ爲シタル法律ニ係ル判斷ニシテ判決ヲ破毀スル基本ト爲シタルモノヲ以テ新ナル辯論及裁判ノ基本ト爲ス義務アリ

第四百五十一條 上告裁判所ハ左ノ場合ニ於テ事件ニ付キ裁判ヲ爲ス可シ

第一 確定シタル事實ニ法律ヲ適用スルニ當リ法律ニ違背シタル爲ニ判決ヲ破毀シ且其事件カ裁判ヲ爲スニ熟スルトキ

第二 無訴權ノ爲メ又ハ裁判所ノ管轄ナル爲ニ判決ヲ破毀スルトキ

第四百五十二條 上告ヲ理由ナシトスルトキハ之ヲ棄却ス可シ

以上五ヶ條ハ意義瞭然別ニ説明スルノ要ナ見ス

第四百五十三條 裁判カ其理由ニ於テ法律ニ違背シタルトキト雖モ他ノ理由ニ因リ裁判ノ正當ナルトキハ上告ヲ棄却ス可シ

(解) 本條ハ裁判カ其理由ニ於テ法律ニ違背シタルトキト雖、他ノ理由ニヨリ主文ニ掲ケル裁判カ正當ナルトキハ例外トシテ上告ヲ棄却スヘキモノト爲シタリ

(實例) ○債權取立件 明治二十四年第二〇五號  
全二十九年四月七日

大審院ノ判決要旨左ノ如シ

判決中ニ少許ノ瑕瑾アリト雖モ、大体ノ權利ニ影響ヲ及スヲナキトキハ破毀ノ理由トナラス

(實例) ○貸金請求件 二十六年第一二六號  
二十五年四月二十日

大審院ノ判決要旨左ノ如シ

事實上ノ誤認ハ他ニ相當ナル理由存シ結局相當ナル判決ニ歸スル判決ハ破毀スルコトヲ



得ス

第四百五十四條左ノ諸件ニ關スル控訴ノ規定ハ上告ニモ之ヲ準用ス

第一 闕席判決ニ對スル不服ノ申立

第二 控訴ノ取下

第三 當事者ノ雙方ヨリ起シタル場合ニ於ケル訴訟手續及ヒ控訴ト故障トヲ同時ニ爲シタルトキノ訴訟手續

第四 口頭辯論ノ延期

第五 口頭辯論ノ際ニ於ケル當事者ノ演述

第六 妨訴ノ抗辨ニ付テノ辨論

第七 控訴ヲ起シタル者ノ不利益ト爲ル裁判ヲ爲ス可カラサルコト

第八 記録ノ送付並ニ返還

(解) 本條ハ控訴ニ關スル規定中即チ本條第一號乃至第八號ニ列記シタル事項ニ該當スル規定ハ訴訟手續ノ便宜上上告ニ之ヲ準用スヘキ旨ヲ明カニセリ蓋シ上告ト云ヒ控訴ト云フモ皆ナ是レ上訴ノ一方法タルニ過キス故ニ其手續ニ於テモ亦同一ニ出ツルコトアルヲ免カレヌ是ヲ以テ本條ハ控訴ニ關スル規定中上告ニ準用スヘキ事項ヲ列記シタリ

得ス

### 第三章 抗 告

(解) 抗告トハ裁判所又ハ裁判長ノ決定若クハ命令ニ對シテ不服ヲ申立ツル上訴ノ一方法ナリ而シテ抗告ハ總テノ場合ニ於テ申立ツルコトヲ得ス一定ノ場合ニ限ルモノトス

第四百五十五條 抗告ハ訴訟手續ニ關スル申請ヲ口頭辯論ヲ經スシテ却下シタル裁判ニ對シ其他此法律ニ於テ特ニ掲ケタル場合ニ限り之ヲ爲スコトヲ得

(解) 本條ハ現行裁判所構成法ノ規定(現行裁判所構成法第二十六條第二號(ロ)、第三十七條第三號及ヒ第五十條第一號(ロ))ヨリ胚胎セリ即チ抗告ハ法律ニ規定シタル場合ニ限り之ヲ許スモノニシテ本條ノ規定ニ依レハ其場合ヲ大別シテ二種トスルコトヲ得

(甲) 訴訟手續ニ關スル申請ヲ口頭辯論ヲ經スシテ却下シタル裁判ニ對スル場合

(乙) 本法各條項ニ於テ特ニ抗告ヲ爲スコトヲ得ヘキ明文ヲ掲ケタル場合

第四百五十六條 抗告ニ付テハ直近ノ上級裁判所其裁判ヲ爲ス

抗告裁判所ノ裁判ニ對シテハ其裁判ニ因リ新ナル獨立ノ抗告理由ヲ生シタルトキニ非サレハ更ニ抗告ヲ爲スコトヲ得ス

(解) 本條ハ一讀以テ其意義ヲ知ルニ難カラス故ニ一ニ文字ニ付テ説明スレハ足レリ法文ニ所謂「直近上級裁判所」トハ前裁判所ヲ直接ニ管轄スル所ノ一級上級ノ裁判所ヲ云ヒ「新ナル抗告ノ理由」トハ前裁判所ニ於テ主張セザリシ新理由ヲ云フ

(實例) ○不動産競賣許可決定ニ對スル抗告ノ件 二十九年第抗告第五號 全年三月五日



大審院ノ決定要旨左ノ如シ

民事訴訟法第四百五十六條第二項所定ノ其裁判ニ因リ新ナル獨立ノ抗告理由ヲ生シタルトキトハ抗告裁判所カ形式上不適法トシテ棄却ノ裁判ヲ爲シ若クハ實質上下級裁判所ノ裁判ト反對シテ對手人ノ爲メ更ニ抗告ニ服スヘキ裁判ヲ爲シタル場合又ハ下級裁判ト結果ニ於テ同一ノ裁判ヲ爲スモ其裁判ニシテ裁判所構成法ノ規定ニ違背シ若クハ重要ナル訴訟手續ニ違背セルカ如キ場合ニ生スヘキ抗告理由ヲ云フ

第四百五十七條 抗告ハ不服ヲ申立テラレタル裁判ヲ爲シタル裁判所又ハ裁判長ノ屬スル裁判所ニ抗告狀ヲ差出シテ之ヲ爲ス

訴訟カ區裁判所ニ繫屬シ若クハ管テ繫屬シタルトキ又ハ證人、鑑定人ヨリ若クハ證書ヲ提出スル義務アリト宣言ヲ受ケタル第三者ヨリ抗告ヲ爲ストキハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スニトヲ得

第四百五十八條 抗告ハ新ナル事實及ヒ證據方法ヲ以テ證據ト爲スコトヲ得

(解) 以上二條ハ共ニ抗告ヲ爲ス方法ニ關スル規定ニシテ殊ニ第四百五十七條ハ抗告狀ヲ提起スヘキ裁判所及ヒ抗告狀ニ記載スヘキ事項ヲ口述シ且之ヲ書記(裁判所書記)ニ筆記セシメ其筆記即チ調書ヲ以テ抗告ヲ爲シ得ヘキ場合ヲ定メ第四百五十八條ハ抗告ノ證據ト爲スコトヲ得ルモノヲ定メタル者ナリ

第四百五十九條 不服ヲ申立テラレタル裁判ヲ爲シタル裁判所又ハ裁判長カ再度ノ考案若クハ新ナル提供ニ基キ抗告ヲ理由アリトスルトキハ不服ノ點ヲ更正シ又理由ナシトスルトキハ裁判所又ハ裁判長ハ意見ヲ付シテ三日ノ期間内ニ抗告ヲ抗告裁判所ニ送付シ又適當トスル場合ニ於テハ訴訟記録ヲモ送付可シ

第四百六十條 抗告ハ此法律ニ於テ別段ノ規定ヲ設ケタル場合ニ限り執行停止ノ效力ヲ有ス

然レトモ不服ヲ申立テラレタル裁判ヲ爲シタル裁判又ハ裁判長ハ抗告ニ付テノ裁判アルマテ其執行ノ中止ヲ命スルコト得

抗告裁判所ハ抗告ニ付テノ裁判ヲ爲ス前ニ不服ヲ申立テラレタル裁判ノ執行中止ヲ命スコトルヲ得

第四百六十一條 抗告ハ急迫ナル場合ニ限り直チニ抗告裁判所ニ之ヲ爲スコトヲ得

抗告裁判所ハ裁判ヲ爲ス前ニ不服ヲ申立テラレタル裁判又ハ裁判トノ意見及ヒ記録ヲ要求スルコトヲ得

抗告裁判所ハ事件ヲ急迫ナラスト認ムルトキハ不服ヲ申立テラレタル裁判ヲ爲シタル裁



判所又ハ裁判長ニ其事件ヲ送付シ且其旨ヲ抗告人ニ通知ス可シ

以上第四百五十九條乃至第四百六十一條ハ一讀明瞭ナルカ故ニ説明ヲ省ク

第四百六十二條 抗告裁判所ハ口頭辯論ヲ經スシテ裁判ヲ爲スヲ以テ通例トス

抗告裁判所ハ抗告人ト反對ノ利害關係ヲ有スル者ニ抗告ヲ通知シテ書面上ノ陳述ヲ爲サシムルコトヲ得

陳述ハ口頭ヲ以テ抗告ヲ爲シ得ヘキ場合ニ於テハ亦口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得  
抗告裁判所ハ口頭辯論ノ爲ニ當事者ヲ呼出スコトヲ得

(解) 本條ハ抗告裁判所ノ裁判ニ付テノ原則及ヒ例外ヲ定ム夫レ抗告ノ裁判所ナル者ハ判決裁判所ト異ナリ決定ノミヲ以テ裁判スル者ナレハ敢テ口頭辯論ノ原則ニ依ルノ必要ナシ是レ本條第一項ノ原則アル所以ナリ然レトモ此原則ニハ二個ノ例外アリ本條第三項及ヒ第四項是ナリ

法文ニ所謂「抗告人ト反對ノ利害關係ヲ有スル者」トハ其訴訟事件ノ原告若クハ被告又ハ鑑定人若クハ証人其他參加人等ノ如キヲ云ヒ「口頭ヲ以テ抗告ヲ爲シ得ヘキ場合」トハ第四百五十七條第二項ノ如キ場合ヲ云フ

第四百六十三條 抗告裁判所抗告ヲ許ス可キヤ否ヤ又法律上ノ方式ニ從ヒ若クハ其期間ニ於テ提出シタルヤ否ヤヲ職權ヲ以テ調査ス可シ

若シ此要件ノ一ヲ缺クトキハ抗告ヲ不適法トシテ棄却ス可シ

(解) 本條ハ故障ノ申立ニ關スル第二百五十九條及ヒ控訴裁判所カ職權ヲ以テ調査スヘキ要件ヲ定メタル第四百十九條等ノ規定ニ倣ヒテ規定シタル者ナリ

第四百六十四條 抗告ヲ適法ニシテ且理由アリトズルトキハ抗告裁判所ハ不服ヲ申立テラレタル裁判ヲ廢棄シテ自ら更ニ裁判ヲ爲シ又ハ不服ヲ申立テラレタル裁判ヲ爲シタル裁判所又ハ裁判長ニ委任シテ裁判ヲ爲サシムルコトヲ得

抗告裁判所ノ裁判ハ不服ヲ申立テラレタル裁判ヲ爲シタル裁判所又ハ裁判長ニ之ヲ通知ス可シ

第四百六十五條 受命判事若クハ受託判事ノ裁判又ハ裁判所書記ノ處分ノ變更ヲ求ムルニハ先ツ受訴裁判所ノ裁判ヲ求ム可シ

抗告ハ受訴裁判所ノ裁判ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得

第一項ノ規定ハ大審院ニモ亦之ヲ適用ス

以上二ヶ條ハ一讀明瞭ナルカ故ニ説明スルノ要ナシ

第四百六十六條 即時抗告ノ場合ニ於テハ左ノ特別ノ規定ニ從フ

抗告ハ七日ノ不變期間内ニ之ヲ爲ス可シ其期間ハ裁判ノ送達ヨリ始マリ第二百五十三條、第六百八十條及ヒ第七百六十九條第三項ノ場合ニ於テハ裁判ノ言渡ヨリ始マル抗告



裁判所ニ抗告ヲ提出シタルトキハ急迫テラスト認めタル場合ニ於テモ亦不變期間ヲ保存ス

再審ヲ求ムル訴ニ付テノ要件存スルトキハ不變期間内滿了後ト雖モ此訴ノ爲メ定メタル期間内ハ抗告ヲ爲スコトヲ得

前條第一項ノ場合ニ於テハ抗告提出ノ爲メ定メタル方法ニ依リ不變期間内ニ受訴裁判所ノ裁判ヲ求ムルコトヲ要ス受訴裁判所ハ其申請ヲ正當ト認めサルトキハ之ヲ抗告裁判所ニ送附ス可シ

(解) 抑モ即時抗告ハ本法中ノ各條項ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得ヘキ旨ヲ規定ニシタル場合ニ限り之ヲ許スヘシ本條ハ此即時抗告ニ關スル特別ナル手續ヲ第二項乃至第四項ニ規シタル者ナリ

### 第四編 再審

第四百六十七條 確定ノ終局判決ヲ以テ終結シタル訴訟ハ取消ノ訴又ハ原狀回復ノ訴ニ因リ之ヲ再審スルコトヲ得

當事者ノ一方又ハ雙方ヨリ此兩訴ヲ起シタルトキハ原狀回復ノ訴ニ因リ之ヲ再審スルコトヲ得

トヲ得

當事者ノ一方又ハ雙方ヨリ此兩訴ヲ起シタルトキハ原狀回復ノ訴ニ付テノ辨論及ヒ裁判ハ取消ノ訴ニ付テノ裁判力確定スルマテ之ヲ中止ス可シ

(解) 本條第一項ハ再審ヲ爲スコトヲ得ルニハ如何ナル場合ナリヤチ定ム再審トハ既ニ確定シタル終局判決ニ依テ判決シタル事件ニ付キ再審ヲ爲ス手續ヲ云フ、サレバ再審ハ確定判決ヲ動かカス效力ヲ有スヘシ而シテ之ヲ動かスニ當リテハ二個ノ方法アリ何ソヤ一ハ取消ノ訴ニシテ一ハ原狀回復ノ訴ナリトス

第二項ハ當事者ノ一方又ハ雙方ヨリ再審ノ訴即チ取消ノ訴ト原狀回復ノ訴ト並ヒ起シタル場合ニ關シテ定ム此場合ニ於テハ裁判所ハ職權ヲ以テ原狀回復ニ付テノ辨論及ヒ裁判ハ取消ノ訴ニ付テノ裁判力確定スルマテ之ヲ中止ヲ命スル者トス

(實例) ○地代金請求件 二十七年第四四一號 二十八年三月三十日

大審院ノ判決要旨左ノ如シ

原告若クハ被告カ法律ノ規定ニ從ヒ訴訟手續上有効ニ代理セラレサルトキハ取消ノ訴ニヨリ請求スルコトヲ得 確定判決ハ再審ノ訴ニ依リテ取消スコトヲ得ルモノトス

第四百六十八條 左ノ場合ニ於テハ取消ノ訴ニ因リ再審ヲ求ムルコトヲ得

第一 規定ニ從ヒ判決裁判所ヲ構成セサリシトキ



第二 法律ニ依リ職務ノ執行ヨリ除斥セラレタル判事カ裁判ニ參與シタルトキ但忌避ノ申請又ハ上訴ヲ以テ除斥ノ理由ヲ主張シタルモ其効ナカリシトキハ此限ニ在ラス

第三 判事カ忌避セラレ且忌避ノ申請カ理由アリト認めラレタルニ拘ハラズ裁判ニ參與シタリシトキ

第四 訴訟手續ニ於テ原告若クハ被告カ法律ノ規定ニ從ヒ代理セラレサリシトキ

第一號及ヒ第三號ノ場合ニ於テ上訴若クハ故障ヲ以テ取消ヲ主張シ得ヘカリシトキハ取消ノ訴ヲ許サス

(解) 本條第一號乃至第四號ニ列記ノ事項ハ取消ノ訴ニ依リ再審ヲ求ムルヲ得ル場合ヲ定メタル者ナリ而シテ右ノ中第一號及ヒ第三號ノ場合ハ第二號及ヒ第四號ノ場合トコトナリ上訴若クハ故障ヲ以テ取消ヲ主張ス可ヘカリシトキハ取消ノ訴ヲ爲スヲ得サルナリ

第四百六十九條 左ノ場合ニ於テハ原狀回復ノ訴ニ因リ再審ヲ求ムルコトヲ得

- 第一 刑法ニ掲ケタル職務上ノ義務ニ違背シタル罪ヲ訴訟ニ關シタル判事カ裁判ニ參與シタリシトキ
- 第二 原告若クハ被告ノ法律上代理人若クハ訴訟代理人又ハ相手方若クハ其法律上代理人若クハ訴訟代理人カ罰セラル可キ行爲ヲ訴訟ニ關シテ爲シタリシトキ

第三 判決ノ憑據ト爲リタル證書カ偽造又ハ變造ナリシトキ

第四 證人若クハ鑑定人カ供述ニ因リ又ハ通事カ判決ノ憑據ト爲リタル通譯ニ因リ偽證ノ罪ヲ犯シタリシトキ

第五 判決ノ憑據ト爲リタル刑事上ノ判決ガ他ノ確定ト爲リタル刑事上ノ判決ヲ以テ廢棄若クハ破毀セラレタリシトキ

第六 原告若クハ被告カ同一ノ事件ニ付テノ判決ニシテ前ニ確定ト爲リタルモノヲ發シ其判決カ不服ヲ申立テラレタル判決ト牴觸スルトキ

第七 相手方若クハ第三者ノ所爲ニ依リ以前ニ提出スルコトヲ得サリシ證書ニシテ原告若クハ被告ノ利益ト爲ル可キ裁判ヲ爲スニ至ラシム可キモノヲ發見シタルトキ

第一號乃至第四號ノ場合ニ於テハ罰セラル可キ行爲ニ付テ判決カ確定ト爲リタルトキ又ハ證據欠缺外ナル理由ヲ以テ刑事訴訟手續ノ開始若クハ履行ヲ爲シ得サルトキニ限り再審ヲ求ムルコトヲ得

(解) 本條ハ前條ノ規定ト異ナリ原狀回復ノ訴ニ因リ再審ヲ求ムルヲ得ル場合ヲ第一號乃至第七號ニ列記シタリ然レトモ第一號乃至第四號ノ場合ニ於テハ第五號乃至第七號ノ場合ト異ナリ罰セラルヘキ行爲ニ付テ判事カ確定ト爲リタルトキ又ハ證據欠缺外ナル理由ヲ以テ刑事訴訟手續ノ開始若クハ履行シ得サルトキニ限り再審ヲ求ムルヲ得ルナ



（實例） ○貸金請求訴訟再審件 明治三十一年第一八六號  
全三十二年二月十四日判決

大審院ノ判決要旨左ノ如シ

一再審ノ本案ニ付テ裁判ヲ爲スニ當リ再審ノ訴ヲ理由ナキモノトシテ不服ヲ申立テラレタル判決ト同一ノ判決ヲ爲スヘキ場合ニハ前判決ヲ維持スル旨ヲ言渡スヘキモノナリト雖其判決主文ニ不服ヲ申立テラレタル判決ト同趣旨ノ文字ヲ記載シテ言渡ヲ爲スモ局前判決ヲ維持スモノ旨趣ニ歸スルトキハ必スシモ不法ト云フヲ得ス

一 辨論ヲ再審許否ノ点ニ付テ制限シタル場合ニ其辨論ニ列席セサル判決カ再審許否ノ裁判ニ干與シタルハ不法タリ

一 民事訴訟法第四百六十九條第二號所定ノ「判決憑據ト爲リタル證書カ偽造ナリシトキ」ハ必スシモ訴訟當事者ノ偽造シタル事實アルヲ要スルモノニアラス

大審院ノ判決要旨左ノ如シ

本條第一號所定ノ「相手方若クハ第三者ノ所爲ニ依リ」トハ隱匿若クハ抑留等總テ提出ヲ妨クルノ所爲ヲ云フ

第四百七十條 原狀回復ノ訴ハ原告若クハ被告カ自己ノ過失ニ非スシテ前訴訟手續ニ於テ殊ニ故障又ハ控訴若クハ附帶控訴ニ依リ原狀回復ノ理由ヲ主張スルコト能ハサリシトキニ限り之ヲ爲スコトヲ得

（解） 本條ハ別ニ説明スルマテモナク原狀回復ノ訴ニ付テ適當ナル制限ヲ設ケタルニ過キス

（實例） ○地所建家名義書換請求原狀回復件 二十七年第五二一號  
二十八年六月十九日

大審院ノ判決要旨左ノ如シ

證書者ハ其使用セントスル證書カ第三者ノ手ニ存スルヲ信スルトキハ本法第三百四十二條第三百四十四條第三百四十條ニ依リテ之ヲ提出セシムルカ又ハ本人訊問ノ手續ヲ盡スヘキモノニシテ此法定ノ手續ニ據ラス漫然第三者ノ言ヲ信シ訴訟中其證書存在ノ事實スラ之ヲ申立サリシトキハ舉證者ニ於テ民事訴訟法第四百七十條ニ所謂自己過失ニアルヲ免カレサルニ依リ他日判決確定ノ後第三者ヨリ其證書ノ交付ヲ受クルモノヲ以テ再審ヲ求ムル原由ト爲スヲ得ス

第四七十一條 不服ヲ申立テラレタル判決前ニ同一ノ裁判所又ハ下級ノ裁判所ニ於テ爲シタル裁判ニ關スル不服ノ理由ハ再審ヲ求ムル訴ト共ニ之ヲ主張スルコトヲ得但不服ヲ申



立テラレタル判決カ其裁判ニ根據スルトキニ限ル  
本條ハ一讀明ナルカ故ニ説明ヲ省ク

第四百七十二條 再審ヲ求ムル訴ハ不服ヲ申立テラレタル裁判ヲ爲シタル裁判所ノ管轄ニ  
專屬ス

同一ノ事件ニ付キ一分ハ下級ノ裁判所又一分ハ上級ノ裁判所ニ於テ爲シタル數箇ノ判嵐  
ニ對スル訴ハ上級ノ管轄ニ專屬ス  
督促手續ニ依リ區裁判所ノ發シタル執行命令ニ對シ再審ヲ求ムル訴ハ其命令ヲ發シタル  
區裁判所ノ管轄ニ專屬ス然レトモ其請求カ區裁判所ノ管轄ニ屬セサルトキハ請求ニ付テ  
ノ訴訟ヲ管轄スル裁判所ニ專屬ス

(解) 本條ハ再審ヲ求ムル訴ノ專屬管轄裁判所ニ關スル規定ナリ此管轄裁判ハ不服ヲ申立ラレタル裁判所ヲ爲シタ  
ル裁判所ニ外ナラサルヘシ若シ同一ノ事件ニ付キ一部ハ下級ノ裁判所又一部ハ上級ノ裁判所ニ於テ爲シタル數箇ノ判  
決ニ對スル再審ノ訴アルトキハ如何ニスレハ可ナルカ斯ル場合ニ於テハ條理ノ上ヨリ立論スルトキハ各可ニ兩方ノ裁  
判所ニ再審ヲ求メサル可ラサルカ如キ感アリト雖、二個ノ同一ナル手續ヲ兩裁判所ニ於テ並ヒ行フハ頗フル煩雜ナル  
ヲ以テ之上級裁判所ニ併セテ管轄スルモノトセリ此管轄モ亦專屬ノモノナリトス  
督促手續ニ依リ區裁判所ノ發シタル執行命令ニ對シ再審ヲ求ムル訴ハ何レノ裁判所ノ管轄ニ屬スルヤ蓋シ執行命令ハ  
其欠席判決ノ確定シタルモノト同一ニ看做スヘキモノナルカ故ニ法律ハ其命令ヲ發シタル區裁判所ノ管轄ニ專屬スル

モノト規定セリ然レトモ其請求カ區裁判所ノ管轄ニ屬セサルトキハ請求ニ付テノ訴訟ヲ管轄スル裁判所ニ專屬スルナ

第四百七十三條 訴ノ提起及ヒ其後ノ訴訟手續ニハ以下數條ニ於テ別段ノ規定ヲ設ケサル

限リハ認訴ニ付キ辯論及ヒ裁判ヲ爲ス可キ裁判所ノ訴訟手續ニ關スル規定ヲ準用ス

(解) 本條ハ再審ノ訴ノ提起及ヒ其後ノ訴訟手續ニハ以下數條ニ於テ荷モ特別ノ規定ナキ以上ハ便宜上其訴ニ付キ  
辯論及ヒ裁判ヲ爲スヘキ裁判所ノ訴訟手續ニ關スル規定ヲ一般ニ準用スヘキ旨ヲ明カニシタリ

第四百七十四條 訴ハ一个月ノ不變期間内ニ之ヲ起ス可シ

此期間ハ原告若クハ被告カ不服ノ理由ヲ知リタル日ヲ以テ始マル若シ原告若クハ被告カ  
判決ノ確定前ニ不服ノ理由ヲ知リタルトキハ判決ノ確定ヲ以テ始マル

判決確定ノ日ヨリ起算シテ五年ノ滿了後ハ訴ヲ爲スコトヲ得ス  
前二項ノ規定ハ第四百六十八條第四號ノ場合之ヲ適用セス此場合ニ於テ其訴ノ提起ノ期  
間ハ原告若クハ被告又ハ其法律上代理人カ送達ニ依リ判決アリタルコトヲ知リタル日ヲ  
以テ始マル

(解) 本條ハ別ニ説明スルマテモナク再審ノ訴ニ關スル期間ニ付テ規定シタル者ナリ

第四百七十五條 訴狀ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス



第一 取消又ハ原狀回復ノ訴ヲ受クル判決ノ表示  
 第二 取消又ハ原狀回復ノ訴ヲ起ス旨ノ陳述

此他訴狀ハ準備書面ニ關スル一般ノ規定ニ從ヒテ之ヲ作り且不服ノ理由ノ揭示、此理由及ヒ不變期間ノ遵守ヲ明白ナラシムル事實ニ付テノ證據方法又如何ナル程度ニ於テ不服ヲ申立テラレタル判決ヲ廢棄若クハ破毀スベキヤノ申立又本案ニ付キ更ニ如何ナル裁判ヲ爲スベキヤノ申立ヲモ掲クベシ

(解) 本條ハ訴狀(再審ノ訴)ニ具備スルノ主要スル條件ニ關スル規定ニシテ就中第一項ハ必要條件ヲ列記セリ(第一號及ヒ)然レトモ第二項ノ條件ハ必要條件ニアラサルヲ以テ口頭辯論ノ終リマテハ他ノ不服ナル理由ヲ主張スルヲ得ヘシ但シ其理由ニ付テノ不變期間未タ經過セサルトキニ限ルヤ疑ナキナリ

第四百七十六條 判然許ス可カラサル訴又ハ判然法律上ノ方式ニ適セス若クハ其期間ノ經過後ニ起シタル訴ハ裁判長ノ命令ヲ以テ之ヲ却下ス可シ  
 此却下ノ命令ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

(解) 本條ハ裁判長ノ命令ヲ以テ却下スヘキ再審ノ訴及ヒ其命令ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得ル旨ヲ規定シタルモノニシテ畢竟控訴ニ關シル第四百二條ト殆ント其精神ヲ同フスルナリ

第四百七十七條 原告ハ口頭辯論ノ期日ニ於テ相手方ノ陳述ノ有無ニ拘ハラヌ再審ヲ求ム

ル理由及ヒ法律上ノ期間ノ遵守ヲ明白ニスル事實ヲ疏明ス可シ

第四百七十八條 判然許ス可カラサル訴又ハ法律上ノ方式ニ適セス若クハ其期間ノ經過後ニ起シタル訴ハ職權ヲ以テ判決ニ依リ不適法トシテ之ヲ棄却ス可シ

(解) 第四百七十七條ハ原告カ口頭辯論期日ニ於ケル理由及ヒ事實ノ疏明ニ關スル義務ヲ定メ第四百七十八條ハ裁判長カ職權ヲ以テ不適法トシテ棄却スヘキ再審ノ訴ニ付テ定メタル者ニシテ別ニ詳説スルノ要ヲ見ス

第四百七十九條 本案ニ付テノ辯論及ヒ裁判ハ不服申立ノ理由ノ存スル部分ニ限り更ニ之ヲ爲ス可シ

裁判所ハ本案ニ付テノ辯論前ニ再審ヲ求ムル理由及ヒ拒否ニ付キ辯論及ヒ裁判ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ本案ニ付テノ辯論ハ再審ヲ求ムル理由及ヒ拒否ニ付テノ辯論ノ續行ト看做ス

第四百八十條 原告ノ不利益ト爲ル判決ノ變更ハ相手方カ再審ヲ求ムル訴ヲ起シテ變更ヲ申立テタルトキニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第四百八十一條 訴カ上告裁判所ニ屬スルトキハ上告裁判所ハ再審ヲ求ムル理由及ヒ其拒否ニ付テノ辯論ノ完結カ係爭事實ノ確定及ヒ斟酌ニ繫ルトキト雖モ其完結ヲ爲ス可シ

第四百八十二條 上訴ハ訴ニ付キ裁判ヲ爲シタル裁判所ノ判決ニ對シ一般ニ爲スコトヲ得



ヘキトキニ限り之ヲ爲スコトヲ得

以上第四百七十九條乃至第四百八十二條ハ意義瞭然別ニ解釋ヲ試ムルノ要ヲ見サルナリ

第四百八十三條 第三者カ原告及ヒ被告ノ共謀ニ因リ第三者ノ債權ヲ詐害スル目的ヲ以テ

判決ヲ爲サシメタリト主張シ、其判決ニ對シ不服ヲ申立ツルトキハ原狀回復ノ訴ニ因レ  
ル再審ノ規定ヲ準用ス

此場合ニ於テハ原告及ヒ被告ヲ共同被告ト爲ス

(解) 本條ハ原狀回復ニ準シテ再審ヲ求ムルコトヲ許ス場合ヲ定ム但シ本條ニ定メタル場合ハ法律上純粹ノ原狀回復  
ト異ナルコト固ヨリ余カ喋々ヲ俟タズシテ明カナリ

### 第五編 證書訴訟及ヒ爲替訴訟

(總說) 本節ハ第四百八十四條ヨリ第四百九十三條マテ證書訴訟ニ關シテ規定シ第四百九十四條ヨリ第四百九十六  
條マテ爲替訴訟ニ關シテ規定シタリ

抑モ證書訴訟ノ目的トスル所ハ他ナシ其請求ニ關スル總テノ要件ヲ證書ニ依リ証スルコトヲ得ル場合ニ限り被告ニ通常  
ノ防禦方法ヲ主張スルコトヲ許サスシテ訴訟ヲ迅速ニ且簡易ニ完結セシムル便宜上ノ手續ニ外ナラス而シテ爲替訴訟ハ  
證書訴訟ノ一種ニシテ總テ商法ニ定メタル手形ニ因リ請求ヲ主張スル爲メノ訴訟手續ナリ

第四百八十四條 一定ノ金額ノ支拂其他ノ代替物若クハ有價證券ノ一定ノ數量ノ給付ヲ目

的トスル請求ヲ起ス理由タル總テノ必要ナル事實ヲ證書ニ依リ證スルコトヲ得ヘキトキ  
ハ證書訴訟ヲ以テ之ヲ主張スルコトヲ得

(解) 本條ハ證書訴訟トシテ訴ヲ起スコトヲ得ル條件ヲ定メタル者ニシテ左ノ如シ

(甲) 一定ノ金額ノ支拂其他ノ代替物若クハ有價證券ノ一定ノ數量ノ給付ヲ目的トスル請求ナルコト  
(乙) 其請求ヲ起ス理由タル總テノ必要ナル事實ヲ證書ニ依リ証スルコトヲ得ヘキト

即チ是ナリ要スルニ此二條件ハ所謂必要の條件ナルカ故ニ若シ其條件中其一ヲ欠クトキハ證書訴訟トシテ訴ヲ提起ス  
ルコトヲ得ザルヤ疑ナシ法文ニ所謂「一定ノ金額ノ支拂」トハ拂渡スヘキ一定ノ金額ヲ證書ニ基キ訴訟ヲ起ス一例ヘハ金  
貨ヲ以テ拂渡スヘシト云フカ如シ故ニ特定物ト看做スヘキ金額ハ證書訴訟ヲ以テ請求スルコトヲ得ス「代替物」トハ不代  
替物ニ對スル語ニシテ通例取引上同種類ノ物ヲ以テ換フルコトヲ得ル性質ヲ有スルモノニ限ルナリ又「有價證券」モ代替  
的性質ヲ有スルモノニ限ル故ニ苟モ代替的ノ有價証券タル以上ハ記名ナルト將タ無記名ナルトナ問ハサルナリ

(實例) ○貸金請求證書訴訟件 明治二十七年第二九八號  
全二十八年四月十一日

大審院ノ判決要旨左ノ如シ

本件被上告人カ被相續人ノ遺產相續人タルコトハ爭ナキ事實ニシテ上告人ニ於テ被相續  
人ニ金圓ヲ貸與シタル事及ヒ其辯濟期限ノ經過シタルコト等ヲ證書ニ依リテ證明シタル  
以上ハ本條所定ノ「其請求ヲ起ス理由タル總テノ必要ナル事實ヲ證書ニ依リ證スルコ  
トヲ得ヘキトキハ證書ヲ以テ之ヲ主張スルコトヲ得」トノ規定ニ依リテ證シタルモノト云



フコトヲ得ヘシ

第四百八十五條 訴狀ニハ證書訴訟トシテ訴フルコトノ陳述ヲ掲ケ證書ノ原本又ハ謄本ヲ添フルコトヲ要ス

(解) 證書訴訟ノ提起ニハ通常訴訟ト同シク訴狀ヲ裁判所ニ出シテ之ヲ爲サ、ル可ヲサルヤ勿論ノ事タリ然レトモ證書訴訟ノ訴狀ニハ通常訴訟ニ於ケル訴狀ニ付テノ要件ノ外特別ナル條件ヲ必要トス今本條ノ規定ニ依リ其條件ヲ掲ケレハ左ノ如シ

(甲) 訴狀ニ證書訴訟トシテ訴フル旨ノ陳述ヲ掲ケルコト  
(乙) 訴狀ニ證書ノ原本又ハ謄本ヲ添附スルコト

第四百八十六條 本案ノ辯論ハ妨訴抗辯ニ基キ拒ムコトヲ得ス然レトモ裁判所ハ申立又ハ職權ヲ以テ此抗辯ニ付キ辯論ノ分離ノ命スルコトヲ得

第四百八十七條 反訴ハ之ヲ爲スコトヲ得ス

證書ノ眞否及ヒ第四百八十四條ニ掲ケタル以外ノ事實ニ關シテハ證書ノミヲ以テ適法ノ證據方法ト爲スコトヲ得

證書ノ申出ハ證書ノ提出ヲ以テノミ之ヲ爲スコトヲ得

第四百八十八條 原告ハ口頭辯論ノ終結ニ至ルマテハ被告ノ承諾ヲ要セスシテ通常ノ手續

ニテ訴訟ヲ繫屬セシメテ證書訴訟ヲ止ムルコトヲ得

(解) 以上三ヶ條ハ簡明ナルカ故ニ説明スルノ要ナシト雖、其要旨ヲ一言スレハ第四百八十六條ハ本案ノ辯論拒絶ニ關シテ規定シ第四百八十七條ハ反訴ヲ許サ、ルコト證書ノ眞否及ヒ第四百八十四條以外ノ事實ニ關スル證據方法ト證書ノ申出ニ付テ規定シ第四百八十八條ハ證書訴訟ノ停止ニ關シテ規定シタル者ナリ

第四百八十九條 訴ヲ以テ主張シタル請求カ理由ナシト見エ又ハ被告ノ抗辯ニ因リ理由ナシト見ユルトキハ原告ノ請求ヲ却下ス可シ

證書訴訟ヲ許ス可カラサルトキ殊ニ適法ノ證據方法ヲ以テ原告ノ義務タル證據ヲ申立テ又ハ完全ニ之ヲ舉ケサル場合ニ於テハ被告カ口頭辯論ノ期日ニ出頭セス又ハ法律上ノ理由ナキ異議若クハ證書訴訟ニ於テ許ササル異議ノミヲ以テ訴ニ對シ抗辯シタルトキト雖モ此訴訟ニ於テハ其訴ヲ許ササルモノトシテ之ヲ却下ス可シ

第四百九十條 證書訴訟ニ於テ適法ノ證據方法ヲ以テ被告ノ義務タル證據ヲ申出テ又ハ完全ニ之ヲ舉ケサルトキハ被告ノ異議ハ證書訴訟ニ於テ許ササルモノトシテ之ヲ却下ス可シ

(解) 此兩條ハ別ニ詳説スルノ要ナク證書訴訟ノ却下ニ關スル規定ナリ

第四百九十一條 主張シタル請求ヲ争ヒタル被告ニハ敗訴ノ言渡ヲ受ケタル總テノ場合ニ



於テ其權利ノ行使ヲ留保ス可シ  
判決ニ此留保ヲ掲ケサルトキハ第二百四十二條ノ規定ニ依リ判決ノ補充ヲ申立ツルコトヲ得

留保ヲ掲ケタル判決ハ上訴及ヒ強制執行ニ付テハ之ヲ終局判決ト看做ス

第四百九十二條 被告ニ權利ノ行使ヲ留保シタルキハ訴訟ハ通常ノ訴訟手續ニ於テ繫屬ス此手續ニ於テ證書訴訟ヲ以テ主張シタル請求ノ理由ナカリシコトノ顯ハルルトキハ前判決ヲ廢棄シ原告ノ請求ヲ却下シ且其生セシメタル費用ノ全部又ハ一分ノ辨濟ヲ原告ニ言渡シ又前判決ニ基キ被告ヨリ支拂ヒ又ハ給付シタルモノノ辨濟ヲ申立ニ因リ原告ニ言渡ス可シ

右手續ニ於テ原告若クハ被告カ出頭セサルトキハ關席判決ニ關スル規定ヲ準用ス

(解) 此兩條モ亦別ニ說明スルマテモナク證書訴訟ノ場合ニ於ケル權利ノ留保ニ關スル規定ナリ

第四百九十三條 第四百二十六條及ヒ第四百二十七條ノ規定ハ證書訴訟ニ之ヲ適用セス

(解) 凡ソ控訴ニ關スル第四百二十六條及ヒ第四百二十七條ハ特ニ證書訴訟ニ之ヲ適用スルノ要ナキヲ以テ本條ハ其旨ヲ明示シタル者ナリ

第四百九十四條 商法ニ規定シタル手形ニ因ル請求ヲ證書訴訟ヲ以テ主張スルトキハ爲替訴訟トシテ以下二條ニ掲クル特別ノ規定ヲ適用ス

(解) 本條乃至第四百九十六條ハ證書訴訟ノ一種タル爲替訴訟ニ關スル規定ナリ就中本條ハ商法ニ規定シタル手形上ノ請求ヲ證書ヲ以テ主張スルトキハ通常ノ訴訟手續ニ依ラス爲替訴訟トシテ特別ノ規定ヲ適用スル旨ヲ明示セリ特別ノ規定トハ以下二條ノ規定ヲ云フ

茲ニ一ノ注意スヘキ点アリ何ソヤ即チ爲替訴訟ハ特別ナル規定ヲ除外ハ證書訴訟ニ關スル一般ノ規定ニ從フヘキモノナルト是ナリ其他爲替訴訟ハ通常ノ訴訟トシテモ訴ヲ提起スルコトヲ得ルモノトス

第四百九十五條 爲替ノ訴ハ支拂地ノ裁判所又ハ被告カ其普通裁判籍ヲ有スル地ノ裁判所ニ之ヲ起スコトヲ得

數人ノ爲替義務者カ共同ニテ訴ヲ受クヘキトキハ支拂地ノ裁判所又ハ被告ノ各人カ其普通裁判籍ヲ有スル地ノ裁判所各之ヲ管轄ス

(解) 本條第一項ハ爲替訴訟ヲ提起スルコトヲ得ル裁判所ヲ明示セリ即チ手形金額支拂地ノ裁判所又ハ被告カ其普通裁判籍ヲ有スル地ノ裁判所ナリトス  
第二項ハ數人ノ爲替義務者カ共同ニテ訴ヲ受ク可キ場合ニ關シテ規定セリ此場合ニ於ケル管轄ハ即チ支拂地ノ裁判所又ハ被告ノ各人カ其普通裁判籍ヲ有スル地ノ裁判所各々之ヲ有スルモノトス

第四百九十六條 訴狀ニハ爲替訴訟トシテ訴フル旨ヲ掲クルコトヲ要ス



訴ノ許ス可キモノナルトキハ直チニ口頭辨論ノ期日ヲ定ム

口頭辨論ノ期日ト訴狀送達トノ間ニハ少ナクトモ二十四時ノ時間ヲ存スルコトヲ要ス

(解) 爲替訴訟ノ訴狀ニハ爲替訴訟トシテ訴フル旨ヲ掲ケサル可ラサルカ故ニ若シ其旨ヲ掲ケサル訴狀ハ爲ニ却下セラルヘシ從テ爲替訴訟ノ訴ニシテ許スヘキモノナルトキハ裁判所ハ直チニ口頭辨論ノ期日ヲ例ヘハ何月何日ト定メ以テ之ヲ送達セザル可ラス此口頭辨論期日ト訴狀送達トノ間ニハ少ナクトモ二十四時ノ時間ヲ存スルコトヲ要ス故ニ裁判所ハ送達スヘキ場所ノ遠近若クハ其他ノ事情等ニ從ヒ二十四時以上ノ時間ヲ存セシムルコトヲ得ルモ之ニ反シテ明文以外ニ猶ホ時間ヲ短縮シ例ヘハ二十時間ト爲シ若クハ十五時間ト爲スヲ得サルヤ明文上モ疑ノ存セサル所ナリ

### 第六編 強制執行

(定義) 強制執行トハ國家ノ權力ヲ藉リテ民事上ノ裁判ヲ執行スル訴訟手續ヲ謂フ

(目的) 強制執行ノ債權者ヲ保護スルト同時ニ債務者ヲモ保護シ且社會ノ秩序ヲ維持センカ爲正當ニ裁判ヲ執行スルヲ以テ唯一ノ目的トス

#### 第一章 總則

第四百九十七條 強制執行ハ確定ノ終局判決又ハ仮執行ノ宣言ヲ付シタル終局判決ニ因リテ之ヲ爲ス

(解) 本條ハ強制執行ハ如何ナル判決ニ對シテ爲ス可キ者ナルヤヲ定ム即チ強制執行ヲ爲スコトヲ得ヘキ判決ニハ二種アリ何ソヤ曰ク確定ノ終局判決曰ク假執行ノ宣言ヲ附シタル終局判決是ナリ此二種ノ判決ヲ總稱シテ執行力ヲ有スル判決ト謂フ

法文ニ所謂確定シタル終局判決トハ訴訟カ裁判ヲ爲スニ熟スルトキニ於テ裁判所カ終局判決ヲ爲シタル後其判決ト確定シタルモノヲ云フサレハ終局判決ハ悉ク執行力ヲ有スルモノニアラス確定シタル終局判決ニ限リテ執行力ヲ有ルニ過キス又假執行ノ宣告ヲ附シタル終局判決トハ文字夫レ自身ノ表示スル如ク假ノ執行ニ付テ宣告ヲ爲シタル終局判決ヲ云フ故ニ假執行ノ宣告ヲ附シタル終局判決ハ特別ニ裁判所ノ言渡ヲ以テ未確定ノ判決ニ假執行ノ宣告ヲ爲スモノナリトスト雖モ宣告タルヤ判決ノ確定ト同一ノ効力ヲ生スヘシ

第四百九十八條 判決ハ適法ナル障故ノ申立又ハ適法ナル上訴ノ提起ニ付キ定メタル期間ノ満了前ニモ確定セサルモノトス

判決ノ確定ハ故障若クハ上訴ヲ其期間内ニ申立若クハ提起スルニ因リテ之ヲ遮斷ス

(解) 本條ニ所謂適法ナル故障ノ申立ニ付キ定メタル期間トハ第二百五十五條第二項所定ノ十四日ノ不變期間ヲ云ヒ適法ナル上訴ノ提起ニ付キ定メタル期間トハ例ヘハ控訴上告ナルトキハ一ヶ月ノ不變期間ニシテ抗告ナルトキハ七日ノ不變期間タルカ如キヲ云フ而シテ判決ナル者ハ此等ノ期間満了後ニ於テ確定シ其満了前ニハ決シテ確定スルコトナシトス又判決ノ確定ハ右ノ故障期間内ニ故障ヲ申立若クハ上訴期間内ニ上訴ヲ提起スルニ依リテ之ヲ遮斷スル効力ヲ有スルナリ

(實例) ○工事仕送物品代金請求件 明治二十七年第三百八十號

大審院ノ判決要旨左ノシ 全二十八年三月十二日



未タ判決正本ノ送達ナキモノハ民事訴訟法第四百條一項同法第四百九十八條第一項ニヨリ未タ確定ニ至ラザルモノナリ

第四百九十九條 原告若クハ被告カ判決ノ確定ニ付キ證明書ヲ求ムルトキハ第一審裁判所ノ書記ハ記録ニ基キ之ヲ付與ス

訴訟カ猶上級審ニ於テ繫屬中ナルトキハ上級裁判所ノ書記ハ判決ノ確定ト爲リタル部分ノミニ付キ證明書ヲ付與ス

判決ニ對シ上訴ノ提起ナキ場合ニ非サレハ證明書ヲ付與スルコトヲ得サルトキニ限リ上訴ヲ管轄スル裁判所ノ書記カ不變期間内ニ上訴ノ提起ナキコトヲ認メタルトキハ證明書ヲ以テ足ル

(解) 本條ハ別ニ説明スルマテモナカク判決ニ付キ證明書付與ニ關スル裁判所書記ノ職務ヲ規定シタルニ過キス

第五百條 原狀回復又ハ再審ヲ申立ルトキハ裁判所ハ申立ニ因リ保證ヲ立テシメ又ハ保證ヲ立テシメスシテ強制執行ヲ求ムル一時停止ス可キコトヲ命シ又ハ保證ヲ立タシメテ強制執行ヲ爲ス可キコトヲ命シ及ヒ保證ヲ立タシメテ其ノ爲シタル強制處分ヲ取消ス可キコトヲ命スルコトヲ得

保證ヲ立テシメスシテ爲ス強制執行ノ停止ハ其執行ニ因リ償フコト能ハサル損害ヲ生ス可キコトヲ説明スルトキニ限り之ヲ許ス

右裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得其裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

本條ハ一讀明瞭ナルカ故ニ説明スルノ要ナシ

第五百一條 左ノ判決ニ付テハ職權ヲ以テ假執行ノ宣告ヲ爲ス可シ

第一 認諾ニ基キ敗訴ヲ言渡ス判決

第二 證書訴訟又ハ爲替訴訟ニ於テ言渡ス判決

第三 同一審ニ於テ同一ノ原告若クハ被告ニ對シ木案ニ付キ言渡シタル第二又ハ其ノ後闕席判決

第四 假差押又ハ假處分ヲ取消ス

第五 養料ヲ支拂フ義務ヲ言渡ス判決但訴ノ提起後ノ時間及ヒ其提起前最後ノ三個月間ノ爲ニ支拂フ可キモノナルトキニ限ル

(解) 本條ハ裁判所カ職權ヲ以テ假執行ノ宣言ヲ爲スヘキ判決ヲ列記シタル者ニシテ左ノ如シ



第二「認諾ニ基キ敗訴ヲ言渡ス判決」ハ第二百二十九條ト對照スルヲ要ス

第三「同一審ニ於テ同一ノ原告若クハ被告ニ對シ本案ニ付キ言渡シタル第二又ハ其後ノ關席判決」ハ第二百六十三條及

ハ第二百九十四條ト對照スルヲ要ス

第四「假差押又ハ假處分ヲ取消ス判決」ハ第七百四十五條第七百五十六條ヲ參看スヘシ

第五「養料ヲ支拂フ可キ義務ヲ言渡ス判決」ハ民法第五編第八章所定ノ扶養ノ義務ニ基キ言渡ス判決ナリ然レトモ此判決ニ付テ假執行ノ宣言ヲ爲スニハ本號但書ノ如キ制限アリトス

(實例) ○預金取戻請求件 二十六年第四六一號  
二十七年三月十五日

大審院ノ判決要旨左ノ如シ

明治七年第二十七號布告及明治六年第十號布告ヲ適用スベキ場合ニ於テハ民事訴訟法  
五百一條ニ從ヒ假執行ノ宣言ヲ附スベキモノニアラズ蓋シ前示特別法ノ如ク判決申渡  
後若干時間執行ヲ許サル、法則ノ存ズル場合ニ在テハ到底合法ニ假執行シ爲スベカラ  
サルヤ勿論ナルヲ以テナリ

第五百二條 左ノ場合ニ於テハ申立ニ依リ假執行ノ宣言ヲナスヘシ

第一 總テノ住家其他ノ建物又ハ其ノ或ル部分ノ受取明渡使用占據若クハ修繕ニ關シ又

ハ賃借人ノ家具シ若クハ所持品ヲ賃借人ノ差押ヘタルコトニ關シ賃借人ト賃借人トノ間  
ニ起リタル訴訟

第二 占有ノミニ係ル訴訟

第三 雇主ト雇人トノ間ニ雇期限一ケ年以下ノ契約ニ關リ起リタル訴訟

第四 左ニ掲ケタル事項ニ付キ旅人ト旅店若シクハ飲食店ノ主人トノ間又ハ旅人ト水陸  
運送人トノ間ニ起リタル訴訟

イ 賄料又ハ宿料又ハ旅人ノ運送料又ハ之ニ伴フ手荷物ノ運送料

ロ 旅店若シクハ飲食店ノ主人又ハ運送人ニ旅人ヨリ保護ノ爲メ預ケタル手荷物金錢又  
ハ有價物

第五 此他財産權上ノ請求ニ關シ金額又ハ價額ニ於テハ貳拾圓超過セサル訴篤但其物價  
額ニ付テハ第三條乃至第六條ノ規定ヲ適用ス

(解) 本條ハ前條ト異ナリ當事者ノ申立ニ依テ假執行ノ宣言ヲ爲スヘキ場合ヲ第一號乃至第五號ニ列記シタル者ニ  
シテ別ニ詳説スルノ要ナシ唯一言スヘキハ第五號ニ所謂「財産權上ノ請求」即チ是ナリ「財産權上ノ請求」ハ民法及ヒ商  
法等ニ所謂財産上ノ諸權利ニ關スル請求ヲ云フ

第五百三條 前二條ニ掲ケタル外左ノ場合ニ於テハ財産權上ノ請求ニ關スル判決ニ限り債



権者ノ申立ニ因リ假執行ノ宣言ヲナスヘシ

第一 債権者カ執行ノ前ニ保證ヲ立テント申立テルトキ

第二 債権者カ判決ノ確定ト爲ルマテ執行ヲ中止セハ償ヒ難キ損害又ハ計リ難キ損害ヲ受ク可キコトヲ疏明スルトキ

(解) 本條ハ一定ノ條件ニ從テ假執行ノ宣言ヲ爲スヘキ特別ノ場合ヲ定メタル者ナリ  
法文ニ所謂「償ヒ難キ損害又ハ計リ難キ損害」トハ絶対的賠償ノ出來得サルニハアラアリサレトモ其賠償額フル困難ナル場合例ハハ商號濫用又ハ占有ノ訴ノ如キナ云フ

第五百四條 債務者カ判決ノ確定トナル前ニ判決ヲ執行セハ回復スルコトヲ得サル損害ヲ

受クル可キコトヲ疏明シタルトキハ其申立ニ因リ左ノ宣言ヲナス可シ

第一 第五百一條ノ場合ニ於テハ判決ヲ假リニ執行ス可カラサルコト

第二 第五百二條及ヒ第五百三條ノ場合ニ於テハ債権者ノ假執行申立ヲ却下スルコト

(解) 本條ハ法文簡明ニ付キ説明スルノ要ナシ唯「回復ス可ラサル損害」トハ如何ナルモノナルヤチ明カニスレハ足レリ例ヘハ性質上金錢ヲ以テ賠償スルコトヲ得サルモノ若クハ債権者ノ資力ノニミテハ到底賠償スルコトヲ得サル程ノモノノ類ハ是レ即チ回復スヘカラサル損害ニ外ナラサルナリ

第五百五條 總テノ場合ニ於テ裁判所ハ債務者ノ申立ニ因リ債権者豫メ保證ヲ立ツルトキ

ハ假執行ヲ爲シ得ヘキ旨ヲ宣言スルコトヲ得

債権者カ執行ノ前ニ保證ヲ立ツルコトヲ申出テサルトキハ債務者ノ申立ニ因リ債務者ニ保證ヲ立テシメ又ハ供託ヲ爲サシメ執行ヲ免カルコトヲ許ス可シ

本條ハ一讀明瞭ナルカ故ニ説明ヲ省ケ

第五百六條 假執行ニ關スル申立ハ判決ニ接著スル口頭辨論ノ終結前ニ之ヲ爲ス可シ

第五百七條 假執行ニ付テノ裁判ハ判決主文ニ之ヲ掲ク可シ

第五百八條 職權ヲ以テ判決ノ假執行ヲ宣言スヘキ場合ニ於テ假執行ニ付テノ裁判ヲ争ハ

サルキ又ハ判決ノ假執行ヲ宣言スヘキ債権者ノ申立ヲ看過シタルトキハ第二百四十二條及ヒ第二百四十三條ノ規定ニ從ヒ判決ノ補充ヲ爲スコトヲ得

(解) 以上第五百六條乃至第五百八條ハ假執行ノ宣言ニ關スル手續ヲ定ム凡ソ假執行ニ關スル債務者ノ申立及ヒ債権者ノ申立ハ總テ口頭辨論ノ終結以前ニ於テ之ヲ爲サ、ル可ラス從テ口頭辨論ノ終結以後ハ假令其申立ヲ爲スモ假執行ヲ許スコトナシ而シテ假執行ニ付テノ裁判タルヤ本案ノ一部ヲ組成スヘシ既ニ本案ノ一部ヲ組成スル以上ハ宣言ハ判決主文ニ掲クルト正當トス是第五百七條ノ規定アル所以ナリ而シテ第五百八條ハ判決ノ補充ヲ爲スコトヲ得ルニハ職權ヲ以テ判決ノ假執行ヲ宣言スヘキ場合(第五百一)ニ於テ假執行ニ付テノ裁判ヲ爲サ、ルトキ又ハ假執行ニ付テノ債権者ノ申立看過シタルトキナリトセリ但シ此場合於ニテハ第二百四十二條及ヒ第二百四十三條ノ規定ニ從フコトヲ要ス



第五百九條 第一審ハ第二審ノ判決ニシテ假執行ノ宣言ナカリシモノ又ハ條件付ノ假執行ノ宣言アリタルモノハ上訴ヲ以テ不服ヲ申立テサル部分ニ限り口頭辨論ノ進行中ニ爲シタル原告若クハ被告ノ申立ニ因リ上級審ニ於テ其判決假執行ノ宣言ヲ付ス可シ

(解) 本條ハ第一審又ハ控訴審ノ判決ニシテ假執行ノ宣言ナカリシモノ又ハ條件付ノ假執行ノ宣言アリタルモノハ或制限ノ下ニ於テ上級審ハ其判決ニ假執行ノ宣言ヲ付スヘキモノトセリ或制限トハ上訴ヲ以テ不服ヲ申立テサル部分ニ限り口頭辨論ノ進行中ニ爲シタル當事者ノ申立ニ因ルコトヲ謂フナリ

第五百十條 本案ノ裁判又ハ執行ノ宣言ヲ廢棄若クハ破毀又ハ變更スル判決ノ言渡アルトキハ假執行ハ其廢棄若クハ破毀又ハ變更ヲ爲ス限度ニテ於效力ヲ失フ

假執行ノ宣言アリタル本案ノ判決ヲ廢棄若クハ破毀又ハ變更スルトキハ判決ニ基キ被告ノ支拂又ハ給付シタルモノノ辨濟ヲ被告ノ申立ニ因リ判決ヲ以テ原告ニ言渡スヘシ

(解) 本條ハ假執行ノ效力ニ關スル規定ニシテ殊ニ第一項ハ本案ノ裁判又ハ假執行ノ宣言ヲ廢棄若クハ破毀又ハ變更スル判決ノ言渡アルトキニ關セリ此場合ニ於テハ假執行ハ全部效力ヲ失フコトナク單ニ其廢棄若クハ破毀又ハ變更ヲ爲ス限度ニ於テノ付效力ヲ失フヘシ第二項ハ一讀瞭然別ニ説明スルノ要チ見ス

第五百十一條 第二審ニ於テハ申立ニ因リ先ツ假執行ニ付キ辯論及裁判ヲ爲ス可シ  
口頭辨論ノ延期ニ付テノ第四百十條ノ規定ハ此場合ニ於テハ之ヲ適用セス

第二審ニ於テハ假執行ニ付キ爲シタル裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第五百十二條 假執行ノ宣言ヲ付シタル判決ニ對シテ故障ヲ申立又ハ上訴ヲ起シタルトキハ第五百條ノ規定ヲ準用ス

第五百十三條 本編ノ規定ニ從ヒ原告若クハ被告ニ保證ヲ立ツル義務ヲ負ハシメ若クハ保證ヲ立テ又ハ供託ヲ爲スコトヲ許シタル場合ニ於テハ原告若クハ被告ハ其普通裁判籍ヲ有スル地ノ區裁判所又ハ執行裁判所ニ保證ヲ立テ又ハ供託ヲ爲スコトヲ得

保證ヲ申立又ハ供託ヲ爲シタルコトニ付テハ求ニ因リ證明書ヲ付與ス可シ  
以上三ヶ條ハ意義瞭然タルヲ以テ説明チ膏ク

第五百十四條 外國裁判所ノ判決ニ因レル強制執行ハ本邦ノ裁判所ニ於テ執行判決ヲ以テ其適法ナルコトヲ言渡シタルトキニ限り之ヲ爲スコトヲ得

執行判決ヲ求ムル訴ニ付テハ債務者ノ普通裁判籍ヲ有スル地ノ區裁判所又ハ地方裁判所之ヲ管轄シ又普通裁判籍ナキトキハ第十七條ノ規定ニ從ヒテ債務者ニ對スル訴ヲ管轄スル裁判所之ヲ管轄ス

(解) 本條及次條ハ外國裁判所ノ判決ニ因レル強制執行ニ關スル規定ナリ抑モ此種ノ強制執行ニ付テハ國際條約ニ



基クテ通例トス若シ條約面ニ何等ノ規定ナキトキハ外國ノ裁判ヲ執行スルコトヲ許サス是レ他ナシ我獨立國ノ体面ニ關スルコト大ナレハナリ然レトモ條約ニ於テ之ヲ定メタルトキハ外國裁判所ノ裁判ニ基キ執行スルコトヲ得レトモ先ツ日本ノ裁判所ニ訴ヘテ執行判決ヲ受ケタル後ニアラサレハ絕對的執行スルコト能ハサルナリ(第一項)然ラハ執行判決ヲ求ムル訴ヲ管轄スヘキ裁判所ハ如何ト云フニ是レ即チ第二項ノ規定スル所ナリ

第五百十五條 執行判決ハ裁判ノ當否ヲ調査セスシテ之ヲ爲ス可シ

執行判決ヲ求ムル訴ハ左ノ場合ニ於テハ之ヲ却下ス可シ

第一 外國裁判所ノ判決ノ確定トナリタルコトヲ證明セサルトキ

第二 本邦ノ法律ニ依リ強テ爲サシムルコトヲ得サル行爲ヲ執行セシム可キトキ

第三 本邦ノ法律ニ從ヘハ外國裁判所カ管轄權ヲ有セサルトキ

第四 敗訴ノ債務者本邦人ニシテ應訴セサルシトキ但シ訴訟ヲ開始スル呼出又ハ命令ヲ

受訴裁判所所屬ノ國ニ於テ又法律上ノ共助ニ依リ本邦ニ於テ本人ニ送達セザリシトキニ

限ル

第五 國際條約ニ於テ相互ヲ保セサルトキ

(解) 凡ソ執行判決ナル者ハ外國裁判ノ當否ヲ調査セスシテ之ヲ爲サル可ラス再言スレハ內國裁判所ハ外國判決

ノ事實上及ヒ法律上等ノ當否ヲ調査スルノ要ナシ唯左ノ諸點ニ付テ調査スルモ法理上妨ケナシ

(甲) 外國裁判所ニ於テ果シテ判決アリタル否ヤ

(乙) 法律カ特ニ却下スヘキコトヲ命スル理由ナキヤ否ヤ

(丙) 外國判決言渡ノ後權利上ニ變更ヲ生シタルコトナキヤ否ヤ

等ノ點ナリトス

第二項ハ執行判決ヲ求ムル訴ヲ却下スヘキ場合ヲ第一號乃至第五號ニ於テ列記セリ蓋シ第一號乃至第五號ノ場合ニ於テ執行判決ヲ求ムル訴ヲ却下スル理由ハ主トシテ公益ニ關スル性質ヲ有スル結果ニ外ナラサルナリ

第五百十六條 強制執行ハ執行文ヲ付シタル判決ノ正本ニ基キ之ヲ爲ス

執行力アル正本ハ第一審裁判所ノ書記又訴訟カ上級裁判所ニ繫屬スルトキハ其裁判所ノ

書記之ヲ付與ス

執行力アル正本ヲ求ムル申立ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

(解) 凡ソ強制執行ハ債務名義ヲ有スルノ外尙ホ執行文ヲ附シタル正本ニ基キテ之ヲ爲スチ原則トス其執行力アル正本ヲ附與スル職務ヲ有スル者ハ裁判所書記ニシテ而モ訴訟カ第一審裁判所ニ繫屬中ハ第一審裁判所ノ書記之ヲ付與シ訴訟カ上級裁判所例ヘハ控訴若クハ上告裁判所ニ繫屬スルトキハ其裁判所ノ書記之ヲ付與スルモノトス而シテ執行力アル正本ノ付與ハ書面ニテ申立ツルト又ハ口頭ニテ申立ツルトチ間ハサルナリ

第五百十七條 執行文ハ判決ノ正本末尾ニ之ヲ附記ス

其文式左ノ如シ

前記ノ正ハ本被告某若クハ原告某ニ對シ強制執行ノ爲ニ原告某若クハ被告某ニ之ヲ付



與ス

執行文ニハ裁判所書記署名捺印シ且ツ裁判所ノ印ヲ押ス可シ

(解) 執行文ハ判決正本ノ末尾ニ之ヲ附記シ裁判所ノ書記署名捺印シ且裁判所ノ印ヲ押スヘキモノニシテ其書式左ノ如シ

前ノ記正本ハ被告某若クハ原告ニ對シ強制執行ノ爲メ原告若クハ被告某ニ之ヲ付與ス

右ノ書式ハ缺ケヘカラサル部分ヲ示セリ然レトモ尙ホ其ノ他ニ必要ナル事柄ヲ記入スルモ手續上敢テ妨ケサルヘシ

第五百十八條 執行力アル正本ハ判決ノ確定シタルトキ又ハ假執行ノ宣言アリタルトキニ限り之ヲ付與ス

判決ノ執行方其旨趣ニ從ヒ保證ヲ立ツルコトニ繋ル場合ノ外他ノ條件ニ繋ル場合ニ於テハ債權者ガ證明書ヲ以テ其條件ヲ履行シタルコトヲ證スルトキニ限り執行力アル正本ヲ付與スルコトヲ得

第五百十九條 執行力アル正本ハ判決ニ表示シタル債權者ノ承繼人ノ爲ニ之ヲ付與シ又ハ判決ニ表示シタル債權者ノ一般ノ承繼人ニ對シ之ヲ付與スルコトヲ得但其承繼ガ裁判所ニ於テ明白ナルトキ又ハ證明書ヲ以テ之ヲ證スルトキニ限ル

此承繼カ裁判所ニ於テ明白ナルキトハ之ヲ執行文ニ記載ス可シ

第五百二十條 第五百十八條第二項及ヒ第五百十九條ノ場合ニ於テハ執行力アル正本ハ裁判長ノ命令アルトキニ限り之ヲ付與スルコトヲ得

裁判長ハ其命令前ニ書面又ハ口頭ヲ以テ債務者ヲ審訊スルコトヲ得右命令ハ執行文ニ之ヲ記載ス可シ

第五百二十一條 第五百十八條第二項及ヒ第五百十九條ニ依リ必要ナル證明ヲ爲ス能ハサルトキハ債權者ハ判決ニ基キ執行文ノ付與ニ付キ第一審ノ受訴裁判所ニ訴ヲ起スコトヲ得

以上第五百十八條乃至第五百二十一條ハ意義明瞭ニシテ別ニ解釋ヲ試ムルノ要ナシ

第五百二十二條 執行文ノ付與ニ對シ債務者カ異議ヲ申立テタルトキハ其執行文ヲ付與シタル裁判所書記ノ屬スル裁判所之ヲ裁判ス

裁判長ハ其裁判前ニ假處分ヲ爲スコトヲ得殊ニ保證ヲ立テシメ若クハ之ヲ立テシメスシテ強制執行ヲ一時ニ停止シ又ハ保證ヲ立テシメテ強制執行ヲ續行ス可キヲ命スルコトヲ得



(解) 抑モ強制執行ノ手續上ノ異議ハ種々アリト雖、本條ハ其異議ノ一種タル執行文ノ付與ニ關スル異議ニ付テ規定セリ此異議ノ申立ニ付テノ裁判ハ其執行文ヲ付與シタル裁判所書記ノ屬スル裁判所ニ於テスヘシ(第一項) 第二項ハ簡明ニ付テ特ニ解説スルノ要ヲ見サル規定ナリ

(實例) ○溝渠復舊事事件ニ關スル假處分命令ニ對スル異議申立件

明治二十六年第四百九十號  
全二十七年二月二十一日

大審院ノ判決要旨左ノ如シ

本法第五百二十二條二項ハ執行文ノ付與ニ對スル異議ノ場合ニ於ケル規定ニシテ本法七百五十五條以下ハ確定判決前ニ於テ係争物ニ關シ假處分ヲ爲ス場合ニ於ケル規定ナルヲ以テ確定判決ノ執行ヲ續行セシムル場合ニ適用スヘキモノニアラス

第五百二十三條 債權者カ執行力アル正本ノ數通ヲ求メ又ハ前ニ付與シタル正本ヲ返還セシテ更ニ同一判決ノ正本ヲ求ムルルトキハ裁判長命令アルトキニ限り之ヲ付與スルコトヲ得

裁判長ハ其命令ノ前ニ書面又ハ口頭ヲ以テ債務者ヲ審訊スルコトヲ得  
相手方ヲ審訊セシテ執行力アル正本ノ數通ヲ付與シ又ハ更ニ正本ヲ付與シタルトキハ其旨ヲ相手方ニ通知スヘシ

正本ノ數通ヲ付與シ又ハ更ニ正本ヲ付與シタルトキハ其旨ヲ明記ス可シ

第五百二十四條 執行力アル正本ノ付與前ニ判決ノ原本ニ原告ノ爲メ若クハ被告ノ爲ニ之ヲ付與スル旨且之ヲ付與スル日時ヲ記載ス可シ

以上二ヶ條ハ讀テ字ノ如ク別ニ説明スルノナシ

第五百二十五條 執行力アル正本ノ效力ハ之ヲ付與シタル裁判所ノ管轄内ニ止マラス總テ本邦ノ裁判區域内ニ及フモノトス

(解) 本條ハ執行力アル正本ノ效力ニ關シテ規定セリ即チ執行力アル正本ハ頗フル偉大ナル效力ヲ有スルモノニシテ管ニ之ヲ付與シタル裁判所ノ管轄内ニ止マラス總テ我邦ノ裁判區域内ニ及ホス者トス

第五百二十六條 債權者ハ一箇ノ地又ハ一箇ノ方法ニテ強制執行ヲ爲スモ完全ナル辨濟ヲ得ル能ハサルトキハ數通ノ執行力アル正本ニ基キ數箇ノ地又ハ數箇ノ方法ニテ同時ニ強制執行ヲ爲ス權利ヲ有ス

第五百二十七條 債權者ハ執行ヲ爲ス可キ地ヲ管轄スル區裁判所ノ所在地ニ住居ヲモ事務所ヲモ有セキルトキハ其所在地ニ假住所ヲ選定シ其旨ヲ裁判所ニ届出ツ可シ

以上二ヶ條ハ一讀明白ナリ故ニ説明ヲ省ケ



第五百二十八條 強制執行ハ之ヲ求ムル者及ヒ之ヲ受クル者ノ氏名ヲ判決又ハ之ニ附記スル執行文ニ表示シ且判決ヲ既ニ送達シ又ハ同時ニ送達シタルトキニ限り之ヲ始ムルコトヲ得

判決ノ執行力其旨趣ニ從ヒ債權者ノ證明ス可キ事實ノ到來ニ繫ルトキ又ハ判決ノ執行力判決ニ表示シタル債權者ノ承繼人ノ爲ニ爲シ又ハ判決ニ表示シタル債務者ノ承繼人ニ對シ爲ス可キトキハ執行ス可キ判決ノ外尙ホ之ニ附記スル執行文ヲ強制執行ヲ始ムル前ニ送達スルコトヲ要ス

若シ證明書ニ依リ執行文ヲ付與シタルトキハ亦其證書ノ謄本ヲ強制執行ヲ始ムル前ニ送達シ又ハ同時ニ送達スルコトヲ要ス

(解) 本條乃至第五百三十條ハ強制執行開始ニ關スル要件ヲ規定シタル者ニシテ殊ニ本條第一項ハ總般ノ場合ニ汎ク適用スル規定ナリ第二項及ヒ第三項ハ第一項ト異ナリ或特別ナル場合ニ付テ適用スヘキ規定ナリ  
法文ニ所謂「強制執行ヲ求ムル者」トハ債權者ニシテ「之ヲ受クル者」トハ債務者ノ義ナリ又「判決ノ執行力其旨趣ニ從ヒ債權者ノ證明スヘキ事實ノ到來ニ繫ルトキ」トハ條件附ノ場合ニ外ナラサルナリ

第五百二十九條 請求ノ主張力或ル日時ノ到來ニ繫ルトキハ日其時ノ滿了後ニ限り強制執行ヲ始ムルコトヲ得

若シ執行力債權者ヨリ保證ヲ立ツルコトニ繫ルトキハ債權者カ保證ヲ立ツルコトニ付テノ公正ノ證明書ヲ提出シ且其謄本ヲ既ニ送達シ又ハ同時ニ送達シタルトキニ限り其執行ヲ始ムルコトヲ得

(解) 本條ハ第五百十八條及ヒ第五百十九條ノ原則ニ對シテ其例外ヲ規定シタリ法文ニ所謂「日時ノ到來ニ繫ルトキ」トハ判決主文ニ債務ノ履行期日ヲ定メタルカ如キヲ云ヒ「公正ノ證明書」トハ中央金庫ノ捺印アル供託書ノ如キヲ云フ

第五百三十條 豫備、後備ノ軍籍ニ在ラサル軍人、軍屬ニ對シテ爲ス強制執行ハ其上班司令官廳ニ通知ヲ爲シタル後ニ限り之ヲ始ムルコトヲ得  
此官廳ハ債權者ハ求ニ因リ通知ノ受取證ヲ付與ス可シ

本條ハ讀テ字ノ如ク別ニ説明スルノ要ヲ見ス

第五百三十一條 強制執行ハ法律ニ於テ別段ノ規定ナキトキニ限り執達吏之ヲ實施ス  
債權者ハ強制執行ヲ委任スル爲ニ區裁判所書記ノ補助ヲ求ムルコトヲ得  
裁判所書記ノ委任シタル執達吏ハ債權者ノ委任シタルモノト看做ス

(解) 凡ソ強制執行ナル者ハ執行ノ一機關タル執達吏ヲシテ之ヲ實施セシムルチ原則トシ本法中ニ於テ別段定メアル場合ニ限り例外トシテ裁判所自ラ行フモノトス而シテ執達吏ハ囑託ヲ爲シタル債權者ニシテハ代理人タル資格ヲ有



スルニ因リ本條第二項ハ債權者ハ強制執行ヲ委任スル爲ニ云々ト規定シタリ  
裁判所書記ノ委任シタル執達吏ハ法理上債務者及ヒ第三者ニ對シテ債權者自身カ委託シタルモノト看做スモ不可ナシ  
是レ第三項ノ規定アル所以ナリ從テ執達吏ハ債權者ノ代理人タル資格ヲ有スルカ故ニ立替金及ヒ手数料等ノ辨濟ヲ受  
クル權利ヲ有スルナリ(執達吏手数料規則參照スヘシ)

第五百三十二條 執達吏ハ債權者ノ委任ニ因リテ爲ス行爲及ヒ職務上ノ義務ノ違背ヨリシ  
テ債權者其他ノ關係人ニ對シテ損害ヲ生セシメタルトキハ第一ニ其責ニ任ス

(解) 本條ハ別ニ説明スルマテモナク執達吏カ損害ヲ生セシメタル場合ニ於ケル責任(賠償)ニ付テ規定シタル者ナ  
リ

第五百三十三條 債權者執行力アル正本ヲ交付シテ強制執行ヲ委任シタルトキハ執達吏ハ  
特別ノ委任ヲ受ケサルトキト雖モ支拂其他ノ給付ヲ受取リ其受取リタルモノニ付キ有效  
ニ受取ノ證書ヲ作り之ヲ交付シ且債務者ニ於テ其義務ヲ完全ニ盡シタルトキハ執行力ア  
ル正本ヲ債務者ニ交付スルコトヲ得

(解) 債權者カ執行力アル正本ヲ交付シテ強制執行ヲ委任シタル場合ニ於テハ假令執達吏ハ特別ノ委任ヲ受ケサル  
トキト雖モ支拂其他ノ給付ヲ受取リ其受取タルモノニ付キ有效ニ受取證書ヲ作成シ之ヲ交付スル權利アリ而シテ執達  
吏ハ右ノ場合ニ於テ債務者カ完全ニ其債務ヲ履行シタルトキハ執行力アル正本ヲ債務者ニ交付スル權利アリトス要ス  
ルニ本條ハ執行委任ニ依リ執達吏ノ權利ニ關シ委任範圍ヲ定メタル者ナリト雖モ他點ヨリ觀察スレハ執達吏ノ行爲ニ  
付テ制限ヲ加ヘタルモノト云フコトヲ得ヘシ而シテ本條ニ所謂委任タルヤ執行力アル正本ノ交付ヲ以テ委任アリタルモ

トスルカ故ニ敢テ委任狀等ヲ作成スルノ必要ヲ生セサルヤ明カナリ

(實例) 強制執行ニ對スル異議ノ件 明治二十七年第四四二號  
全二十八年四月一日

大審院ノ判決要旨左ノ如シ

裁判ノ執行ハ執達吏ノ職權ニ屬スルヲ以テ執達吏以外ノ人ニ委任スルヲ得サレトモ強  
制執行ト其結果トシテ生スル行爲トハ之ヲ區別セサル可ラス而シテ執達吏カ財產差押  
ヲ爲シタル末債務者ニ於テ金圓ノ辨濟ヲ爲スカ如キハ強制執行ニ附帶シテ當然生ヘキ  
ス隨意行爲ニシテ其金圓ヲ領收スルハ執行々爲ノ一部ニアラス

第五百三十四條 執達吏ハ執行力アル正本ヲ所持スルヲ以テ債務者及ヒ第三者ニ對シ強制  
執行及ヒ前條ニ掲ケタル行爲ヲ實施スル權利ヲ有ス債權者ハ此等ノ者ニ對シ委任ノ欠缺  
又ハ制限ヲ主張スルコトヲ得ス

執達吏ハ其正本ヲ携帶シ關係人ノ求アルトキハ其資格ヲ證スル爲ニ之ヲ示ス可シ  
第五百三十五條 執達吏ハ債務者カ其義務ヲ完全ニ盡シタルトキハ其行力アル正本反ヒ受  
取ノ證ヲ之ニ交付シ又其義務ノ一分ヲ盡シタルトキハ執行力アル正本ニ其旨ヲ附記シ且  
受人ノ證ヲ債務者ニ交付ス可シ



債務者カ後ニ債權者ニ對シ受取ノ證ヲ求ムル權利ハ前項ノ規定ニ因リテ妨ケラルルコトナシ

以上ニケ條ハ一讀明瞭ナルカ故ニ説明ヲ省ク

第五百二十六條 執達吏ノ爲メ必要ナル場合ニ於テハ債務者ノ住居、倉庫及ヒ筐匣ヲ搜索シ又ハ閉鎖シタル戸扉及ヒ筐匣ヲ開カシムル權利ヲ有ス

抵抗ヲ受クル場合ニ於テハ執達吏ハ威力ヲ用井且警察上ノ援助ヲ求ムルコトヲ得若シ兵力ヲ要スルトキハ之ヲ執行裁判所ニ申立ツ可シ

(解) 本條ハ執達吏ノ執行手續ノ一タル搜索及ヒ威力ノ使用ニ關スル規定ナリ

執達吏ハ執行上必要ナル場合ニ於テハ債務者ノ住居、倉庫及ヒ筐匣ヲ搜索シ又ハ閉鎖シタル戸扉及ヒ筐匣ヲ開カシムル權利アリ(或國ノ判決例ニ執達吏ハ債務者ノ着用セル服中ヲ調査トナ得ヘントアレトモ我國ニ於テハ何等ノ明文ナシ)斯ノ如ク執達吏ハ搜索權ヲ有スルカ故ニ若シ頑冥ナル債務者アリテ執行ニ付キ抵抗ヲ爲スカ如キ場合ニハ本條第二項ニ從ヒ威力ヲ使用シ且警察上ノ援助ヲ求ムルコトヲ得其他多數人民債務者ニ加担シ兵力ヲ藉ルニアラサレバ到底執行ヲ完ラスル能ハサル場合ニハ其旨ヲ執行裁判所ニ申立ツ可キモノトス

第五百三十七條 執達吏ハ執行行為ヲ爲スニ際シ抵抗ヲ受クルトキ又ハ債務者ノ住居ニ於テ執行行為ヲ爲スニ際シ債務者又ハ成長シタル家族若クハ雇人ニ出會ハサルトキハ成丁者二人又ハ市町村若クハ警察ノ吏員一人ヲ證人トシテ立會ハシム可シ

第五百三十八條 強制執行ニ付キ利害ノ關係ヲ有スル各人ニハ請求ニ因リ執達吏ノ閱覽ヲ許シ及ヒ記録中ニ存スル書類ノ謄本ヲ付與スルコトヲ要ス

(解) 第五百三十七條ハ執達吏カ執行ヲ爲スニ當リ成年者(滿二十年以上ノ能力者)二人又ハ市町村吏員若クハ警察吏員ノ一人ヲ證人トシテ立會ハシム可キ場合ヲ定メ第五百三十八條ハ強制執行ニ付キ利害關係ヲ有スル者ニ記録閱覽及ヒ記録中ニ存スル書類謄本ノ付與ニ關スルコトヲ定メタリ

第五百三十九條 夜間及ヒ日曜日並ニ一般ノ祝祭日ニハ執行裁判所ノ許可アルトキニ限り執行行為ヲ爲スコトヲ得

右許可ノ命令ハ強制執行ノ際之ヲ示ス可シ

(解) 條ハ執行ノ時期付テ規定セリ即チ夜間及ヒ日曜日並ニ一般ノ祝祭日ニハ執行裁判所ノ許可アルニアラサレハ執行ヲ爲スコトヲ得サルナリ右許可ノ命令ハ強制執行ノ際之ヲ示サハル可ラス

(實例) ○債務辨濟確定件 明治二十六年第一號 全年五月六日

大審院ノ判決要旨左ノ如シ

民事訴訟法第五百三十九條ノ規定タルヤ日曜日祝祭日及ヒ夜間ト雖モ債務者ニ於テ拒マサルトキハ裁判所ノ許可ナリシテ執行々爲ヲ爲シ得ルノ精神ナリ

第五百四十條 執達吏ハ各執行行為ニ付キ調書ヲ作ル可シ



此調書ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス

第一 調書ヲ作りタル場所年月日

第二 執行行為ノ目的物及ヒ其重要ナル事情ノ略記

第三 執行ニ與カリタル各人ノ表示

第四 右各人ノ署名捺印

第五 調書ヲ其各人ニ讀聞セ又ハ閱覽セシメ其承諾ノ後署名捺印ヲ爲シタルコトノ開示

第六 執達吏ノ署名捺印

第四號及ヒ第五號ノ要件ヲ具備スルコト能ハサルトキハ其理由ヲ記載ス可シ

(解) 本條ハ執達吏ハ執行調書ヲ作成スヘキ義務アルコト及ヒ此調書ニ記載スヘキ要件(本條第二項第一)ヲ列記シタリ此等ノ要件ヲ具備スル調書ハ法律上公正證書效力ヲ有スヘシ但シ第四號及ヒ第五號ノ要件ハ強テ此手續ヲ行ハシムルコト能ハサルヲ以テ斯ル場合ニハ第四號及ヒ第五號ノ要件ヲ記載セシムルノ要ナク唯其理由ヲ記載スヘキモノトス

第五百四十一條 執行行為ニ屬スル催告其他ノ通知ハ執達吏口頭ヲ以テ之ヲ爲シ且調書ニ之ヲ記載ス可シ

若シ口頭ヲ以テ催告又ハ通知ヲ爲ス能ハサルトキハ(第三百二十九條)第四百十條及ヒ第四百十五乃至第四百十九條ノ設定ヲ準用シテ其調書ノ謄本ヲ送達シ又別ニ送達證ヲ作ラサ

ルトキハ調書ニ其送達ヲ爲シタルコトヲ記載ス可シ若シ

若シ強制執行ノ地ニ於テモ執行裁判所ノ管轄内ニ於テモ送達ヲ爲ス能ハサルトキハ催告又ハ通知ヲ受ク可キ者ニ郵便ヲ以テ調書ノ謄本ヲ送達シ且之ヲ郵便ニ付シタルコトヲ調書ニ記載ス可シ

(解) 本條ハ意義瞭然別ニ詳説スルノ要ナシ、サレハ一ニノ文字ヲ説明スレハ足レリ法文ニ所謂「執行々爲ニ屬スル催告」トハ執達吏カ競賣價額ノ申立ヲ催告シ若クハ閉鎖シタル戸扉及ヒ篋匣ヲ開ク可キ旨ヲ催告スル類ヲ云ヒ「其他ノ通知」トハ例ヘハ第五百六十六條第三項及ヒ第五百九十一條等ノ通知ノ類ヲ云フ

第五百四十二條 執行行為ノ際債務者ニ爲ス可キ送達及ヒ通知ハ債務者ノ所在明カナラサルトキ又ハ外國ニ在ルトキハ之ヲ必要トセス

第五百四十三條 此法律ニ於テ裁判所ニ任カセタル執行行為ノ處分又ハ其行為ノ共助ハ執行裁判所トシテ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

法律ニ於テ別段ニ裁判所ヲ指定セサル各箇ノ場合ニ於テハ執行手續ヲ爲ス可キ地又ハ之ヲ爲シタル地ヲ管轄スル區裁判所ヲ以テ執行裁判所ト看做ス  
執行裁判所ノ裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得

(圖) 此兩條ハ一讀明瞭ナルカ故ニ解釋ヲ試ムルノ要ナシ



第五百四十四條 強制執行ノ方法又ハ執行ニ際シ執達吏ノ遵守ス可キ手續ニ關スル申立及ヒ異議ニ付テハ執行裁判所之ヲ裁判ス又執行裁判所ハ第五百二十二條第二項ニ定メタル命ヲ發スル權ヲ有ス

執達吏カ執行委任ヲ受クルヲ拒ミ若クハ委任ニ從ヒ執行行爲ヲ實施スルコトヲ拒ミタルトキ又ハ執達吏ノ計算セシ手數料ニ付キ異議アルトキハ執行裁判所ハ之ヲ裁判スル權ヲ有ス

(解) 本條乃至第五百四十九條ノ規定ハ強制執行上ヨリ生スル各種ノ申立及ヒ異議ニ關スル裁判權及ヒ裁判方法等ヲ示シタル者ニシテ就中本條ハ其形式上ノ申立及ヒ異議ニ關スル裁判權ヲ規定シタル者ナリ

第五百四十五條 判決ニ因リテ確定シタル請求ニ關スル債務者ノ異議ハ訴ヲ以テ第一審ノ受訴裁判所ニ之ヲ主張ス可シ

右ノ異議ハ此法律ノ規定ニ從ヒ遅クトモ異議ヲ主訴スルコトヲ要スル口頭辯論ノ終結後ニ其原因ヲ生シ且故障ヲ以テ之ヲ主張スルコトヲ得サルトキニ限り之ヲ許ス  
債務者カ數箇ノ異議ヲ有スルトキハ同時ニ之ヲ主張スルコトヲ要ス

(解) 本條第一項所定「判決ニ因リテ確定シタル請求ニ關スル債務者ノ異議」トハ實體法上ノ異議例ヘハ民法上ノ異議ヲ云フ此異議ニ付テノ訴ハ其事件ノ第一審タリ受訴裁判所ニ之ヲ主張スヘキモノニシテ而モ第二項所定ノ制限

ヲ遵守スルヲ要ス從テ此制限ヲ遵守セサル實體法上ノ異議ハ第一審ノ受訴裁判所之ヲ許スコトナシ若シ債務者カ二個以上ノ異議ヲ有スルトキハ如何ト云フニ此場合ニハ各別ニ審理スルヨリモ之ヲ同時ニ審理スルノ優レルニ如カス之ヲ以テ第三項ハ便宜上ニ鑑ミ同時ニ之ヲ主張スルヲ要スト規定シタリ

(實例)

○地所名義引直及地所明渡貸地料請求件 三十一年第十六號 三十二年四月四日

大審院ノ判決要旨左ノ如シ

一本條ハ強制執行ノ方法若クハ其手續等ニ關スル形式上ノ異議ヲ主張スル場合ニ適用スルモノニアラス即チ確定シタル請求ニ關スル實體上ノ異議ヲ主張スル場合ニ限り適用スヘキ規定ナリ(判旨第二點)

第五百四十六條 前條ノ規定ハ第五百十八條第二項ニ及ヒ第五百十九條ノ場合ニ於テ債務者カ執行文付與ノ際證明シタリト認メラレタル事實ノ到來ニシテ此ニ因リ判決ノ執行ヲ爲シ得ヘキヲ争ヒ又ハ認メラレタル承繼ヲ争フトキハ亦之ヲ準用ス但此場合ニ於テ第五百二十二條ノ規定ニ從ヒ執行文ノ付與ニ對シ異議ヲ申立ツル債務者ノ權ハ此カ爲ニ妨ケラルコト無シ

(解) 本條ハ執行上債務者ヲ保護スル規定ニ係ル抑モ強制執行ノ目的タルヤ獨リ債權者ヲ保護スルノミナラス他方ニ於テハ債務者ヲ保護シ以テ公平ニ社會ノ秩序ヲ維持セサル可ラス是ニ於テ乎本條ノ規定アル所以蓋シ偶然ニ非ラ



サルナリ而シテ本條ノ意義ヲ知ルニハ第五百十八條第二項第五百十九條及ヒ第五百二十二條ノ規定ト彼是對照スルヲ  
ヲ要ス然ルトキハ余カ詳解ヲ俟タスシテ意自カラ明カナリ

第五百四十七條 強制執行ノ續行ハ前二條ノ場合ニ於ケル異議ノ訴ノ提起ニ因リ妨ケラル  
コト無シ

然レトモ異議ノ爲メ主張シタル事情カ法律上理由アリト見エ且事實上ノ點ニ付キ疏明ア  
リタルトキハ受訴裁判所ハ申立ニ因リ判決ヲ爲スニ至ルマテ保證ヲ立テシメ若クハ之ヲ  
立テシメスシテ強制執行ヲ停止ス可キコトヲ命シ又ハ保證ヲ立テシメテ強制執行ヲ續行  
ス可キコトヲ命シ又ハ其爲シタル執行處分ヲ保證ヲ立テシメテ取消ス可キコトヲ命スル  
コトヲ得

右裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲シ又急迫ナル場合ニ於テハ裁判長之ヲ爲スコトヲ  
得

急迫ナル場合ニ於テハ執行裁判所モ亦此權利ヲ行使スルコトヲ得此場合ニ於テハ執行裁  
判所ハ受訴裁判所ノ裁判ヲ提出セシムル爲ニ相當ノ期間ヲ定ム可シ此期間ヲ徒過シタル  
トキハ債權者ノ申立ニ因リ強制執行ヲ續行ス

第五百四十八條 受訴裁判所ハ異議ノ訴ニ付キ裁判スル判決ニ於テ前條ニ掲ケタル命ヲ發

シ又ハ既ニ發シタル命ヲ取消シ之ヲ變更シ若クハ之ヲ認可スルコト得

判決中前項ニ掲ケル事項ニ限り職權ヲ以テ假執行ノ宣言ヲ爲ス可シ

右裁判ニ對スル不服ニ付テハ第五百十一條ノ規定ヲ準用ス

以上二條ハ一讀以テ其意知ルニ難カラス故ニ説明ヲ省ク

第五百四十九條 第三者カ強制執行ノ目的物ニ付キ所有權ヲ主張シ其他目的物ノ讓渡若ク

ハ引渡ヲ妨ケル權利ヲ主張スルトキハ訴ヲ以テ債權者ニ對シテ強制執行ニ對スル異議ヲ

主張シ又債務者ニ於テ其異議ヲ正當ナリトセサルトキハ債權者及ヒ債權者ニ對シテ之ヲ

主張スヘシ

右訴ヲ債權者及ヒ債務者ニ對シテ起ストキハ之ヲ共同被告ト爲ス

訴ハ執行裁判所ノ管轄ニ屬ス然レトモ訴訟物カ區裁判所ノ管轄ニ屬セサルトキハ執行裁

判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所之ヲ管轄ス

強制執行ノ停止及ヒ既ニ爲シタル執行處分ノ取消ニ付テハ第五百四十七條及ヒ第五百四  
十八條ノ規定ヲ準用ス但執行處分ノ取消ハ保證ヲ立テシメスシテ之ヲ爲スコトヲ得



(解) 本條ハ第三者カ強制執行ノ目的物ニ付キ所有權ヲ主張シ其他目的物ノ讓渡若クハ引渡ヲ妨ケル權利ヲ主張スル場合ニ關シテ規定セリ蓋シ強制執行ナル者ハ債務者ノ所有ニ係ル財產ニ對シテノミ之ヲ爲スヘキモノナルカ故ニ強制執行ノ目的物カ第三者ノ所有ニ屬スルカ又ハ目的物ノ讓渡若クハ引渡カ第三者ノ權利ヲ妨ケルトキハ第三者ノ權利ヲ保護セサル可ラス是ニ於テ乎第三者ハ訴ヲ以テ債權者ニ對シ其強制執行ニ對スル異議ヲ主張スルヲ得ルモノトセリ又債務者ニ於テ第三者ノ異議ヲ正當トセサルトキハ第三者ノ債權者及ヒ債務者ニ對シテ之ヲ主張スルヲ得ルナリ而シテ第三者カ右ノ訴ヲ債權者及ヒ債務者ノ兩者ニ對シテ提起スルトキハ之ヲ共同被告ト爲スヘキモノトス(第一項及ヒ第二項)

本條第三項及ヒ第四項ハ説明スルニ及ハス

(實例) ○不動産競賣開始決定命令取消請求件 二十八年第三七〇號  
全年十月廿八日

大審院ノ判決要旨左ノ如シ

第三者カ強制執行ノ目的物タル係争物ニ付其所有權ヲ主張スルトキハ民事訴訟法第五百五十八條及ヒ六百八十三條ニ關係ナキモノニシテ同法五百四十九條ノ規定ニ依リ起訴スヘキモノナリ

第五百五十條 強制執行ハ左ノ書類ヲ提出シタル場合ニ於テ之ヲ停止シ又ハ之ヲ制限ス可シ

第一 執行ス可キ判決若クハ其假執行ヲ取消ス旨又ハ強制執行ヲ許サスシテ宣言シ若ク

ハ其停止ヲ命シタル旨ヲ記載シタル執行力アル裁判ノ正本

第二 執行又ハ執行處分ノ一時ノ停止ヲ命シタル旨趣ヲ記載シタル裁判ノ正本

第三 執行ヲ免カルル爲メ保證ヲ立テ又ハ供託ヲ爲シタル旨ヲ記載シタル公正ノ證明書

第四 執行ス可キ判決ノ後ニ債權者カ辨濟ヲ受ケ又ハ義務履行ノ猶豫ヲ承諾シタル旨ヲ

記載シタル證書

(解) 本條ハ強制執行ヲ停止シ又ハ之ヲ制限スルヲ得ヘキ場合ヲ列記セリ即チ第一號乃至第四號ニ列記シタル書類ヲ提出シタル場合ニ外ナラサルナリ

第五百五十一條 前條第一號及ヒ第二號ノ場合ニ於テハ既ニ爲シタル執行處分ヲモ取消ス

可ク第四號ノ場合ニ於テハ既ニ爲シタル執行處分ヲ一時保持セシム可ク第二號ノ場合ニ於テハ其裁判ヲ以テ從前ノ執行行爲ノ取消ヲ命セサルトキニ限り既ニ爲シタル執行處分ヲ一時保持セシム可シ

(解) 本條ハ前條列記ノ書類ニ基ク場合ノ效果ヲ規定シタルニ過キス

第五百五十二條 強制執行ノ開始後ニ債務者カ死亡スルトキハ強制執行ハ遺産ニ對シ之ヲ



續行ス可シ

債務者ノ知ルコトヲ要スル執行行為ヲ實施スル場合ニ於テ相續人アラサルトキ又ハ相續人ノ所在明カナラサルトキハ執行裁判所ハ債權者ノ申立ニ因リ遺産又ハ相續人ノ爲メ特別代理人ヲ任ス可シ

第五百五十三條 強制執行ノ開始後ニ戸主タリシ債務者カ其地位ヲ辭シ又ハ之ヲ矢ヒタルトキハ此變更ノ生セシ當時債務者ノ所持シタル財産ニ付キ前條ノ規定ヲ準用ス

第五百五十四條 強制執行ノ費用ハ必要ナリシ部分ニ限り債務者ノ負擔ニ歸ス此費用ハ強制執行ヲ受クル請求ト同時ニ之ヲ取立ツヘシ

強制執行ノ基本タル判決ヲ廢棄若クハ破毀シタルトキハ其費用ハ之ヲ債務者ニ辨濟ス可シ

第五百五十五條 執行ノ爲メ官廳ノ援助ヲ必要トスルトキハ裁判所ハ其援助ヲ官廳ニ求ム可シ

第五百五十六條 豫備、後備ノ軍籍ニ在ラサル軍人、軍屬ニ對シ兵營及ヒ軍事用廳舎又ハ軍艦ニ於テ強制執行ヲ爲ス可キトキハ債權者ノ申立ニ因リ執行裁判所ハ管轄ノ軍事裁判

所又ハ所屬長官又ハ隊長ニ囑託シテ之ヲ爲ス

囑託ニ因リ差押ヘタル物ハ債權者ノ委任シタル執達吏ニ之ヲ交付ス可シ

第五百五十七條 外國ニ於テ強制執行ヲ爲ス可キ場合ニ於テ其外國官廳カ本邦裁判所ニ法律上ノ共助ヲ爲ス可キトハ債權者ノ申立ニ因リ第一審ノ受訴裁判所ハ之ヲ外國官廳ニ囑託ス可シ

外國駐在ノ本領事ニ依リ強制執行ヲ爲シ得ヘキトハ第一審ノ受訴裁判所ハ之ヲ其領事ニ囑託ス可シ

以上第五百五十二條乃至第五百五十七條ハ一讀明白ナルカ故ニ説明ヲ省ク

第五百五十八條 強制執行ノ手續ニ於テ口頭辯論ヲ經スシテ爲スコトヲ得ル裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

(釋) 本條所定ノ「強制執行ノ手續ニ於テ口頭辯論ヲ經スシテ爲スコトヲ得ル裁判」ニ付テハ我民事訴訟法ハ第五百四十三條第五百四十七條及ヒ第七百三十三條乃至第七百三十五條ニ規定セリ而シテ此種ノ裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得ルナリ

(實例) ○後見人解除事件 明治三十三年宣旨第十一號 全年三月二十五日決定



大審院ノ決定要旨左ノ如シ

一、假處分命令ノ手續ハ一種ノ訴訟手續ニシテ強制執行ノ手續ニ非ラス(本條ニ關係ナシ及ホス者ノミナ掲ク)  
第五百五十九條 強制執行ハ左ノ諸件ニ付テモ爲スコトヲ得

第一 抗告ヲ以テノミ不服ヲ申立ツルコトヲ得ル裁判

第二 執行命令

第三 訴ノ提起受訴裁判所ニ於テ又ハ受命判事若クハ受託判事ノ面前ニ於テ爲シタル和解

第四 第三百八十一條ノ規定ニ從ヒ區裁判所ニ於テ爲シタル和

第五 公證人カ其權限内ニ於テ成規ノ方式ニ依リ作りタル證書但一定ノ金額ノ支拂又ハ他ノ代替物若クハ有價證券ノ一定ノ數量ノ給付ヲ以テ目的トスル請求ニ付キ作りタル證書ニシテ直チニ強制執行ヲ受ク可キ旨ヲ記載シタルモノニ限ル

(解) 本條ハ強制執行ハ第四百九十七條以下ニ定メタル終局判決ノミナラス本條第一號乃至第五號ニ列記ノ諸件ニ付テモ亦之ヲ爲スコトヲ得ル者ト爲シタリ

第五百六十條 前條ニ掲ケタル債務名義ニ因レル強制執行ニハ第五百十六條乃至第五百五

十八條ノ規定ヲ準用ス但第五百六十一條、第五百六十二條ノ規定ニ依リ差異ノ生スルトキハ此限ニ在ラス

(解) 前條第一號乃至第五號ニ列記シタル諸件ト雖、之ニ因リテ強制執行ヲ爲サントスルニハ終局判決ノ場合ニ於ケル強制執行即チ第五百十六條乃至第五百十八條ノ規定ヲ準用スヘキハ固ヨリ當然ノコトタリ然レトモ第五百六十一條、第五百六十二條ニ依リ差異ノ生スルトキハ此限ニアラサルナリ

第五百六十一條 執行命令ニハ其命令ヲ發シタル後債權者又ハ債務者ニ於テ承繼アル場合ニ限り執行文ヲ附スルコトヲ要ス

請求ニ關スル異議ハ執行命令ノ送達後ニ生シタル原因ニ基クトキニ限り之ヲ許ス  
執行文ニ付テノ訴又ハ請求ニ關シ異議ヲ主張スル訴又ハ執行文付與ノ際到來シタリト認メタル承繼ヲ争フ訴ハ執行命令ヲ發シタル區裁判所之ヲ管轄ス但其請求カ區裁判所ノ管轄ニ屬セサルモノナルトキハ管轄地方裁判所ニ其訴ヲ起スヘシ

本條一讀明瞭ナルカ故ニ説明ヲ省ク

第五百六十二條 公證人ノ作りタル證書ノ執行力アル正本ハ其證書ヲ保存スル公證人之ヲ付與ス

執行文付與ニ關スル異議ニ付テノ裁判及ヒ更ニ執行及與付ニ付テノ裁判ハ公證人職務上



ノ住所ヲ有スル地ヲ管轄スル區裁判所ニ於テ之ヲ爲ス  
 請求ニ關スル異議ノ主張ニ付テハ第五百四十五條第二項ニ規定シタル制限ニ從ハス  
 執行文付與ニ付テノ訴又ハ請求ニ關シ異議ヲ主張スル訴又ハ執行文付與ノ際證明シタリ  
 ト認メタル事實ノ到來ニ係リ此ニ因リテ證書ノ執行ヲ爲シ得ヘキモノヲ爭フ訴ハ債務者  
 カ本邦ニ於テ普通裁判籍ヲ有スル地ノ裁判所又ハ此裁判所ナキトキハ第十七條ノ規定ニ  
 從ヒテ債務者ニ對シ訴ヲ起シ得ヘキ裁判所之ヲ管轄ス

(解) 本條ハ公證人ノ作成シタル證書ニ因レル執行力アル正本ノ付與(第五百十六條)執行文付與ニ關スル異議ノ裁  
 判及ヒ其管轄、請求ニ關スル異議、其他執行文ニ付與ニ付ノ訴ノ管轄裁判所、請求ニ關シ異議ヲ主張スル訴ノ管轄裁  
 判所、執行文付與ノ際證明シタリト認メタル事實ノ到來ニ係リ此ニ因リテ證書ノ執行ヲ爲シ得ヘキモノヲ爭フ訴ノ管  
 轄裁判所等ニ付テ規定シタルニ過キス

(實例) ○強制執行ニ對スル異議件 明治三十一年第四百二十八號  
 全三十二年六月九日

大審院ノ判決要旨左ノ如シ

公正證書ノ執行力アル正本ニ基ク請求ニ關スル異議ノ訴ニ付テハ民事訴訟法第五百六  
 十二條第三項アルヲ以テ其異議ノ原因カ公正證書作成以前ニ生シタルト其以後ニ生シ  
 タルトヲ問フ可キモノニアラサルニ依リ公正證書ノ成立上欠缺アル場合ニハ之ヲ原因

トシテ執行ノ取消ヲ求メ得ヘキハ論ヲ俟タサルナリ

第五百六十三條 本編ニ定メタル裁判籍ハ專屬ナリトス

(解) 本條ハ別ニ説明スルマテモナク本編即チ民事訴訟法第一編各條項中ニ付キテ規定シタル裁判籍ハ專屬タリト  
 ノ旨ヲ明示シタルニ過キス

## 第二章 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行

### 第一節 動産ニ對スル強制執行

#### 第一款 通則

第五百六十四條 動産ニ對スル強制執行ハ差押ヲ以テ之ヲ爲ス

差押ハ執行力アル正本ニ掲ケタル請求ヲ債權者ニ辨濟スル爲メ及ヒ強制執行ノ費用ヲ償  
 フ爲メニ必要ナルモノ、外ニ及ホスコトヲ得ス

差押フ可キ物ヲ換價スルモ強制執行ノ費用ヲ償フテ剩餘ヲ得ル見込ナキトキハ強制執行  
 ヲ爲スコトヲ得ス

(解) 動産ニ對スル強制執行ハ差押ヲ以テ行フチ原則トス此差押ハ執行力アル正本ニ掲ケタル請求即チ債權全額ヲ  
 債權者ニ辨濟スル爲メ及ヒ強制執行ノ費用ヲ償フニ必要ナル者ニ限り其以外ニ及ホスコトヲ得ス且差押フ可キ物ヲ價額  
 ニ見積モルモ執行費用ヲ償フテ剩餘ヲ得ル見込立タサル場合ニハ是亦差押ヲ爲スコトヲ得サルナリ



第五百六十五條 第三者が差押ヲ受ク可キ物ニ付キ物上ノ擔保權ヲ有スルモ差押ヲ妨クルコトヲ得ス然レトモ第五百四十九條ノ規定ニ從ヒ訴ヲ以テ賣得金ニ付優先ノ辯濟ヲ請求スル權利ハ此カ爲ニ妨ケラルルコト無シ

此場合ニ於テ請求ノ爲メ主張シタル事情カ法律上理由アリト見エ且事實上ノ點ニ付キ疏明アリタルトキハ裁判所ハ賣得金ノ供託ヲ命ス可シ但シ此事項ニ付テハ第五百四十七條及ヒ第五百四十八條ノ規定ヲ準用ス

(解) 本條ハ債務者カ差押ヲ受ク可キモノニ對シ第三者カ物上担保權ヲ有スル場合ニ關スル差押ヲ示シタル者ニシテ而モ第五百四十九條、第五百四十七條及ヒ第五百四十八條ノ規定ニ關係ヲ有ス、サレハ此等ノ規定ト彼是對照スルトキハ余カ説明ヲ俟タヌシテ意自ラ釋然タル可キナリ

第二款 有體動産ニ對スル強制執行

(解) 舊民法ノ規定ニ依レハ物ニハ有體物ト無體物トノ二種ニ區別セラレタリキ之ニ反シテ改正民法ハ第八十五條ニ「本法ニ於テ物トハ有體物ヲ謂フ」ト規定シタリ從テ改正民法ノ規定上ヨリ云フトキハ物トハ有體物ニ限リ無體物ト謂サハルヲ以テ民法ノ助法タル民事訴訟法ニ於テ特ニ「有體」ナル二字ヲ掲ケルノ要ナシ何トナレハ有體ナル文字ヲ示サズトモ解釋上有體動産タルコトヲ知ルニ難カラサレハナリ故ニ余ハ民事訴訟法改正ノ曉ニハ動産ニ對スル強制執行ト掲ケレハ特ニ「有體動産云々」ト掲ケノ要ナシトス

第五百六十六條 債務者ノ占有中ニ在ル有體動産ノ差押ハ執達吏其物ヲ占有シテ之ヲ爲ス

其物ハ債權者ノ承諾アルトキ又ハ其運搬ヲ爲スニ付キ重大ナル困難アルトキハ之ヲ債務者ノ保管ニ任ス可シ此場合ニ於テハ封印其他ノ方法ヲ以テ差押ヲ明白ニスルトキニ限リ其ノ効力ヲ生ス

執行吏ハ債務者ニソノ差押ヲ爲シタルコトヲ通知ス可シ

(解) 債務者ノ占有中ニ屬スル動産(單ニ動産ト謂ヘハ改正民法ノ規定ヨリ生) 執達吏カ其物ヲ占有シテ差押ヘタルトキヨリ其差押ノ効力ヲ生スヘシ而シテ差押物ヲ債務者ノ保管ニ任スヘキ場合ハ二個アリ一ハ債權者カ承諾シタルキニシテ一ハ運搬ヲ爲スニ付キ重大ナル困難アルトキ即チ是ナリ此場合ニ於テハ封印其他ノ方法ヲ以テ差押ヲ明白ニスルトキニ限リ其効力ヲ生スルモノトス而シテ執達吏カ動産ノ差押ヲ爲シタルトキニ於テ債務者ト現ニ立會ヒ居ル場合ニハ其差押ヲ知ルコトヲ得ルニ依リ別ニ之ヲ通知スルノ要ナシト雖、否ラサル場合ニ於テハ執達吏ハ之ヲ債務者ニ通知スルノ義務アリ即チ本條第三項ハ此通知義務ヲ規定シタルニ過キサルナリ  
法文ニ所謂「占有」トハ自己ノ爲メニスル意思ヲ以テ物ヲ所持スル權利ヲ謂フ

(實例) ○損害要償件 明治二十八年第二百七十九號  
全 年 十月 十二日

大審院判決要旨ヲ摘記スレハ左ノ如シ

動産ノ差押ハ當然執達吏ニ其占有ヲ移シ其使用ヲ禁止スルヲ以テ當然ノ結果トス(判旨第二点)

第五百六十七條 前條ノ規定ハ債權者又ハ物ノ提出ヲ拒マサル第三者ノ占有中ニ在ル物ノ



差押ニ付テモ又之ヲ準用ス

(解) 本條ハ債權者又ハ物ノ提出ヲ拒絶セサル第三者ノ占有中ニ在ル物ハ差押ニ付テ定ム此等ノ差押タルヤ訴訟手續上特別ナル手續ヲ設クルノ要ナキヲ以テ法律ハ前條ノ規定ヲ亦之ニ準用スル者ト爲シタリ之ヲ要スルニ本條ハ便宜上ノ規定ニ外ナラサルナリ

第五百六十八條 果實ハ未ダ土地ヨリ離レサル前ト雖モ之ヲ差押フルコトヲ得然レトモ其差押ハ通常ノ成熟時期ノ前一个月内ニ非サレハ之ヲナスコトヲ得ス

蠶ハ其多分カ繭ヲ成熟スル爲メ揚リ蠶ト爲リタル後ニ非サレハ之ヲ差押フルコトヲ得ス

第五百六十九條 差押ノ効力ハ差押物ヨリ生スル天然ノ產出物ニモ當然及フモノトス

(解) 第三百六十八條ハ天然果實及ヒ蠶ノ差押ニ關スル規定ニシテ第五百六十九條ハ差押ノ効力ハ天然ノ產出物ニモ及ボス旨ヲ規定シタル者ナリ

第五百七十條 左ニ掲クル物ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス

第一 衣服、寢具、家具及ヒ厨具但此物カ債務者及ヒ其家族ノ爲メ欠ク可カラサルトキニ限ル

第二 債務者及ヒ其家族ニ必要ナル一个月間ノ食料及薪炭

第三 技術者、職工及ヒ産婆ニ在テハ其營業上缺ク可カラサル物

第四 農業者ニ在テハ其農業上欠ク可カラサル農具、家畜、肥料及次ノ收穫マテ農業ヲ續行スル爲メ次ク可ラサル農産物

第五 文武ノ官吏、神職、僧侶、公立私立ノ教育場教師、辯護士、公證人及ヒ醫師ニ在テハ其職業ヲ執行スル爲メ欠ク可カラサル物並ニ身分相當ノ衣服

第六 文武ノ官吏、神職、僧侶及ヒ公立私立ノ教育場教師ニ在テハ第六百十八條ニ規定スル職務上ノ収入又ハ恩給ノ差押ヲ受ケサル金額但差押ヨリ次期ノ俸給又ハ恩給支拂マテノ日數ニ應シテ之ヲ計算ス

第七 藥舖ニ在テハ調藥ヲ爲ス爲メ缺クヘカラサル器具及ヒ藥品

第八 勳章及ヒ名譽ノ證標

第九 實印其他職業ニ必要ナル印

第十 神體、佛像其禮拜ノ用ニ供スル物

第十一 系譜

第十二 債務者又ハ其家族ノ未ダ公ニセサル證明ニ關スル物及ヒ債務者又ハ其家族ノ



未タ公ニセサル著述ノ稿本

第十三 債務者及び其家族カ學校ニ於テ使用スル書籍

然レトモ債務者ノ承諾アルトキハ第三號乃至第八號ニ掲ケタル物ヲ除ク外之ヲ差押  
フルコトヲ得

(解) 本條ハ差押ヲ可ラサル動産ヲ規定シタリ而シテ第一號乃至第十三號ニ列記シタル物件中ニハ公益ノ爲メニ差  
拂ヲ禁スルモノト債務者ノ利益ノ爲メニ差押ヲ禁スルモノトアリ公益ノ爲メニ差押ヲ禁スル物件ハ絶對的差押フルコ  
トヲ得サルモノニシテ其物件左ノ如シ

本條第三號乃至第八號ニ列記シタル物件

債務者ノ利益ノ爲メニ差押ヲ禁スル物件ハ公益ノ爲メニ差押ヲ禁スル物件ト異ナリ絶對的差押フルコトヲ得サル者ニ非  
ラスシテ債務者ノ承諾アルトキハ之ヲ差押フルコトヲ得ルモノニシテ左ノ如シ

本條第一號第二號第九號乃至第十三號ニ列記シタル物件

第七十一條 差押物保存ノ爲メ特別ノ處分ヲ必要トスルトキハ執達吏ハ適當ノ方法ヲ以  
テ之ヲ爲スコシ若シ此カ費用ヲ要スルトキハ債權者ヲシテ之ヲ豫納セシメ又債權者數名  
關係スルトキハ其要求額ノ割合ニ從ヒテ其各債權者ヨリ之ヲ豫納セシムヘシ

(解) 本條ハ差押保存ノ爲メ特別ナル處分ヲ必要トスル場合ニ於ケル差押方法ニ關スル規定ナリ

(實例) ○損害要償件 明治三十一年三月六十號  
全三十二年六月十四日

大審院ノ判決要旨左ノ如シ

執達吏カ差押ヲ爲スニ當リ其差押物件中ニ永ク保存シ能ハサル性質ノモノアルトキハ  
差押ト同時又ハ其後ニ於テ之カ相當ノ處分ヲ爲サル可カラサルコトハ民事訴訟法第五  
百七十一條以下ノ規定ニ照シ明白ナレハ苟モ執達吏カ此規定ニ違背シ相當ノ處分ヲ爲  
サス其結果損害ヲ生スルニ至リタルトキハ其賠償ノ責ニ任スヘキハ當然ナリ

第五百七十二條 執達吏ハ差押ヲ實施シタル後債權者又ハ裁判所ノ特別委任ヲ要セスシテ  
以下數條ノ規定ニ從ヒテ公ノ競賣方法ヲ以テ其差押物ヲ賣却スヘシ

(解) 執達吏ハ動産ノ差押ヲ實施シタル後ハ以下數條ノ規定ニ從ヒ公ノ競賣方法ヲ以テ此差押ヲ爲シタル物件ヲ賣  
却セサル可ラス但シ其差押物件ヲ賣却スルニ當テハ別ニ債務者又ハ裁判所ノ特別委任ヲ要スルコトナシ是レ他ナシ執達  
吏ハ其差押物件ヲ賣却スル職務ヲ有スレハナリ

第五百七十三條 競賣ス可キ物ノ中ニ高價ノモノ有ルトキハ執達吏ハ適當ナル鑑定人ヲシ  
テ其評價ヲ爲サシム可シ

(解) 競賣スヘキ物ノ中ニ高價ノモノ例ヘハ金銀、寶玉、古書畫ノ類アル場合ニ於テハ執達吏ハ適當ナル鑑定人ヲ  
シテ其評價ヲ爲サシム可キモノトス

第五百七十四條 差押金錢ハ之ヲ債權者ニ引渡スコシ



執達吏カ金錢ヲ取立テタルトキハ債務者ヨリ支拂ヲ爲シタルモノト看做ス但保證ヲ立テ又ハ供託ヲ爲シテ執行ヲ免カルルコトヲ債務者ニ許シタルトキハ此限ニ在ラス

(解) 金錢ヲ差押ヘタルトキハ換價ノ手續ヲ爲スノ要ナク直チニ之ヲ債權者ニ引渡サル可ラス故ニ執達吏カ金錢ヲ取立テタルトキハ法律ハ債務者ヨリ支拂アリタルモノト看做セリ從テ右ノ金錢ニ對シテハ他ノ債權者ヨリ配當要求ヲ爲スコトヲ得サルヤ固ヨリ論ナシ然レトモ本條第二項但書ノ如キハ之カ例外ニ屬スル規定ニ外ナラサルナリ

第五百七十五條 差押ノ日ト競賣ノ日トノ間ニハ少ナクトモ七日ノ時間ヲ存スルコトヲ要ス但差押債權者、執行力アル正本ニ因リ配當ヲ要求スル債權者及債務者カ競賣ヲ更ニ早ク爲サンコトヲ合意シタルトキ又ハ差押物ヲ永ク貯藏スルニ付キ不相應ノ費用若クハ其物ノ價格ノ著シク減少スル危害ヲ避ケン爲メ競賣ヲ早ク爲スコトノ必要ナルトキハ此限ニ在ラス

(解) 凡ソ社會公衆ヲシテ競賣物件、競賣ノ日及其場所等ヲ知ラシメ且又差押ニ對シ異議ヲ申立テントスル第三者ニ競賣前執行ノ停止ヲ爲サシムルノ機會ヲ與フルニハ豫メ差押ノ日ト競賣ノ日トノ間ニハ相當ナル日時ヲ存セシムルヲ必要トス我民事訴訟法ハ此間ニ於ケル日ハ少ナクトモ七日ノ時間ヲ存セシムルヲ相當ト爲シタリ是レ一般ノ原則ナリ此原則ニ對シテハ例外アリ例外トハ何ソ本條但書ノ場合ヲ謂フ可キナリ

第五百七十六條 競賣ハ差押ヲ爲シタル市町村ニ於テ之ヲ爲ス但差押債權者及ヒ債務者カ他ノ地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ合意シタルトキハ此限ニ在ラス

競賣ノ日時及ヒ場所ハ之ヲ公告ス但公告ニハ競賣ス可キ物ヲ表示ス可シ

(解) 差押物件ヲ競賣スヘキ場所ハ差押ヲ爲シタル市町村ニ於テスルヲ通常トス然レモ差押債權者及ヒ債務者カ競賣ヲ爲シタル市町村以外ノ土地ニ於テ競賣スヘキコトヲ合意シタル場合ニハ此限ニ在ラサルナリ而シテ公告ハ競賣ノ日時及ヒ場所其他競賣ス可キ物件等ヲ社會公衆ニ知ラシムル最良方法ナルカ故ニ本條ハ特ニ第二項ヲ設ケタリ

第五百七十七條 最高價競賣ノ爲メ競落ハ其價額ヲ三回呼上ケタル後之ヲ爲ス

競落物ノ引渡ハ代金ト引換ヘ之ヲ爲ス

最高競買人競賣條件ニ定メタル支拂期日又ハ其定ナキトキハ競賣期日ノ終ル前ニ代金ノ支拂ヲ爲シテ物ノ引渡ヲ求メタルトキハ更ニ其物ヲ競賣ス可シ此場合ニ於テハ前ノ最高競買人ハ競買ニ加ハルコトヲ得ス且再度ノ競落代價カ最初ノ競落代價ヨリ低キトキハ不足ヲ擔任ス可シ其高キトキハ剩餘ヲ請求スルコトヲ得ス

(解) 本條以下數條ハ既ニ差押ヲ實施シタル後ニ於ケル競賣手續ヲ定メタル者ニシテ特ニ本條ハ輕忽ナル競賣ヲ避ケ危險ナル引渡ヲ防キ且完全ナル競賣ヲ實行セシメントノ精神ニ基キ以テ其競賣條件ヲ定メタル者ナリ

第五百七十八條 競賣ハ賣得金ヲ以テ債權者ニ辯濟ヲ爲シ及ヒ強制執行ノ費用ヲ償フニ足ルニ至ルトキハ直チニ之ヲ止ム可シ

第五百七十九條 執達吏賣得金ヲ領収シタルトキハ債務者ヨリ支拂ヲ爲シタルモノト看做



ス但シ保證ヲ立テ又ハ供託ヲ爲シテ執行ヲ免カルコトヲ債務者ニ許シタルトキハ此限ニ在ラス

第五百八十條 金銀物ハ其金銀ノ實價ヨリ競落スルコトヲ許サス其實價マテニ競賣ヲ爲ス者ナキトキハ執達吏ハ金銀ノ實價ニ達スル價額ヲ以テ適宜ニ之ヲ賣却スルコトヲ得

第五百八十一條 執達吏有價證券ヲ差押ヘタルトキハ相場アルキノハ賣却日ノ相場ヲ以テ適宜ニ之ヲ賣却シ其相場ナキモノハ一般ノ規定ニ從ヒテ之ヲ競賣ス可シ

第五百八十二條 有價證券ノ記名ナルトキハ執行裁判所ハ買主ノ氏名ニ書換ヲ爲サシメ及ヒ此カ爲メ必要ナル陳述ヲ債務者ニ代リテ爲ス權ヲ執達吏ニ與フルコトヲ得

第五百八十三條 無記名ノ證券ニシテ記名ニ換ヘ又ハ他ノ方法ニ依リ流通ヲ止メタルモノナルトキハ執行裁判所ハ其流通回復ヲ爲サシメ及ヒ此カ爲メ必要ナル陳述ヲ債務者ニ代リテ爲ス權ヲ執達吏ニ與フルコトヲ得

第五百八十四條 土地ヨリ離レサル前ニ差押ヘタル果實ノ競賣ハ其成熟ノ後始メテ之ヲ爲スコトヲ許ス執達吏ハ競賣ノ爲メ其收穫ヲ爲サシムルノ權利アリ差押ヘタル蠶ノ競賣ハ全ク繭ト爲リタル後始メテ之ヲ爲スコトヲ許ス

第五百八十五條 差押債權者、執行力アル正本ニ因リ配當ヲ要求スル債權者又ハ債務者ノ申立ニ因リ執行裁判所ハ前數條ノ規定ニ依ラス他ノ方法又ハ他ノ場所ニ於テ差押物ノ賣却ヲ爲スコキ旨又ハ執達吏ニ依ラス他ノ者ヲシテ競賣ヲ爲サシム可キ旨ヲ命スルコトヲ得

以上第五百七十八條乃至第五百八十五條ハ法文簡明ニ付キ説明スルノ要ヲ見ス

第五百八十六條 執達吏ハ既ニ差押ヘタル物ニ付キ他ノ債權者ノ爲メ更ニ差押ノ手續ヲ爲スコトヲ得ス

執達吏ハ既ニ差押ヘテ爲シタル執達吏ニ差押調書ノ閱覽ヲ求メテ物ノ照査ヲ爲シ未ダ差押ニ係ラサル物アルトキハ之ヲ差押ヘ既ニ差押ヲ爲シタル執達吏ニ差押調書ヲ交付シ且總テノ差押物ヲ競賣ニ付スコサコトヲ求ム可シ若シ差押ヲ可キ物アラサルトキハ照査調書ヲ作り既ニ差押ヲ爲シタル執達吏ニ之ヲ交付ス可シ

前項ノ求ニ因リ執行ニ關スル債權者ノ委任ハ既ニ差押ヲ爲シタル執達吏ニ法律上移轉ス假差押ニ係ル物ニ付テハ本條ノ規定ヲ適用セス

(解) 本條以下配當要求ニ關スル規定ニシテ就中本條ハ執行力アル正本ニ因レル債權者ノ配當要求ニ付テ規定シタル者ナリ



第一項 執達吏が第一ノ債権者ノ爲ニ既ニ差押ヲ實施シタル物件ハ他ノ債権者ノ爲メ更ニ差押ヲ爲スコトヲ得サル旨ヲ示シタリ

第二項 乙ナル執達吏ハ同一ナル債務者ノ財産ニ付キ既ニ差押ヲ爲シタル甲ナル執達吏ニ對シ差押調書ノ閱覽ヲ求メテ物件ノ照査ヲ爲シ未タ差押ニ係ラサル物件アルトキハ之ヲ差押ヘ既ニ差押ヲ爲シタル甲ナル執達吏ニ差押調書ヲ交付シ且テ總テノ差押物件ヲ競賣ニ付ス可キヲ求メサル可ラス若シ差押ヲ可キ物件アラサルトキハ乙ナル執達吏ハ照査調書ヲ作成シ既ニ差押ヲ爲シタル甲ナル執達吏ニ之ヲ交付スヘキモノトス之ヲ稱シテ照査手續ト云フ

第三項 及ヒ第四項ハ余カ説明ヲ俟タスシテ明カナリ

(實例) ○預金請求件 明治二十五年第五百七十九號 全二十六年四月二十日

大審院ノ判決要旨ヲ摘記スレハ左ノ如シ 既ニ差押ヘタル物ニ付キ他ノ債権者ノ爲更ニ差押ヘヲ爲スコトヲ得ス

又民事訴訟法第五百八十六條第四項、第六百九條第三及ヒ第六百十九條等ニヨリ假差押及債権ノ差押ニ付テハ同時若シクハ漸時ニ數多ノ差押ヲ爲シ得ルハ例外ニ屬ス 數多ノ假差押ヲ爲シ若シクハ假差押ニ係ル物ニ付キ更ニ強制執行手續ヲ爲シ得可ク又此等ノ場合ニ於ケル假差押ニ付テハ配當加入ノ効力アルヲ以テ其債權額ハ配當ヲ實施スルトキニ於テ尙之ヲ供託スルコトヲ要ス

第五百八十七條 前條ニ掲ケタル物ノ照査手續ハ配當要求ノ効力ヲ生シ又既ニ爲シタル差

押ヲ取消ト爲リタルトキハ差押ノ効力ヲ生セス

第五百八十八條 適當ナル期間經過スルモ執達吏競賣ヲ爲サルトキハ差押債権者及ヒ執行力アル正本ニ因リ配當ヲ要求スル債権者ハ一定ノ期間内ニ競賣ヲ爲スコトヲ催告シ其催告ノ效アラサルトキハ相當ノ命令アランコトヲ執行裁判所ニ申請スルコトヲ得

以上二ヶ條ハ法文簡明ニシテ説明ヲ附スルノ要ナシ

第五百八十九條 民法ニ從ヒ配當ヲ要求シ得ヘキ債権者ハ執行力アル正本ニ因スシテ賣得金ノ配當ヲ要求スルコトヲ得

(解) 本條ハ第五百八十六條ノ規定ト異ナリ執行力アル正本ニ因ラサル債権者ノ配當要求ニ關スル手續ヲ規定シタル者ナリ

第五百九十條 前條ノ配當要求ハ其原因ヲ開示シ且裁判所ノ所在地ニ住居ヲモ事務所ヲモ有セサル者ハ假住所ヲ選定シ執達吏ニ之ヲ爲ス可シ

第五百九十一條 第五百八十六條第二項及第五百九十條ノ場合ニ於テ執達吏ハ配當要求ノ有リタルコトヲ配當ニ與カル各債権者及ヒ債務者ニ通知ス可シ

執行力アル正本ニ因スシテ配當ヲ要求スル債権者アルトキハ債務者ハ執達吏ノ通知アリタルヨリ三日ノ期間内ニ其債權ヲ認諾スルヲ否ヤヲ執達吏ニ申立ツ可シ



債務者カ認諾セサルコトヲ執達吏ヨリ通知アリタルトキハ債權者ハ其通知アリタルヨリ三日期間内ニ債務者ニ對シ訴ヲ起シ其債權ヲ確定ス可シ

第五百九十二條 配當ノ要求ハ競賣期日ノ終ニ至ルマテ之ヲ爲スコトヲ得

第五百九十三條 賣得金ヲ以テ配當ニ與カル各債權ヲ満足セシムルニ足ラサル場合ニ於テ債權者間ニ配當ノ協議調ハサルトキハ其得賣金ヲ共託ス可シ

數多ノ債權者ノ爲メ同時ニ金錢ヲ差押ヘタルトキハ之ヲ以テ各債權者ヲ満足セシムルニ足ラサル場合ニ於テモ亦同シ

右ノ場合ニ於テ執達吏ハ其事情ヲ執行裁判所ニ届出ツ可ク其届書ニハ執行手續ニ關スル書類ヲ添附ス可シ

以上第五百九十條乃至第五百九十三條ノ四ヶ條ハ意義瞭然タルニ依リ余カ喋々ヲ俟タサルナリ

第三款 債權者及ヒ他ノ財産權ニ對スル強制執行

第五百九十四條 第三者(第二債務者)ニ對スル債務者ノ債權ニシテ金錢ノ支拂又ハ他ノ有體物若シクハ給付ヲ目的トスルモノノ強制執行裁判所差押命令ヲ以テ之ヲ爲ス

(解) 本條ハ債權者ハ債務者カ第三者(第三債務權)ニ對シテ金錢ノ支拂又ハ他ノ有價物若クハ有價証券ノ引渡若ク

ハ給付ヲ目的トスル債權ニ付テハ強制執行ハ執行裁判所ノ差押命令ヲ以テ之ヲ爲ス旨ヲ規定シタリ

法文括弧中ノ「第三債務者」トハ通常當事者以外ノ他人ナリト雖、或場合例ヘハ債權者カ同時ニ債務者ノ債務者タルカ如キ場合ニ於テハ債務者自己カ第三債務者ノ地位ニ立ツ者トス

第五百九十五條 執行裁判所トシテハ債務者ノ普通裁判籍ヲ有スル地ノ區裁判所若シ此區裁判所ナキトキハ第十七條ノ規定ニ從ヒテ債務者ニ對スル訴ヲ管轄スル區裁判所管轄權ヲ有ス

第五百九十六條 債權者ハ差押命令ノ申請ニ差押フ可キ債權ノ種類及ヒ數額ヲ開示ス可シ右申請ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第五百九十七條 差押命令ハ豫メ第三債務者及ヒ債務者ノ審訊ヲ經スシテ之ヲ發ス

(解) 以上三ヶ條ハ別ニ解説スルノ要ナシト雖、今其概要ヲ示セハ第五百九十五條ハ執行裁判所トシテノ管轄裁判所ヲ定メ第五百九十六條ハ差押命令ノ申請ニ付テ定メ第五百九十七條ハ差押命令ヲ發スル場合ニ關シテ定メタル者ナリ

第五百九十八條 金錢ノ債權ヲ差押フ可キトキハ裁判所ハ第三債務者ニ對シ債務者ニ支拂ヲ爲スコトヲ禁シ又債務者ニ對シ債權ノ處分殊ニ其取立ヲ爲ス可カラサルコトヲ命ズ可シ  
差押命令ハ職權ヲ以テ第三債務者及ヒ債務者ニ之ヲ送達シタル旨ヲ通知ス可シ



差押ハ第三債務者ニ對スル送達ヲ以テ之ヲ爲シタルモノト看做ス

(解) 本條ハ金錢ノ債權ヲ差押フ可キ場合ニ於ケル差押命令ニ付テ規定セリ此命令ハ第三債務者ニ對テ債務者ニ支拂ヲ爲スヲ禁シ又ハ債務者ニ對シ債權ノ處分殊ニ取立ヲ爲スコトヲ禁スルモノトス是他ナシ債權者ノ權利ヲ保全セントノ目的ニ外ナラサルナリ又此命令ハ裁判所ノ職權ヲ以テ第三債務者及ヒ債務者ニ送達シ債權者ニハ其送達ヲ爲シタル旨ヲ通知スヘシ而シテ第三債務者ニ對スル命令ノ送達ヲ以テ法律ハ差押アリタルモノト看做スモノトス

(實例) ○地所賣渡代金請求件 明治三十九年第三百八十四號 全三十二年四月八日

大審院ノ判決要点ヲ摘記スレハ左ノ如シ

差押命令ナル者ハ債務者ニ執行力アル正本ヲ既ニ送達シタル後ニ非サレハ假令第三債務者ニ對シ其差押命令ヲ發シタリトテ無効ナリ

第五百九十九條 抵當アル債權ノ差押ノ場合ニ於テハ債權者ハ債務者ノ承諾ヲ要セスシテ其債權ノ差押ヲ登記簿ニ記入スル權利アリ

此記入ノ申請ハ裁判所ニ之ヲ爲ス可シ其申請ハ差押命令ノ申請ト之ヲ併合スルコトヲ得裁判所ハ義務ヲ負コタル不動産ノ所有者(第三債務者)ニ差押命令ヲ送達シタル後記入ノ手續ヲ爲ス可シ

本條ハ一讀明瞭セルカ故ニ説明ヲ省ケ

第六百條 差押ヘタル金錢ノ債權ニ付テハ差押債權者ノ選擇ニ從ヒ代位ノ手續ヲ要セスシテ之ヲ取立ツル爲メ又ハ支拂ニ換ヘ券面額ニテ差押債權者ニ之ヲ轉付スル爲メ命令アラントコトヲ申請スルコトヲ得

右命令ノ送達ニ付テハ第五百九十八條第二項ノ規定ヲ準用ス

(解) 本條ハ金錢ノ債權ヲ差押ヘタルトキニ於ケル處分方法ヲ規定セリ此方法ニ二種アリ一チ取立命令ト謂ヒ他チ轉付命令ト謂フ取立命令ハ代位ノ手續ヲ要セス債務者カ第三債務者ニ對シテ有スル金錢ノ債權ヲ差押債權者ニ付與スル命令ニシテ轉付命令ハ債務者カ第三債務者ニ對シテ有スル金錢ノ債權ヲ支拂ニ換ヘ券面額ニテ差押債權者ニ移轉セシムル命令ナリ而シテ取立命令タルト將々轉付命令タルトナ問ハス債權者ノ申請ニ基キテ命令スル者ニシテ而モ取立命令ヲ申請スルト轉付命令ヲ申請スルトハ債權者ノ選擇ニ從フヘキモノトス

第六百一條 支拂ニ換ヘ券面額ニテ債權ヲ轉付スル命令アル場合ニ於テハ其債權ノ存スル限リハ第五百九十八條第二項ノ手續ヲ爲スニ因リ債務者ハ債權ノ辨濟ヲ爲シタルモノト

看做ス

(解) 本條ハ前條規定中ノ轉付命令ヨリ生スヘキ當然ノ結果ヲ規定シタル者ナリ

(實例) ○証書取戻公証取戻急訴件 明治二十九年第七十七號 全三十二年六月十八日



大審院ノ判決要旨左ノ如シ

凡ソ債權ノ轉付ハ債務ノ存在スルトキニ限り有效ナリ

第六百二條 取立ノ爲メノ命令ハ其債權ノ全額ニ及フモノトス但執行裁判所ハ債務者ノ申立ニ因リ差押債權者審訊シテ差押額ヲ其債權者ヲ要求額マテニ制限シ其超過スル額ノ處分殊ニ取立ヲ爲スヲ許スコトヲ得

其制限シタル部分ニ限り他ノ債權者ハ配當要求ヲ爲スコトヲ得ス

右許可ハ第三債務者及ヒ債權者ニ通知ス可シ

(解) 本條ハ前條ノ規定ト異ナリ取立命令ノ效力ヲ規定シタル者ナリ

第六百三條 手形其他裏書ヲ以テ移轉スルコトヲ得ル證券ニ因レル債權ノ差押ハ執達吏其證券ヲ占有シテ之ヲ爲ス

第六百四條 俸給又ハ此ニ類スル繼續收入ノ債權ノ差押ハ債權額ヲ限トシ差押後ニ收入ス可キ金額ニ及フモノトス

第六百五條 職務上收入ノ差押ハ債務者ノ轉官兼任又ハ増俸ニ因ル收入ニモ亦及フモノトス

第六百六條 債務者ハ債權ニ關スル所持ノ證書ヲ差押債權者ニ引渡ス義務アリ債權者ハ差押命令ニ基キ強制執行ノ方法ヲ以テ其證書ヲ債務者ヨリ取上ケシムルコトヲ得

第六百七條 第五百五條第二項ニ從ヒテ債務者ニ保證ヲ立テシメ又ハ供託ヲ爲サシメテ執行ヲ免カルルコトヲ許ス可キトキハ差押ヘタル金錢債權ニ付テハ取立ノ命令ノミヲ爲ス可シ但此命令ハ第三債務者ヲシテ債務額ヲ供託セシムル效力ノミヲ有ス

第六百八條 債權者取立ヲ爲シタルトキハ其旨ヲ執行裁判所ニ届出ツ可シ

以上第六百三條乃至第六百八條ノ規定ハ法文簡明ナルカ故ニ説明ノ要ヲ見ス

第六百九條 差押債權者ハ第三債務者ヲシテ差押命令ノ送達ヨリ七日ノ期間内ニ書面ヲ以テ左ノ陳述ヲ爲サシメシムルコトヲ裁判所ニ申立ツルコトヲ得

第一 債權ノ認諾ノ有無及ヒ其限度並ニ支拂ヲ爲ス意思ノ有無及ヒ其限度

第二 債權ニ付キ他ノ者ヨリ請求ノ有無及ヒ其種類

第三 債權カ既ニ他ノ債權者ヨリ差押ヘラレタルコトノ有無及ヒ其請求ノ種類

右ノ陳述ヲ求ムル催告ハ之ヲ送達證書ニ記載ス可シ第三債務者陳述ヲ怠リタルトキハ此ニ因リテ生スル損害ニ付キ其責ニ任ス



(解) 本條ハ債權者カ債權ノ差押ヲ爲シタル場合ニ於テ第三債務者ヲシテ第一號乃至第二號ニ列記シタル陳述ヲ爲サシムルト、此陳述ヲ爲サシタル期間ハ差押命令ノ送達ヨリ七日ノ期間内タルト陳述ヲ求タル催告及ヒ第三債務者カ陳述ヲ怠リタルトキノ賠償責任等ニ付テ規定シタル者セリ

(實例) ○轉付債權金請求件 二十八年第三一九號 二十九年二月廿六日

大審院ノ判決要旨左ノ如シ

第三債務者ハ差押債權者ニ對シ其債務者ニ對シテ有スル權利若クハ抗辨ヲ主張スルコトヲ得ルナリ

第六百十條 債權者カ命令ノ旨趣ニ基キ第三債務者ニ對シテ訴ヲ起スニ至リタルトキハ一般ノ規定ニ從ヒテ管轄ヲ有スル裁判所ニ其訴ヲ起シ且債務者内國ニ在リテ住所ノ知レタルトキハ其訴訟ヲ之ニ告知ス可シ

(解) 本條ハ債權者カ第三債務者ニ對シ命令ノ旨趣即チ訴ヲ以テ第三債務者ニ對シ債權ノ執行ヲ爲サシメントスルニ至リタル場合ニ於ケル管轄ヲ定ム此場合ニ於ケル管轄ハ本法一般ノ規定ニ從ヒテ管轄權ヲ有スル裁判所ニ其訴ヲ提起セサル可ラス又債務者カ日本帝國内ニ在ルモ更ニ住所ノ知レサル場合ニハ其訴訟ヲ告知スルト能ハスト雖住所ノ知レタル場合ニハ之ヲ告知スルトヲ要ス

第六百十一條 債權カ取立ヲ爲ス可キ債權ノ行用ヲ怠リタルトキハ此カ爲メ債務者ニ生

タル損害ノ責ニ任ス

(解) 本條ハ民法第七百九條ノ原則(不法爲)ヨリ生スル當然ノ結果ヲ規定セリ即チ債權者カ取立ヲ爲ス可キ債權ノ行用ヲ怠リタル場合ニハ不法行爲ノ原則ニ依リ此カ爲メ債務者ニ生シタル損害ヲ賠償スル責ニ任セサル可ナサルモノトス

(參照) 民法第七百九條ニ曰ク故意又ハ過失ニ因リテ他人ノ權利ヲ侵害シタル者ハ之ニ生リテ因シタル損害ヲ賠償スル責ニ任ス

第六百十二條 債權者ハ命令ニ因リ取立ノ爲メ取得シタル權利ヲ拋棄スルコト得但此カ爲メ其請求ヲ害セラレコト無シ

此拋棄ハ裁判所ニ届書ヲ差出シテ之ヲ爲ス但其謄本ハ第三債務者及ヒ債務者ニ之ヲ送達ス可シ

第六百十三條 差押ヘタル債權カ條件附若ノハ有期ナルトキ又ハ反對給付ニ繋リ若クハ他ノ理由アリテ其取立ノ困難ナルトキハ裁判所ハ申立ニ因リ取立ニ換ヘ他ノ換價方法ヲ命スルコトヲ得

債務者内國ニ在リテ住所ノ知レタルトキハ其申立ヲ許ス決定前ニ之ヲ審訊ス可シ

第六百十四條 有體物ノ引渡又ハ給付ノ請求ニ對スル強制執行ハ以下數條ノ規定ニ斟酌シ



テ第五百九十八條乃至第六百十二條ノ規定ニ從ヒ之ヲ爲ス  
以上三ヶ條ハ一讀明白ナリ故ニ説明ル省ケ

第六百十五條 有體動産ノ請求ノ差押ニ付テハ其動産ヲ債權者ノ委任シタル執達吏ニ引渡ス可キコトヲ命ス可シ

右動産ノ換價ニ付テハ差押物ノ換價ニ關スル規定ヲ適用ス

(解) 本條ハ動産ノ請求ノ差押ニ關シテ特別ナルコトヲ規定セリ此差押ニ付テハ其動産ヲ債權者ノ委任シタル執達吏ニ引渡ス可キコトヲ命ス可キモノナリ而シテ執達吏ハ此引渡ヲ受ケタル動産物ノ換價ニ付テハ差押物ノ換價ニ關スル第五百七十二條以下ノ規定ヲ適用スヘキモノトス

(實例) ○損害要償件 二十八年第二百七十九號  
全年十月二十二日

大審院ノ判決例要旨左ノ如シ

一、假差押申請者カ本案ノ請求立タスシテ敗訴スルトキハ不當ニ他人ノ財産ヲ差押ヘタルモノナルヲ以テ之ニ因リ生シタル損害ニ付テハ其責ニ任ス可キモノトス

一、動産ノ差押ハ執達吏ニ其占有ヲ移シ其使用ヲ禁止スルヲ以テ當然ノ結果トス

第六百十六條 不動産ノ請求ノ差押ニ付テハ債權者ノ申立ニ因リ其不動産所在地ノ區裁判所ヨリ命シタル保管人ニ引渡ス可キコトヲ命ス可シ

引渡シタル不動産ニ付テノ強制執行ハ不動産ニ對スル強制執行ニ付テノ規定ニ從ヒテ之ヲ爲ス

本條ハ意義明確ナルカ故ニ説明ヲ省ケ

第六百十七條 有體物ノ引渡又ハ給付ノ請求ニ付テハ支拂ニ換ヘ轉付スル命令ヲ爲スコトヲ得

(解) 本條ハ物ノ引渡又ハ給付ノ請求ニ付テハ轉付命令ヲ爲スコトヲ禁シタリ若シ斯ル場合ニ於テ轉付命令ヲ許サンカ却テ債權者及ヒ債務者ノ利益ヲ公平ニ保護スルコト能ハサルノ虞アルヲ以テ特ニ本條ノ規定ヲ設ケタル所以ナリ

第六百十八條 左ニ掲クル債權ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス

第一 法律上ノ養料

第二 債務者カ義捐建設所ヨリ又ハ第三者ノ慈惠ニ因リ受クル繼續ノ收入但債務者及ヒ其家族ノ生活ノ爲メ必要ナルモノニ限ル

第三 下士、兵卒ノ給料並ニ恩給及ヒ其遺族ノ扶助料

第四 出陣ノ軍隊又ハ役務ニ服シタル軍艦ノ乗組員ニ屬スル軍人、軍屬ノ職務上ノ收入

第五、文武ノ官吏、神職、僧侶及ヒ公立私立ノ教育上教師ノ職務上ノ收入、恩給及ヒ



其遺族ノ扶助料

第六 職工、勞役者又ハ雇人カ其勞力又ハ役務ノ爲ニ受クル報酬

第一號、第五號、第六號ノ場合ニ於テ職務上ノ收入、恩給其他ノ收入カ一個年間ニ三百圓ヲ超過スルトキハ其超過額ノ半額ヲ差押フルコトヲ得

(解) 本條ハ債權及ヒ他ノ財産權ニ對スル強制執行ニ付テハ總テノ場合ニ汎ク適用スルコトヲ得ヘキ規定ニシテ第一號乃至第六號ニ掲ケシ債權ハ之ヲ差押フルコトヲ禁シタリ蓋シ之ヲ禁シタル理由ハ社會公共ノ利益及ヒ公安保護ノ爲ニ外ナラサルナリ

第六百十九條 數名ノ差押債權者ノ爲メ同時ニ爲スキ債權ノ差押ニ付テハ前數條ノ規定ヲ準用ス

(解) 本條ハ債權ノ差押ヲ數名ノ債權者ノ爲メニ爲ス場合ニシテ第五百九十三條第二項ト同一ノ場合ナルカ故ニ別ニ説明スルノ要ナシ

第六百二十條 執行力アル正本ヲ有スル債權者及ヒ民法ニ從ヒ要求ヲ爲シ得ヘキ債權者ハ差押債權者カ取立ヲ爲シ其旨ヲ執行裁判所ニ届出ツルマテ又ハ執達吏カ賣得金ヲ領收スルマテ配當ヲ要求スルコトヲ得但執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者ニ付テハ第五百九十條及ヒ第五百九十一條第二項第三項ノ規定ヲ適用ス

支拂ニ換ヘテノ轉付ノ命令アリタル後ハ配當ノ要求ヲ爲スコトヲ得ス

右配當要求ハ職權ヲ以テ之ヲ第三債務者、債務者及ヒ差押債權者ニ送達シ又既ニ爲シタル差押カ取消ト爲リタルトキハ執行力アル正本ニ因リ要求シタル債權者ノ爲メ要求ノ順序ニ因リ差押ノ效力ヲ生ス

(解) 本條ハ差押債權者以外ノ者カ既ニ差押ヘラレタル債權ニ付キ配當加入ヲ求ムルコトヲ得ヘキ期限及ヒ其方法ヲ定ム法文所定ノ執行力アル正本ヲ有スル債權者トハ如何ナル債權者ナリヤト云フニ例ハ確定判決ニ依リ執行命令ヲ附セラレタル判決正本ヲ所有スル者或ハ公正證書ニ執行命令ノ附與セラレタル證書ヲ所有スル者ノ類ヲ云フナリ

第六百二十一條 金錢ノ債權ニ付キ配當要求ノ送達ヲ受ケタル第三債務者ハ債務額ヲ供託スル權利アリ

第三債務者ハ配當ニ與カル或ル債權者ノ求ニ因リ債務額ヲ供託スル義務アリ

第三債務者債務額ヲ供託シタルトキハ其事情ヲ裁判所ニ届出ツ可シ

(解) 本條ハ既ニ差押ヲ受ケタル後ニ至リ第三債務者ニ對シ其配當要求ヲ爲スモノアル場合ヲ豫想シ以テ第三債務者ノ權利義務ヲ明示セリ殊ニ第一項ハ第三債務者カ差押債權者ニ對スル權利ヲ定メ第二項ハ第三債務者カ配當ニ與カル總テノ債權者ニ對スル義務ヲ定メ第三項ハ第三債務者カ債務額ヲ供託シタル場合ニ於ケル其事情ノ届出ニ關シテ定メタル者ナリ

第六百二十二條 請求カ不動産ニ關スルトキノ第二債務者ハ其不動産所在地ノ區裁別所カ



差押債権者又ハ第三債権者ノ申立ニ因リ命シタル保管人ニ事情ヲ開示シ且送達セラレタル命令ヲ添ヘ其不動産ヲ引渡ス權利ヲ有シ又ハ差押債権者ノ求ニ依リ之ヲ引渡ス義務アリ

(解) 本條ハ請求カ不動産ニ關スル場合ニ於ケル第三債権者カ權利トシテ行フコトヲ得ヘキ事項及ヒ不動産ヲ引渡ス義務(但シ差押債権ノ求ニ因ラサル可ラス)ニ付テ規定シタル者ナリ

第六百二十三條 第三債権者カ取立手續ニ對シテ義務ヲ履行セサルトキハ差押債権者ハ訴ヲ以テ之ヲ履行セシムルコトヲ得

執行力アル正本ヲ有スル各債権者ハ共同訴訟人トシテ原告ニ加ハル權利アリ

訴ヲ受ケタル第三債権者ハ原告ニ加ハラサル債権者ヲ共同訴訟人トシテ呼出アランコトヲ口頭辨論第一期日マテニ申立ツルコトヲ得

右ノ場合ニ於ケル裁判ハ呼出ヲ受ケタル債権者ニ利害ヲ及ホス效力アリ

(解) 凡ソ第三債権者カ義務ヲ履行セサルトキニ於テハ金錢ノ債權タルト將タ他ノ物ノ請求タルトモ間ハス差押債権者ハ訴ヲ以テ之ヲ履行セシムル權利アリ斯ク權利ヲ有スルカ故ニ訴ヲ提起スル場合ニ於テハ執行力アル正本ヲ有スル各債権者ハ共同訴訟人トシテ原告ノ訴ニ加入スル權利ヲ有スヘシ  
第二項及ヒ第三項ハ意義明白別ニ説明スルノ要ナシ

第六百二十四條 差押債権者取立手續ヲ怠リタルトキハ執行力アル正本ニ因リ要求シタル

各債権者ハ一定ノ期間内ニ取立ヲ爲スコトヲ催告シ其催告ノ效アラサルトキハ執行裁判所ノ許可ヲ得テ自ら取立ヲ爲スコトヲ得

(解) 本條ハ差押債権者カ取立手續ヲ懈怠シタル場合ニ關シテ規定セリ此場合ニ於テハ獨リ差押債権者ノ損害ヲ蒙ルノミナラス執行力アル正本ニ依リ配當要求ヲ爲セシ凡テノ債権者モ亦之ヲ損害ヲ免カルコトヲ得サルハ蓋シ當然ノ事理ニ屬ス故ニ執行力アル正本ニ依リ配當要求ヲ爲シタル各債権者ハ一定ノ期間内ニ取立ヲ爲スコトヲ催告スル權利アリ然ルニ往々其催告ヲ爲シタルニ拘ハラズモ其效ヲ生セサルヲ以テ法律ハ執行裁判所ノ許可ヲ得テ自ら取立ヲ爲スコトヲ得ルモルト爲シタリ

第六百二十五條 不動産ヲ目的トセス又前數條ニ掲ケタル以外ノ財産權ニ對スル強制執行ニ付テハ本款ノ規定ヲ準用ス

若シ第三債権者ナキトキハ差押ハ債務者ニ權利ノ處分ヲ禁スル命令ヲ送達シタル日時ヲ以テ之ヲ爲シタルモノト看做ス

右ノ場合ニ於テハ裁判所ハ特別ノ處分殊ニ其權利ノ管理若シクハ讓渡ヲ命スルコトヲ得

(解) 本條ハ債權及ヒ不動産以外ノ他ノ財産權ニ對スル強制執行ニ關スル最終ノ規定ナリ  
法文ニ所謂「以外ノ財産權」トハ例ヘハ株式會社ノ財産ニ對スル株主ノ權利ノ如キヲ謂ヒ又「第三債権ナキ」トハ即チ第三債権者ナキ財産權例ヘハ芝居若クハ角力興行等ノ場合ニ木戸錢ヲ取り又ハ渡場船ニテ渡船賃ヲ取得スルカ如キヲ謂



フナリ

第四款 配當手續

第六百二十六條 配當手續ハ動産ニ對スル強制執行ニ際シ競賣期日又ハ金錢差押ノ日ヨリ十四日ノ期間内ニ債權者間ノ協議調ハサル爲メ金額ヲ供託シタルトキ之ヲ爲ス

(解) 本條ハ配當手續ハ如何ナル場合ニ於テ之ヲ行フヲ得ルヤヲ明カニセリ

第六百二十七條 裁判所ハ事情届書ニ基キ七日ノ期間内元金、利息、費用其他附帶ノ債權ノ計算書ヲ差出ス可キ旨ヲ各債權者ニ催告ス可シ

第六百二十八條 前條ノ期間滿了後裁判所ハ配當表ヲ作ル可シ

右期間ヲ遵守セサル債權者ノ債權ハ配當表ヲ作ルニ際シ配當要求並ニ届書ノ旨趣及ヒ其憑據書類ニ依リ之ヲ計算ス但後ニ債權額ヲ補充スルコトヲ許サス

(解) 此兩條ハ一讀明瞭ナリ故ニ一ニノ文字ヲ説明スレハ足レリ法文ニ所謂「前條ノ期間ノ滿了後」トハ第六百二十七條所定ノ七日ノ期間經過後ヲ云ヒ「配當表」トハ各債權者ノ氏名、債權ノ數額及ヒ債權ノ種類等ヲ明カニスル爲メニ作成シタル表ヲ云フ

第六百二十九條 裁判所ハ配當表ニ關スル陳述及ヒ配當實施ノ爲メ期日ヲ指定シ其期日ニハ各債權者及ヒ債務者ヲ呼出ス可シ但債務者ノ所在明カナラサルトキ又ハ外國ニ在ルト

キハ呼出ヲ爲スコトヲ要セス

配當表ハ各債權者及ヒ債務者ニ閱覽セシムル爲メ遅クトモ期日ノ二日前ニ裁判所書記課ニ之ヲ備置クベシ

第六百三十條 期日ニ於テ異議ノ申立ナキトキハ配當表ニ從ヒテ其配當ヲ實施ス可シ

停止條件付ノ債權ノ配當額ハ仍ホ之ヲ供託シ民法ニ從ヒテ條件ノ成否ニ依リ後ニ之ヲ支拂ヒ又ハ更ニ配當ス可シ

第五百九十一條第三項ノ場合又ハ假差押ノ場合ニ於テ未タ確定セサル債權其他異論アル債權ノ配當額ハ仍ホ之ヲ供託ス可シ

配當實施ニ付テハ調書ヲ作ル可シ

第六百三十一條 異議ノ申立アルトキハ他ノ債權者ハ直チニ陳述ヲ爲ス可シ若シ關係人異議ヲ正當ナリト認ムルトキ又ハ他ノ方法ニ於テ合意スルトキハ之ニ從ヒ配當表ヲ更正シ配當ヲ實施ス可シ

異議ノ完結セサルトキハ異議ナキ部分ニ限り配當ヲ實施ス可シ

(解) 此三々條モ亦一讀明瞭ナリ故ニ一ニノ文字ヲ説明スレハ足レリ第六百二十九條所定ノ「期日」トハ配當期日ヲ



謂ハ第六百三十條第二項所定ノ「停止條件附」下ハ法律行為ノ效果ノ發生ノ際ルヘキ事項ヲ目的トシタル者ニシテ且當  
事者カ未タ其有無ヲ知ラサル者ヲ謂フ

(實例) 競賣代金配當加入差拒ノ件 明治三十一年第八四號  
全三十一年五月二十三日  
大審院ノ判決要旨左ノ如シ

配當ノ實施ニ付キ異議アルトキハ民事訴訟法第六百二十九條第六百三十條第六百三十  
一條等ノ規定ニ從ヒ異議ノ申立ヲ爲スヘキモノニシテ直ニ訴ヲ以テ之ヲ主張スヘキ者  
ニアラルナリ

第六百三十二條 期日ニ出頭セサル債權者ハ配當表ノ實施ニ同意シタルモノト看做ス  
若シ期日ニ出頭セサル債權者カ他ノ債權者ヨリ申立テタル異議ニ關係ヲ有スルトキハ其  
債權者ハ異議ヲ正當ナリト認メサルモノト看做ス

第六百三十三條 期日ニ於テ異議ノ完結セサルトキハ異議ヲ申立テタル債權者ハ他ノ債權  
者ニ對シ訴ヲ起シタルコトヲ期日ヨリ七日ノ期間内ニ裁判所ニ證明ス可シ若シ其期間ヲ  
徒過シタル後ハ裁判所ハ異議ニ拘ハラズ配當ノ實施ヲ命ス可シ

(解) 第六百三十二條ハ配當期日ニ債權者中ニ出頭セサル者アル場合ニ適用ス可キ規定ニシテ第六百三十三條ハ異

申立タル債權者カ盡スヘキ責任及ヒ其異議ノ目的ヲ全セシムル方法ヲ規定シタル者ナリ

第六百三十四條 異議ヲ申立テタル債權者前條ノ期間ヲ怠リタルトキト雖モ配當表ニ從ヒ  
テ配當ヲ受ケタル債權者ニ對シ訴ヲ以テ優先權ヲ主張スル權利ハ配當實施ノ爲メ妨ケラ  
ルルコト無シ

(解) 本條ハ異議ヲ申立タル債權者カ前條ニ定メタル七日ノ期間ヲ怠リタル場合ト雖、特別ノ原因ヨリシテ尙ホ出  
訴ヲ爲シ得ル旨ヲ明カニセリ  
法文ニ所謂「優先權ヲ主張スル」トハ先取特權、抵當權等ヲ有スル者カ其權利ヲ主張スルヲ云フ

(實例) ○優先權確認件 明治三十年第九十號  
全三十年十一月廿六日  
大審院ノ判決要旨左ノ如シ

一、適法ニ調製セラレ且孰レノ債務者モ異議ヲ申立テスシテ適法ニ實施セラレタル配當  
表ハ終局的判決ノ性質ヲ有シ裁判及ビ各債權者ヲ絕對ニ羈束シ得ル確定決定ノ効力ア  
リ而シテ此確定決定ニ對シ不服ノ訴權ヲ有スル者ハ民事訴訟法第六百三十四條ニ規定  
スル異議ヲ申立タル債權者ニ限リ其他ノ債權者ハ斯ル訴權ヲ有スルコトナシ  
一、配當實施後ニ至リ之ニ不服ヲ唱ヘ訴ヘテ起シテ不動産上ノ抵當權ヲ主張スルニハ配  
當表ニ對シ異議ヲ申立タルモノナラサル可ラス



第六百三十五條 異議ヲ申立テタル債權者ノ訴ニ付テハ配當裁判所之ヲ管轄ス然レモ訴訟物カ區裁判所ノ管轄ニ屬セサルトキハ其配當裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所之ヲ管轄ス若シ數箇ノ訴ノ提起アリタル場合ニ於テ一ノ訴ヲ地方裁判所カ管轄スルトキハ其他ノ訴ヲモ亦之ヲ管轄ス但各債權者總テノ異議ニ付キ配當裁判所ノ裁判ヲ受ク可キコトヲ合意シタルトキハ此限ニ在ラス

第六百三十六條 異議ニ付キ裁判ヲ爲ス判決ニハ配當額ノ係争部分ヲ如何ナル債權者ニ如何ナル數額ヲ以テ支拂フ可キヤヲ定ム可シ若シ之ヲ定ムルコトヲ適當トセサルトキハ判決ニ於テ新ナル配當表ノ調製及ヒ配當手續ヲ命ス可シ

第六百三十七條 異議ヲ申立テタル債權者カ口頭辯論ノ期日ニ出頭セサルトキハ異議ヲ取下ケタルモノト看做ス旨ノ闕席判決ヲ爲ス可シ

第六百三十八條 前二條ノ判決確定ノ證明アルトキハ配當裁判所ハ其判決ニ基キ支拂又ハ他ノ配當手續ヲ命ス

以上四ヶ條ハ讀マ字ノ如ク別ニ説明ヲ附スルノ要ナシ

第六百三十九條 裁判所ハ配當表ニ依リテ左ノ手續ヲ爲シ配當ヲ實施ス可シ

債權全部ノ配當ヲ受ク可キ債權者ニハ配當額支拂證ヲ交付スルト同時ニ其所持スル執行力アル正本又ハ債權ノ證書ヲ差出サシメ之ヲ債務者ニ交付ス可シ債權一分ノミノ配當ヲ受ク可キ債權者ニハ執行力アル正本又ハ債權ノ證書ヲ差出サシメ配當額ヲ記入シテ返還シ且配當額支拂證ヲ交付スルト同時ニ右債權者ヨリ金額ヲ證記シタル受取書ヲ差出サシメ之ヲ債務者ニ交付ス可シ

期日ニ出頭セサル債權者ノ配當額ハ仍ホ之ヲ供託ス可シ

右ノ手續ヲ爲シタルトキハ調書ニ記載シテ之ヲ明確ニス可シ

(解) 本條ハ配當裁判所カ配當表ニ依リテ配當ヲ實施スルニハ本條第二項乃至第五項ノ規定ニ從フヘシトノ旨ヲ規定シタル者ナリ

法文ニ所謂「債權全部ノ配當ヲ受ケル債權者」トハ例ヘハ先取特權ヲ有シタルヲ以テ債權全額ノ支拂ヲ受ケタル債權者ノ類ヲ云ヒ、其他ノ各法文ハ事理頗フル明白ナレハ一々之ヲ説明スルノ要ナシ

第二節 不動産ニ對スル強制執行

第一款 通 則

第六百四十條 不動産ニ對スル強制執行ハ左ノ方法ヲ以テ之ヲ爲ス



第一 強制競賣  
第二 強制管理

債權者ハ自己ノ選擇ニ依リ一箇ノ方法ヲ以テ又ハ二箇ノ方法ヲ以テ併セテ執行セシムルコトヲ得

強制管理ハ假差押ノ執行ノ爲ニモ亦之ヲ爲ス

(解) 不動産ニ對スル強制執行ハ二種ノ方法ヲ以テ之ヲ爲ス可キ者ニシテ左ノ如シ

(甲) 強制競賣 強制競賣ニ付テハ本法ハ第四百四十二條以下ニ規定セリ

(乙) 強制管理 強制管理ニ付テハ本法ハ第七百六條以下ニ規定セリ

此二箇ノ方法中即チ強制競賣ノ方法ニ依ルカ若クハ強制管理ノ方法ニ依ルカハ債權者タル者ノ隨意行爲ニ一任セリ又此二箇ノ方法ヲ併セテ執行スルトモ債權者ノ隨意行爲タリ故ニ本條第二項ハ「自己」ノ選擇ニ依リ云々ト規定シタル者トス而シテ強制管理ハ假差押ノ爲メニモ亦之ヲ爲ス可キ得ヘシ假差押ニ付テハ本法ハ第七百三十七條以下ニ規定シタルヲ以テ讀者請フ之ヲ参照セラレヨ

第四百四十一條 不動産ニ對スル強制執行ニ付テハ其不動産所在地ノ區裁判所執行裁判所トシテ之ヲ管轄ス若シ其不動産數箇ノ區裁判所ノ管轄區内ニ散在スルトキハ第二十六條ノ規定ヲ適用ス

強制執行ハ申立ニ因リテ裁判所之ヲ爲ス

(解) 本條ハ不動産ニ對スル強制執行ニ付テノ裁判所ノ管轄ヲ明カニシタル者ナリ

第二款 強制競賣

第四百四十二條 強制競賣ノ申立ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス

第一 債權者、債務者及ヒ裁判所ノ表示

第二 不動産ノ表示

第三 競賣ノ原因タル一定ノ債權及ヒ其執行シ得ヘキ一定ノ債務名義

(解) 本條ハ強制競賣ノ申立ニ付テ其必要の條件ヲ列記シタリ故ニ左ニ掲ケル條件中其一チ缺クトキハ執行裁判所ハ其申立ヲ無効トシテ却下スヘシ

第一債權者、債務者及ヒ裁判所ヲ表示スルコト 「債權者」トハ申立ヲ爲スモノヲ謂ヒ「債務者」トハ強制執行ヲ受ケヘキ者ヲ謂ヒ「裁判所」トハ管轄裁判所ヲ謂フ

第二不動産ヲ表示スルコト 例ヘハ何府縣、何市、郡、何町、村、字、番號、地目、反別等ヲ明記スルカ如キヲ謂フ

第三競賣ノ原因タル一定ノ債權及ヒ其執行シ得ヘキ一定ノ債務名義タルコト 「競賣ノ原因タル一定ノ債權」トハ例

ヘハ賣買ニ於ケル代金請求若クハ貸金ニ於ケル返済請求等ノ如キヲ謂ヒ「其執行シ得ヘキ一定ノ債務名義」トハ例ヘハ判決決定若クハ和解證書等ノ如キヲ謂フ

第四百四十三條 申立ニハ執行力アル正本ノ外左ノ證書ヲ添附ス可シ

第一 登記簿ニ債務者ノ所有トシテ登記シタル不動産ニ付テハ登記判事ノ認證書



第二 登記簿ニ登記アラサル不動産ニ付テハ債務者ノ所有タルコトヲ證ス可キ證書

第三 地所ニ付テハ國郡市町村、字、番地、地目反別若クハ坪數、土地臺帳ニ登録シ

タル地價及ヒ其地所ニ付キ納ム可キ一ケ年ノ租稅其他ノ公課ヲ證ス可キ證書

第四 建物ニ付テハ國郡市町村、字、番地、構造ノ種類、建坪及ヒ其建物ニ付キ納ム

可キ一ケ年ノ公課ヲ證ス可キ證書

第五 地所、建物ニ付キ賃貸借アル場合ニ於テハ其期限並ニ借賃ヲ證ス可キ證書

第二號、第三號及ヒ第四號ノ要件ニ付テハ債權者公簿ヲ主管スル官廳ニ其證明書ヲ求ム

ルコトヲ得

第四號及ヒ第五號ノ要件ヲ證明スル能ハサルトキハ債權者ハ競賣申立ノ際其取調ヲ執行  
裁判所ニ申請スルコトヲ得但此場合ニ於テハ裁判所ハ執達吏ヲシテ其取調ヲ爲サシム可  
シ

強制管理ノ爲メ既ニ不動産ヲ差押ヘタル場合ニ於テ其執行記録ニ第一號乃至第五號ノ要  
件ヲ記載シタルモノ有ルトキハ其證書ヲ添附スルコトヲ要セズ

(解) 本條第一項ハ不動産ノ強制競賣申立ニ付テハ執行力アル正本ノ外第一號乃至第五號列記ノ證書ヲ添附スヘキ

者ト爲シタリ

第二項ニ所謂「官廳」トハ之ヲ廣義ニ解スルコト正當トス故ニ官廳中ニハ純然タル官衙ハ勿論公廳即チ市町村役場ノ如  
キモ包含スヘシ

第三項及ヒ第四項ハ一讀明瞭ナルニ依リ説明ヲ省ク

第六百四十四條 競賣手續ノ開始決定ニハ同時ニ債權者ノ爲メ不動産ヲ差押フルコトヲ宣  
言ス可シ

差押ハ債務者カ不動産ノ利用及ヒ管理ヲ爲スコトヲ妨ケス

差押ハ其決定ヲ債務者ニ送達スルニ因リ其効力ヲ生ス此送達ハ職權ヲ以テ之ヲ爲ス

(解) 本條第一項ハ競賣手續ノ開始決定ニハ之ト同時ニ債權何某ノ爲メ不動産ヲ差押フルコトヲ宣告セサル可ラサル  
モノトシ第二項ハ不動産ノ差押ハ動産ノ差押ト異ナリ債務者カ不動産ノ利用及ヒ管理ヲ爲スコトヲ妨ケサル旨ヲ示シ第  
三項ハ下動産差押ノ効力ハ其決定ヲ債務者ニ送達スルニ因リテ生スルコト及ヒ此送達ハ執行裁判所ノ職權ニ屬スル旨ヲ  
規定シタル者トス

第六百四十五條 裁判所ハ競賣手續開始ノ決定ヲ爲シタル不動産ニ付キ強制競賣ノ申立ア  
ルモ更ニ開始決定ヲ爲スコトヲ得ス

右申立ハ執行記録ニ添附スルニ因リ配當要求ノ効力ヲ生シ又既ニ開始シタル競賣手續取  
消ト爲リタルトキハ第六百四十九條第一項ノ規定ヲ害セサル限りハ開始決定ヲ受ケタル



効力ヲ生ス

假差押ノ命令アリタル不動産ニ付テハ本條ノ規定ヲ適用セス

(解) 本條ハ或ル債務者ノ爲メニ競賣手續開始セラレタル後其不動産ニ對シ更ニ強制競賣ヲ請求スル者アルトキニ於ケル競賣手續ヲ定ム就中第一項ハ其精神殆ント第五百八十六條第一項ニ該當シ第二項ハ第五百八十七條ニ該當シ第三項ハ第五百八十六條末項ニ該當スルモノナリ

第六百四十六條 配當要求ハ其原因ヲ開示シ且裁判所ノ所在地ニ住居ヲモ事務ヲモ有セサル者ハ假住所ヲ選定シテ執行裁判所ニ之ヲ爲ス可シ

右要求ハ競落期日ノ終ニ至ルマテ之ヲ爲スコトヲ得

第六百四十七條 執行裁判所ハ前二條ノ申立及ヒ要求アリタルコトヲ利害關係人ニ通知ス可シ

執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者アルトキハ債務者ハ右通知アリタルヨリ三日ノ期間内ニ其債權ヲ認諾スルヤ否ヤヲ裁判所ニ申立ツ可シ

債務者カ認諾セサルコトヲ裁判所ヨリ通知アリタルトキハ債權者ハ其通知アリタルヨリ三日ノ期間内ニ債務者ニ對シ訴ヲ起シ其債權ヲ確定ス可シ

以上ニケテハ意義瞭然タルカ故ニ説明ノ要ナシ

第六百四十八條 左ニ掲クル者ヲ競賣手續ニ於テノ利害關係人ト爲ス

第一 差押債權者及ヒ執行力アル正本ニ因リ配當ヲ要求スル債權者

第二 債務者

第三 登記簿ニ記入アル不動産上權利者

第四 不動産上權利者トシテ其債權ヲ證明シ執行記録ニ備フ可キ届出ヲ爲シタル者

(解) 本條ハ競賣手續ノ場合ニ於ケル利害關係人トハ如何ナル關係ヲ有スル者ナルヤ其範圍ヲ一定セリ斯ク利害關係人ノ範圍ヲ一定スル所以ハ他ナシ蓋シ本條第一號乃至第四號ニ列記シタル者ヲ各條項ニ一々列記スルハ錯雜ニ陷ルニノミナラス一國法典ノ體裁上ヨリ云フモ決シテ當讀スヘキニアラス故ニ本條ニ於テ其範圍ヲ一定シタル所以ナリ

第六百四十九條 差押債權者ノ債權ニ先タツ債權ニ關スル負担ヲ不動産ノ競落人ニ引受ケシムルカ又ハ賣却代金ヲ以テ其負担ヲ辨濟スルニ足ル見込アルトキニアラサレハ賣却ヲ爲スコトヲ得ス

不動産上ニ存スル一切ノ先取特權及ヒ抵當權ハ賣却ニ因リテ消滅ス  
留置權カ不動産ノ上ニ存スル場合ニ於テハ競落人ハ其留置權ヲ以テ担保スル債權ヲ辨濟スル責ニ任ス

質權カ不動産ノ上ニ存スル場合ニ於テハ競落人ハ其質權を以テ担保スル債權及ヒ質權者



ニ對シ優先權ヲ有スル者ノ債權ヲ辨濟スル責ニ任ス

(解) 本條第一項ハ動産差押手續ニ關スル第五百六十四條第三項ト殆ント其精神ヲ同フセリ  
第二項乃至第四項ハ明治三十一年法律第十一號ヲ以テ本條ノ如ク改正セラレタリ蓋シ本條ノ如ク改正シタル所以ハ民事訴訟法ノ實體法タル民法ノ改正ヨリ生スル當然ノ結果ニ外ナラサルナリ

(參照) 改正民法施行法第五十一條(明治三十一年法律第十一號參照)

第六百五十條 權利ヲ取得スル第三者其取得ノ際差押又ハ競賣ノ申立アリタルコトヲ知リタルトキハ差押ノ効力ニ對シ其善意ナリシコトヲ主張スルコトヲ得ス

若シ不動産カ差押ノ原因タル債權ノ爲メ義務ヲ負擔スルトキハ差押後所有ノ移轉シタル場合ニ限り新所有者其取得ノ際差押又ハ競賣ノ申立アリタルコトヲ知ラサルトキト雖モ競賣手續ヲ續行ス可シ競賣申立ノ取下ニ因リテ差押ハ消滅ス

第六百五十一條 裁判所ハ競賣手續開始ノ決定ヲ爲ス際職權ヲ以テ競賣ノ申立アリタルコトヲ登記簿ニ記入ス可キ旨ヲ登記判事ニ囑託ス可シ

登記判事ハ前項ノ囑託ニ從ヒテ記入ヲ爲ス可シ

第六百五十二條 登記判事ハ前條ニ掲ケタル記入ヲ爲シタル後登記簿ノ謄本ヲ裁判所ニ送付シ不動産上權利者ヨリ差出シタル證書アルトキハ其抄本ヲモ送付ス可シ

第六百五十三條 豫メ知ルニ於テハ手續ノ開始ヲ妨ク可キ事實カ登記判事ノ通知ニ依リ顯ハルルトキハ裁判所ハ其事情ニ因リ直チニ手續ヲ取消シ又ハ裁判所ノ意見ヲ以テ定ムル期間内ニ其障礙ノ消滅シタルコトヲ證明ス可キコトヲ債權者ニ命ス可シ其期間内ニ此證明ヲ爲ササルトキハ期間ノ滿了後職權ヲ以テ手續ヲ取消ス可シ

第六百五十四條 裁判所ハ競賣開始ノ決定ヲ爲シタルトキハ租稅其他ノ公課ヲ主管スル官廳ニ通知シ其不動産ニ對スル債權ノ有無及ヒ限度ヲ申立ツ可キコトヲ期ヲ定メテ催告ス可シ

第六百五十五條 裁判所ハ登記判事及ヒ租稅其他ノ公課ヲ主管スル官廳ヨリ通知ヲ受ケタル後鑑定人ヲシテ不動産ノ評價ヲ爲サシメ其評價額ヲ爲サシメ其評價額ヲ以テ最低競賣價額ト爲ス

第六百五十六條 裁判所ハ最低競賣價額ヲ以テ差押債權者ノ債權ニ先タツ不動産上ノ總テノ負擔及ヒ手續ノ費用ヲ辨濟シテ剩餘アル見込ナシトスルトキハ差押債權者ニ其旨ヲ通知ス可シ

右通知ヨリ七日ノ期間内ニ差押債權者カ前項ノ負擔及費用ヲ辨濟シテ剩餘アル可キ價額



ヲ定メ且其價額ニ應スル競買人ナキ場合ニ於テハ自ラ價額ヲ以テ買受ク可キ旨ヲ申立テ十分ナル保證ヲ立テサルトキハ競賣手續ヲ取消ス可シ

第六百五十七條 裁判所ハ前條第一項ノ債權者及ヒ費用ヲ辨濟シ剩餘ヲ得ル見込アルトキ又ハ差押債權者前條第二項ノ申着ヲ爲シ十分ナル保證ヲテタルトキハ職權ヲ以テ競賣期日及ヒ競落期日ヲ定メテ之ヲ公告ス

以上第六百五十條乃至第六百五十七條ノ規定ハ法文簡明ニ付キ説明ヲ省ケ

第六百五十八條 競賣期日ノ公告ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス

第一 不動産ノ表示

第二 租稅其他ノ公課

第三 賃貸借アル場合ニ於テハ其期限並ニ借賃

第四 強制執行ニ因リ競賣ヲ爲ス旨

第五 競賣期日ノ場所日時及ヒ競賣ヲ爲ス可キ執達吏ノ氏名並ニ住所

第六 最低競賣價額

第七 競賣期日ノ場所及ヒ日時

第八 執行記録ヲ閱覽シ得ヘキ場日

第九 登記簿ニ記入ヲ要セサル不動産上權利ヲ有スル者其債權ヲ申立ツ可キ旨

第十 利害關係人競賣期日ニ出頭ス可キ旨

(解) 本條ハ競賣期日ノ公告ヲ爲ス場合ニ於ケル必要の條件ヲ列記セリ故ニ第一號乃至第十號ノ諸件ヲ具備セサル競賣期日ノ公告ハ無効ナリ從テ此必要の條件ニシテ具備スル以上ハ假令此條件ト共ニ他ノ特別ノ賣却條件アリテ之ヲ掲載スルト雖決シテ無効ト爲ラサルヤ明カナリ

第六百五十九條 競賣期日ハ公告ノ日ヨリ少ナクトモ十四日ノ後タル可シ

此期日ハ裁判所ノ意見ヲ以テ裁判所内又ハ其他ノ場所ニ於テ執達吏ヲシテ之ヲ開カシム

(解) 本條ハ競賣期日ト公告トノ間ニハ少ナクトモ十四日ノ猶豫期日ヲ要スルコト及ヒ此競賣期日ハ如何ナル場所ニ於テ開始ス可キモノナルヲ規定シタルニ過キス

第六百六十條 競落期日ハ競賣期日ヨリ七日ヲ過クルコトヲ得ス

此期日ハ裁判所ニ於テ之ヲ開ク

(解) 本條ハ競落期日ニ關スル規定ナリ此期日ハ競賣期日ヨリ起算シ七日ヲ經過スルコトヲ得ス且競落期日ハ競賣期日ト異ナリ必スヤ裁判所ニ於テ之ヲ開始セサル可ラス從テ裁判所以外ノ場所ニ於テハ之ヲ開始スルコトヲ得サルナリ

第六百六十一條 競賣期日ノ公告ハ左箇所ノニ揭示シテ之ヲ爲ス

第一 裁判所ノ揭示板



第二 不動産所在地ノ市町村ノ揭示板

此他公告ハ裁判所ノ意見ニ從ヒ一箇又ハ數箇ノ新聞紙ニ掲載スルコトヲ得

(解) 本條第一項ハ競賣期日ノ公告ヲ爲スヘキ場所ヲ定メタル者ニシテ左ノ如シ

(甲) 裁判所ノ揭示板ニ揭示シ以テ公衆ヲ告知スル

(乙) 不動産所在地ノ市町村ノ揭示板ニ揭示シ以テ公衆ニ告知スル

第二項ハ競賣期日ノ公告ハ新聞紙ニモ掲載スルコトヲ得ルモノトセテ詳言スレハ競賣期日ハ公衆ヲシテ周知セシムルヲ必要トスルカ故ニ第一項ニ掲ケタル場所ノミナラス裁判所ノ意見ニ從フトキハ一個又ハ數箇ノ新聞紙ニ掲載スルコトヲ得ルナリ尤モ第一項ノ二箇ノ場所ハ法定ノ場所ナルヲ以テ必スヤ其場所ニハ揭示セサル可ラサル者トス

第六百六十二條 最低競賣價額ヲ除ク外本款ニ掲ケタル賣却條件ノ變更ハ利害關係人ノ合

意アルトキニ限り之ヲ許ス但此合意ハ競賣期日ニ至ルマテヲ爲スコトヲ得

第六百六十三條 競賣期日ヲ開キタル後執達吏ハ執行記録ヲ各人ノ閱覽ニ供シ又特別ノ賣

却條件アルトキハ之ヲ告知シ但競賣價額申出ヲ催告ス可シ

以上二ヶ條ハ一覽明瞭ナリ故ニ説明ヲ省ク

第六百六十四條 利害關係人カ或ル競買人ヨリ保證ヲ立テシメントヲ申立ツルトキハ其

競買人カ保證トシテ競買價額十分ノ一ニ當ル金額ヲ現金又ハ有價證券ヲ以テ直チニ執達

吏ニ預クルトキニ非サレハ其競買ヲ許サス

右申立ハ競買價額ノ申出アリタル後直ニ之ヲ述フルコトヲ要ス其申立ハ同一ナル競買人

ノ其後ノ競買ニ付テモ亦効力アリ

(解) 法文ニ所謂「利害關係人」トハ第六百四十八條ニ列記シタル者ヲ謂フ本條第一項ハ此等ノ者カ或ル競買人ヨリ

保證ヲ立テシメントヲ申立ツル場合ニ關シテ規定セリ此場合ニ於テハ其競買人カ保證トシテ競買價額十分ノ一ニ當ル

金額ヲ現金又ハ有價證券ヲ以テ直チニ執達吏ニ預クルトキニ非サレハ其競買ヲ許サス蓋シ現金又ハ有價證券ヲ以テ保

證ヲ立テシムル理由ハ競買申出者ニシテ引受ヲ爲スニ足ル可キ資力ナキ者ニ對シテ之ヲ爲スヘキモノナリ故ニ其身元

確實ニシテ自ラ申出タル競買價格ニ對シ之カ支拂ニ苦ムカ如キ情況ナキニ於テハ固ヨリ之ヲ立テシムルノ必要ヲ惹起

セス是ニ於テ乎本條第一項ハ「利害關係人」カ……保證ヲ立テシメントヲ申立ツルトキ……云々ト規定シタル所以ナ

第二項ハ保證ヲ立テシメントノ申立及ヒ其申立ノ効力ニ關シテ規定シタル者ナリ

第六百六十五條 競買ヲ許サレタル各競買人ハ更ニ高價ノ競買ノ許アルマテ其申出テタル

價額ニ付キ拘束ヲ受クルモノトス

競賣ハ競買價額ヲ申出ツ可キ催告後滿一時間ヲ過クルニ非サレハ之ヲ終局スルコトヲ得

第六百六十六條 執達吏ハ最高價競買人ノ氏名及ヒ其價額ヲ呼上ケタル後競賣ノ終局ヲ告

知ス可シ



他ノ各競買人ハ右ノ告知ニ因リ其競賣ノ責務ヲ免カレ且預タル保證アルトキハ即時ニ其返還ヲ求ムル權利アリ

(解) 此兩條ハ詳説ヲ試ムルノ要ナシ故ニ其大意ヲ摘記ス即チ第六百六十五條ハ競買ヲ實行スル場合ニ於ケル價額ノ拘束力及ヒ競賣終局ノ時期ヲ明カニシ第六百六十六條ハ競賣終局ノ手續及ヒ其手續ヨリ生スル當然ノ效果ヲ明カニシタル者ナリ

第六百六十七條 競賣ニ付キ作ルヘキ調書ニハ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス

第一 不動産ノ表示

第二 差押債權者ノ表示

第三 執行記録ヲ各人ノ閱覽ニ供シタルコト又特別賣却條件アルトキ之ヲ告知シタルコト

第四 競賣價額ノ申立ヲ催告シタル日時

第五 總テノ競買價額並ニ其申出人ノ氏名住所又ハ許ス可キ競買ノ申出ナキコト

第六 競賣ノ終局ヲ告知シタル日時

第七 申立ニ因リ競買ノ爲メ保證ヲ立テタルコト又ハ申立アルモ立テサル爲メ其競買ヲ計ササルコト

第八 最高價競買人ノ氏名及ヒ其價額ヲ呼上ケタルコト

最高價競買人及ヒ出頭シタル利害關係人ハ調書ニ署名捺印ス可シ若シ此等ノ者調書ノ作成前ニ退席シタルトキハ其旨ヲ附記ス可シ

競買ノ保證ノ爲メ預リタル金銭又ハ有價證券ヲ返還シタルトキハ執達吏ハ受取證ヲ取り之ヲ調書ニ添附ス可シ

(解) 本條第一項第一號乃至第八號ハ競賣ニ付キ作成スヘキ調書ノ必要の條件ヲ列記セリ、サレハ此等ノ條件中其一ヲ缺キタル調書ハ無効ニ歸スヘシ第二項ハ最高價競買人及ヒ出頭シタル利害關係人ノ調書ニ捺印スヘキ義務及ヒ此等ノ者カ調書ノ作成以前ニ退席シタル場合ニハ其旨ヲ附記スヘキ義務アルヲ示シ第三項ハ競買ノ保證ノ爲メ預リタル金銭又ハ有價證券ヲ返還シタル場合ニ關シテ規定セリ

第六百六十八條 執達吏ハ調書及ヒ總テ競買ノ保證ノ爲メ預リタル金銭又ハ有價證券ニシテ返還セサルモノハ三日内ニ裁判所書記ニ之ヲ渡ス可シ

第六百六十九條 最高價競買人執行裁判所ノ所在地ニ住居ヲモ事務所ヲモ有サルトキハ其所在地ニ假住所ヲ選定シ其旨ヲ裁判所ニ届出ツ可シ若シ之ヲ怠リタルトキハ第四百三十三條第三項ノ規定ヲ準用ス

住所ノ選定ハ執達吏ニ口述シ其調書ヲ作ラシメテ之ヲ爲スコトヲ得



第六百七十條 競賣期日ニ於テ許ス可キ競買價額ノ申出ナキトキハ第六百四十九條第一項ノ規定ヲ害セサル限リハ裁判所ハ其意見ヲ以テ最低競賣價額ヲ相當ニ低減シ新競賣期日ヲ定ム可シ若シ其期日ニ於テ仍ホ許ス可キ競買價額ノ申出ナキトキモ亦同シ  
新競賣期日ハ少ナクトモ十四日ノ後タル可シ

第六百七十一條 裁判所ハ競落期日ニ出頭シタル利害關係人ニ競落ノ許可ニ付キ陳述ヲ爲サシムヘシ

競落ノ許可ニ付テノ異議ハ期日ノ終ニ至ルマテニ之ヲ申立ツ可シ既ニ申立テタル異議ニ對スル陳述ニ付テモ亦同シ

以上第六百六十八條乃至第六百七十一條ハ法文簡易ナルカ故ニ説明ヲ省ク

第六百七十二條 競落ノ許可ニ付テノ異議ハ左ノ理由ニ基クコトヲ要ス

- 第一 強制執行ヲ許ス可カラサルコト又ハ執行ヲ續行ス可カラサルコト
- 第二 最高價競買人賣買契約ヲ取結ヒ若クハ其不動産ヲ取得スル能力ナキコト
- 第三 法律上ノ賣却條件ニ牴觸シテ競買ヲ爲シタルコト又ハ總テノ利害關係人ノ合意ヲ得スシテ法律上ノ却賣條件ヲ變更シタルコト

第四 競賣期日ノ公告ハ第六百五十八條ニ掲ケタル要件ノ記載ナキコト

第五 競賣期日ノ公告ハ法律上規定シタル方法ニ依リテ之ヲ爲ササルコト

第六 第六百五十九條ニ規定シタル期間ヲ存セサリシコト

第七 第六百六十五條第二項及ヒ第六百六十六條第一項ノ規定ニ違背シタルコト

第八 第六百六十四條ノ規定ニ違背シ最高價競買人ナリト呼上ケタルコト

(解) 本條ハ利害關係人カ競落ノ許可ニ付テ異議申立ツル場合(前條ノ)ニハ如何ナル理由アレハ可ヤルヤナ明カニセリ即チ其異議ハ第一號乃至第八號ニ列記中ノ其一アルニ非サレハ之ヲ申立ツルコトヲ得ス何トナレハ本條ハ「異議ハ左ノ理由ニ基クコトヲ要ス」ト規定シタルニ依リテ明カナリ

第六百七十三條 異議ハ他ノ利害關係人ノ權利ニ關スル理由ニ基テハ之ヲ許サス

(解) 競落ノ許可ニ付テノ異議ノ申立ハ直接自身ニ關係アル場合ニ非サフハ之ヲ主張スルコトヲ得ス故ニ假令前條第一號乃至第八號ノ理由アリト雖自己ニ關係ナク他ノ利害關係人ノ權利ニ關係スル場合ニ於テハ之ヲ根據トシテ異議ヲ申立ツルコトヲ得サルナリ何トナレハ利害關係人ハ競賣ニ付テ利害ノ關係ヲ有スル者ノ義ニシテ他ノ利害關係人ノ權利ニ關スル理由ハ競落許可ニ付テノ異議ニハ毫モ關係ヲ有セサレハナリ

第六百七十四條 裁判所ハ異議ノ申立ヲ正當トスルトキハ競落ヲ許サス

第六百七十二條第一號乃至第八號ニ掲ケタル事項ノ一アルトキハ職權ヲ以テモ競落ヲ許サス但第一號ノ場合ニ於テハ競賣シタル不動産カ讓渡スコトヲ得サルモノナルトキ又ハ



第六百七十條 競賣期日ニ於テ許ス可キ競買價額ノ申出ナキトキハ第六百四十九條第一項ノ規定ヲ害セサル限リハ裁判所ハ其意見ヲ以テ最低競賣價額ヲ相當ニ低減シ新競賣期日ヲ定ム可シ若シ其期日ニ於テ仍ホ許ス可キ競買價額ノ申出ナキトキモ亦同シ

新競賣期日ハ少ナクトモ十四日ノ後タル可シ

第六百七十一條 裁判所ハ競落期日ニ出頭シタル利害關係人ニ競落ノ許可ニ付キ陳述ヲ爲サシムヘシ

競落ノ許可ニ付テノ異議ハ期日ノ終ニ至ルマテニ之ヲ申立ツ可シ既ニ申立テタル異議ニ對スル陳述ニ付テモ亦同シ

以上第六百六十八條乃至第六百七十一條ハ法文簡易ナルカ故ニ説明ヲ省ク

第六百七十二條 競落ノ許可ニ付テノ異議ハ左ノ理由ニ基クコトヲ要ス

- 第一 強制執行ヲ許ス可カラサルコト又ハ執行ヲ續行ス可カラサルコト
- 第二 最高價競買人賣買契約ヲ取結ヒ若クハ其不動産ヲ取得スル能力ナキコト
- 第三 法律上ノ賣却條件ニ牴觸シテ競買ヲ爲シタルコト又ハ總テノ利害關係人ノ合意ヲ得スシテ法律上ノ却賣條件ヲ變更シタルコト

第四 競賣期日ノ公告ハ第六百五十八條ニ掲ケタル要件ノ記載ナキコト

第五 競賣期日ノ公告ハ法律上規定シタル方法ニ依リテ之ヲ爲ササルコト

第六 第六百五十九條ニ規定シタル期間ヲ存セザリシコト

第七 第六百六十五條第二項及ヒ第六百六十六條第一項ノ規定ニ違背シタルコト

第八 第六百六十四條ノ規定ニ違背シ最高價競買人ナリト呼上ケタルコト

(解) 本條ハ利害關係人カ競落ノ許可ニ付テ異議申立ツル場合(前條ノ)ニハ如何ナル理由アレハ可ヤルヤ明カニセリ即チ其異議ハ第一號乃至第八號ニ列記中ノ其一アルニ非サレハ之ヲ申立ツルコトヲ得ス何トナレハ本條ハ「異議ハ左ノ理由ニ基クコトヲ要ス」ト規定シタルニ依リテ明カナリ

第六百七十三條 異議ハ他ノ利害關係人ノ權利ニ關スル理由ニ基テハ之ヲ許サス

(解) 競落ノ許可ニ付テノ異議ノ申立ハ直接自身ニ關係アル場合ニ非サフハ之ヲ主張スルコトヲ得ス故ニ假令前條第一號乃至第八號ノ理由アリト雖自己ニ關係ナク他ノ利害關係人ノ權利ニ關係スル場合ニ於テハ之ヲ根據トシテ異議ヲ申立ツルコトヲ得サルナリ何トナレハ利害關係人ハ競賣ニ付テ利害ノ關係ヲ有スル者ノ義ニシテ他ノ利害關係人ノ權利ニ關スル理由ハ競落許可ニ付テノ異議ニハ毫モ關係ヲ有セサレハナリ

第六百七十四條 裁判所ハ異議ノ申立ヲ正當トスルトキハ競落ヲ許サス

第六百七十二條第一號乃至第八號ニ掲ケタル事項ノ一アルトキハ職權ヲ以テモ競落ヲ許サス但第一號ノ場合ニ於テハ競賣シタル不動産カ讓渡スコトヲ得サルモノナルトキ又ハ



競賣手續ノ停止ヲ爲シタルトキニ限り第二號ノ場合ニ於テハ能力若クハ資格ノ欠缺カ除去セラレサルトキニ限り第三號ノ場合ニ於テハ利害關係人手續ノ續行ニ付キ承認セラレサルトキニ限ル

(解) 本條ハ別ニ説明スルマテモナク競賣ニ付テハ利害關係人カ異議ヲ申立タルトキニ裁判所カ其申立テ正當ナリト決定シタル場合ニハ競落ヲ許サルル及ヒ其他ノ處分方法ヲ明言シタル者ナリ  
法文ニ所謂「不動産カ讓渡スルヲ得サル者ナルトキ」トハ例ヘハ華族ノ世襲財産及ヒ其他ノ不融通物ヲ謂フ

第六百七十五條 數箇ノ不動産ヲ競賣ニ付シル場合ニ於テ或ル不動産ノ賣得金ヲ以テ各債權者ニ辨濟ヲ爲シ及ヒ強制執行ノ費用ヲ償フニ足ル可キトキハ他ノ不動産ニ付テハ競落ヲ許サス

此場合ニ於テ債權者ハ其不動産中賣却ス可キモノヲ指定スコトヲ得

(解) 本條モ競落ヲ許サル場合ニ關スル者ナレトモ前條ノ場合トハ大ニ其趣キテ異ニセリ此点ハ前條ノ規定ト彼是對照スルトキハ余カ解説ヲ俟ツノ要ナキナリ

第六百七十六條 第六百七十二條及ヒ第六百七十四條ノ規定ニ從ヒ至ク競落ヲ許ササル場合ニ於テ更ニ競買ヲ許ストキハ職權ヲ以テ新競賣期日ヲ定ムヘシ  
新競賣期日ハ少ナクトモ十四日ノ後タルヘシ

第六百七十七條 前條ノ規定ニ從ヒテ新競賣期日ヲ定ムル場合ノ外競落ヲ許シ又ハ許ササル決定ノ言渡ヲナスヘシ

競落期日ノ調書ニ付テハ第二百二十九條乃至第三百三十二條及ヒ第三百三十四條ノ規定ヲ準用ス

第六百七十八條 競賣期日ト競落期日トノ間ニ天災其他ノ事變ニ因リ不動産カ著シク毀損シタルトキハ最高價競買人タル呼上ヲ受ケタル者ハ其競買ヲ取消ス權利アリ其毀損ノ著シキヤ否ヤハ裁判所事情ヲ斟酌シテ之ヲ定ム

第六百七十九條 競落ヲ許ノ決定ニハ競賣ヲ爲シタル不動産、競落人及ヒ競落ヲ許シタル競買價額ヲ掲ケ又特別ノ賣却條件ヲ以テ競落ヲ爲シタルトキハ其條件ヲ掲クヘシ  
右決定ハ之ヲ言渡ス外尙ホ裁判所ノ揭示板ニ揭示シテ公告ス可シ

(解) 以上四ヶ條ハ頗ル簡易ナル規定ニ付キ唯其規定ニ付テ概説セン第六百七十六條ハ競落ヲ許可セサルトキニ於テ尙ホ再度ノ競賣ニ附ス可キ場合ニハ裁判所ハ如可ナル職權ヲ有スルヤヲ定メ第六百七十七條ハ競落決定ノ言渡ニ關シテ定メ第六百七十八條ハ第六百六十五條第一項ノ原則ニ對シテ其例外ヲ定メ第六百七十九條ハ競落ヲ許ス決定ニ付テ掲クヘキ要件、其決定ノ言渡及ヒ公告スヘキ場所等ニ關セル規定ナリ

第六百八十條 利害關係人ハ競落ノ許否ニ付テノ決定ニ因リ損失ヲ被ムル可キ場合ニ於テ



ハ其決定ニ對シ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

競落ヲ許ス可キ理由ナキコト又ハ決定ニ掲ケタル以外ノ條件ヲ以テ許ス可キコトヲ主張スル競落人又ハ競落ヲ求メ之ヲ許ス可キコトヲ主張スル競買人モ亦即時抗告ヲ爲スコトヲ得

右抗告ハ執行停止ノ效力ヲ有ス

第二項ノ場合ニ於テ競落ヲ求メタル競買人ハ其申出テタル價額ニ付キ拘束ヲ受クルモノトス

(解) 本條乃至第六百八十三條ハ競落許否ニ付テノ決定ニ對スル即時抗告ニ關シテ規定シ就中本條第一項ハ利害關係人カ即時抗告ヲ爲シ得ヘキ旨ヲ定メ第二項ハ競買人カ即時抗告ヲ爲シ得ヘキ場合ヲ定メ第三項ハ即時抗告ノ效力ヲ定メ第四項ハ競買人カ即時抗告ヲ爲シ得ヘキ場合ニ於ケル價額ノ拘束力ニ付テ定メタル者ナリ

(實例) ○地所建家競落取消請求件 明治二十五年第五百五十五號  
全 年 五 月 十 八 日

大審院ノ判決要旨左ノ如シ

民事訴訟法第六百八十條ニ所謂「即時抗告」ニ付テノ不變期間ハ裁判言渡ノ日ヨリ起算ス可キ者ニシテ送達ノ日ヨリ起算ス可キ者ニアラス

第六百八十一條 競落ヲ許ササル決定ニ對スル抗告ハ此法律ニ掲クル總テノ不許ノ原因ナ

キコトヲ理由トスルトキニ限り之ヲ爲スコトヲ得

競落ヲ許シタル決定ニ對スル抗告ハ此法律ニ掲クル競落ノ許可ニ對スル異議ノ原因ノ一ヲ理由トスルトキ又ハ對落決定カ競落期日ノ調書ノ旨趣ニ抵觸シタルコトヲ理由トスルトキニ限り之ヲ爲スコトヲ得

取消ノ訴苦クハ原狀回復ノ訴ノ要件ヲ理由トスル抗告ハ前二項ノ規定ニ依リ妨ケラルルコト無シ

(解) 本條ノ許定ニ依レハ競落ヲ許サル決定ニ對スル抗告ト競落ヲ許シタル決定ニ對スル抗告トニ因リテ各異レリ前者ハ此民事訴訟法ニ掲クル總テノ競落ヲ許ス可ラサル原因中其一ヲモ存セサルトキニ限り之ヲ爲スコトヲ得ルモ後者ハ競落許可ニ付テノ異議ノ原因中其一ヲ理由トスルトキ又ハ競落許可ノ決定カ競落期日ノ調書ノ旨趣ニ抵觸シタルヲ理由トスルトキニ限り之ヲ爲スコトヲ得ルノ差アリ而シテ取訴ノ訴(第四百六)若クハ原狀回復ノ訴(第四百六)ノ原因タル可キ要件ヲ理由トスルトキハ競落ヲ許サル決定ニ對スル抗告ナルト將タ競落ヲ許シタル決定ニ對スル抗告ナルトニ拘ハラス何時ニテモ抗告スルコトヲ得ルナリ

(實例) ○不動産競賣開始決定命取消請求件 二十八年第三七〇號  
二十八 年 十 月 二 十 八 日  
大審院ノ判決要旨左ノ如シ



一、公証取消ノ方法ニ付テハ一定ノ法規ナキヲ以テ假令取消ノ事由年月日等ノ詳記ナキモ爲メニ之ヲ無効トスルコトヲ得ス

一、強制執行ノ目的物タル係争事物ニ對シ第三者カ所有權ヲ主張スル訴訟ハ民事訴訟法第五百四十九條ニ依リ提起スヘシ

第六百八十二條 抗告裁判所ハ必要ナル場合ニ於テハ反對陳述ヲ爲サシムルメ抗告人ノ相手方ヲ定ム可シ

一ノ決定ニ關スル數箇ノ抗告ハ互ニ之ヲ併合ス可シ

第六百七十三條及ヒ第六百七十四條ノ規定ハ抗告審ニモ亦之ヲ準用ス

第六百八十三條 執行裁判所ノ決定ヲ變更シ又ハ廢棄シタル抗告裁判所ノ裁判ハ執行裁判所之ヲ裁判所ノ揭示板ニ揭示シテ公告ス可シ

(解) 第六百八十二條ハ抗告裁判所ニ於テ第六百八十一條ニ定メタル抗告ニ付テノ裁判手續ヲ明カニシ第六百八十三條ハ抗告申立人ノ抗告其理由ヲ具ヘ執行裁判所ニ於テ與ヘタル競落ノ變更又ハ廢棄シタル裁判ハ之ヲ執行裁判所ノ揭示板ニ揭示シ以テ公告セシムル方法ヲ定メタリ

第六百八十四條 競落ヲ許ササル決定確定シタルトキハ競落人及ヒ競落ヲ求メタル競買人ハ其競買ノ責務ヲ免カル

(解) 本條ニ所謂「競落ヲ許サル決定」トハ第六百七十三條及第六百七十四條ニ依リ執行裁判所ノ爲ス決定ト第六百八十二條末項ニ依リ抗告裁判所ノ爲ス決定トノ二個ヲ包含スヘシ而シテ此等ノ決定確定ト爲リタルトキハ競落人及ヒ競落ヲ求メタル競買人ハ其競買ノ責務ヲ免カル、效力ヲ有スルモノトス

第六百八十五條 第六百八十八條ノ場合ニ於テ競買取取消ノ爲メ競落ヲ許ササルトキハ第六百五十五條乃至第六百五十七條ノ規定ヲ準用ス

(解) 本條所定「第六百七十八條ノ場合」ニ於テ競買取取消ノ爲メ競落ヲ許サルトキ「トハ競買期日ト競落期日トノ間ニ於テ不動産カ者シク毀損セラレ競買申立人ヨリノ取消ヲ請求シ之レカ爲メ其競買取取消サレタル場合ヲ謂フ此場合ニ於テハ第六百五十五條乃至第六百五十七條ノ規定ヲ準用スルモノトス

第六百八十六條 競落人ハ競落ヲ許ス決定ニ因リテ不動産ノ所有權ヲ取得スルモノトス

(解) 凡ソ競落ヲ許ス決定アルマテハ如何ナル人カ不動産ノ競落人タルヤ未定ニ屬ス何トナレハ競買ニ於テハ買受人タラント欲スル者數人アリテ各其引受價額ノ申出モ亦異ナルカ故ニ裁判所ハ一々引受價額ヲ調査シ最高價ヲ附シタル者ヲ以テ競落人ト決定スレハナリ故ニ此決定ト共ニ競落人確定スヘシ換言スレハ競落人ハ即チ買受人ナルカ故ニ此場合ニモ亦買買ノ原則ト同シク賣主即チ競買人ハ不動産引渡ノ義務ヲ生シ競落人ハ代金ヲ支拂ヒ以テ不動産ノ所有權ヲ取得スル權利ヲ有スルナリ

第六百八十七條 競落人ハ代金ノ全額ヲ支拂ヒタル後ニ非サレハ不動産ノ引渡ヲ求ムルコトヲ得ス

競落人若クハ債權者競落ヲ許ス決定アリタル後引渡アルマテ管理人ヲシテ不動産ヲ管理



セシメントヲ申立テタルトキハ裁判所ハ之ヲ命ス可シ  
債務者カ引渡ヲ拒ミタルトキハ競落人若クハ債權者ノ申立ニ因リ裁判所ハ執達吏ヲシテ  
債務者ノ占有ヲ解キ其不動産ヲ管理人ニ引渡シムヘシ

(解) 本條第一項ハ競落人即チ買主ハ代金ヲ支拂ヒタル後ニ非サレハ不動産ノ引渡ヲ求ムル權利ナシトセリ是レ賣  
買ノ原則上ヨリ論スルモ其當ヲ得タルモノトス而シテ競落ヲ許ス決定アリタル後該不動産ニシテ債務者ノ占有内ニ存  
セシムルトキハ動モスレハ故意ニ之ヲ毀損スルカ又ハ其不動産上ヨリ生スル收益ヲ奪フカ如キ恐レアルチ免カレヌ故  
ニ本條第二項ハ競落人又ハ債權者ハ其引渡アルマテ管理人ヲシテ之ヲ管理セシメントチ申立ツルヲ得ルモノトシ此  
申立アリタルトキハ裁判所ヨリ之カ管理ヲ命スルモノト爲シタリ  
第三項ハ債務者カ不動産ノ引渡ヲ拒絶シタル場合ニ關シテ規定セリ蓋シ競落許可ノ決定後ハ債務者タル者ハ之カ引渡  
ヲ拒ム權利ナシ故ニ此場合ニ於テハ競落人若クハ債權者ノ申立ニ依リ裁判所ハ執達吏ヲシテ債務者ノ占有ヲ解キ其不  
動產ヲ管理人ニ引渡サシムルモノトス

第六百八十八條 競落人カ代金支拂期日ニ其義務ヲ完全ニ履行セサルトキハ裁判所ハ職權  
ヲ以テ不動産ノ再競賣ヲ命ス可シ

最初ノ競賣ノ爲ニ定メタル最低競賣價額其他賣却條件ハ再競賣ノ手續ニモ亦之ヲ適用ス  
再競賣期日ハ少ナクトモ十四日ノ後タルヘシ

競落人カ再競賣期日ノ二日前マテニ買入代金及ヒ手續ノ費用ヲ支拂ヒタルトキハ再競賣

手續ヲ取消ス可シ

再競賣ヲ爲ストキハ前ノ競落人ハ競買ニ加ハルコトヲ許サス且再度ノ競落代價カ最初ノ  
競落代價ヨリ低キトキハ不足ノ額及ヒ手續ノ費用ヲ負擔シ其高キトキハ剩餘ノ額ヲ請求  
スルコトヲ得ス

第六百八十九條 共有物持分ノ強制競賣ニ付テハ債權者ノ債權ノ爲メ債務者ノ持分ニ付キ  
強制競賣ノ申立アリタルコトヲ登記簿ニ記入ス但他ノ共有者ニハ其強制競賣ノ申立テヲ  
通知ス可シ

最低競賣價額ハ共有物全部ノ評價額ニ基キ債務者ノ持分ニ付キ之ヲ定ム可シ

第六百九十條 競賣申立カ競落ヲ許スコト無クシテ完結シタルトキハ裁判所ハ第六百五十  
一條ノ規定ニ從ヒテ爲シタル差押記入ノ抹消ヲ登記判事ニ囑託ス可シ

(解) 第六百八十八條ハ競落人カ相當ニ代金ノ支拂ヲ爲サル結果、再競賣ヲ命スル場合ニ關シテ規定シ第六百八  
十九條ハ共有物ヲ競賣ニ付スル場合ニ於ケル特別ナル手續ヲ規定シ第六百九十條ハ競賣申立カ競賣ヲ許スナクシテ  
完結シタル場合ニ於ケル裁判所ノ職權ヲ規定シタル者ナリ

第六百九十一條 競落ヲ許ス決定確定スルトキハ賣却代金カ配當ニ與カル各債權者ヲ満足  
セシムルニ足ラサル場合ニ於テハ民法、商法及ヒ特別法ニ從ヒテ之ヲ配當ス可シ



(解) 本條以下數條ハ不動産ニ對スル配當手續ヲ定メタル者ニシテ殊ニ本條ハ競落ヲ許ス決定確定スルトキハ賣却代金カ配當ニ與カル各債權者ヲ満足セシムルニ足ラサル場合ニ關シテ規定セリ此場合ニ於ケル配當ノ順序割合ノ如キハ民法商法及ヒ特別法ノ規定ニ從ヒ以テ之カ配當ヲ爲サル可ラス

第六百九十二條 各債權者ハ競落期日マテニ其債權ノ元金、利息、費用其他附帶ノ債權ノ計算書ヲ差出スヘシ

前項ノ規定ニ從ハサル債權者ニ付テハ第六百二十八條第二項ノ規定ヲ準用ス

第六百九十三條 代金ノ支拂及ヒ配當ハ競落ヲ許ス決定ノ確定後ニ裁判所カ職權ヲ以テ定ムル期日ニ於テ之ヲ爲ス

此期日ニニハ利害關係人、執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者及ヒ競落人ヲ呼出ス可シ

以上ニケ條一讀明瞭ナルカ故ニ説明ヲ省ク

第六百九十四條 期日ニ於テハ先ツ配當ス可キ不動産ノ賣却代金ノ幾許ナルヤヲ定ム可シ左ノモノヲ賣却代金トス

第一 代金

第二 不動産カ果實其他金錢ニ見積ルコトヲ得ヘキ利益ヲ生スル場合ニ於テハ競落決

定言渡ヨリ代金支拂マテノ利息

代金支拂ハ裁判所ニ之ヲ爲ス可シ

最高競賣價額ノ爲メ預リタル金額ハ代金ニ之ヲ算入ス

(解) 裁判所ハ前條ニ依リ定メタル代金支拂及ヒ配當ノ期日ニ於テハ先ツ債權者ニ配當スヘキ不動産ノ賣却代金幾許ナルヤヲ定メサル可ラス其賣却代金ナル者ハ主トシテ競賣代金ヲ意味スルニハ相違ナキモ賣却代金ハ總テ競賣代金ナリト云フコトヲ得ス故ニ法律ニ於テ如何ナル者ヲ以テ賣却代金ト爲スヤヲ定ムルノ要アリ即チ賣却代金ニハ左ノ二種アリ

第一代金 茲ニ所謂代金トハ競賣代金ヲ意味スヘシ

第二不動産カ果實其他金錢ニ見積ルコトヲ得ヘキ利益ヲ生スル場合ニ於テハ競賣決定言渡ヨリ代金支拂マテノ利息此果

實及利息(利息ハ果實ノ一種ニシ)ハ競賣代金以外ノ賣却代金ナリ

斯ノ如ク賣却代金ニハ二種アリト雖、何レモ裁判所ニ對シテ之ヲ支拂ハサル可ラス而シテ最高競賣價額ノ保証金ニ付テハ裁判所ハ之ヲ代金中ニ充當スルコトヲ得ルナリ

第六百九十五條 裁判所ハ出頭シタル利害關係人及ヒ執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者ヲ訊問シテ配當表ヲ確定ス可シ

(解) 本條以下配當表ニ關スル規定ニシテ就中本條ハ配當表ノ確定ニ付テ規定シタル者ナリ

第六百九十六條 配當表ニハ賣却代金各債權者ノ債權ノ元金、利息、費用及ヒ配當ノ割合



ヲ記載ス可シ

若シ出頭シタル總テノ利害關係人及ヒ執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者一致シタルトキハ其一致ニ基キ配當表ヲ作ル可シ

(解) 本條ハ配當表ノ作成ニ關スル規定ニシテ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

(甲) 賣却代金 第六百九十四條第二項第一號及第二號ヲ謂フ

(乙) 各債權者ノ債權ノ元金、利息、費用 (説明ヲ要セス)

(丙) 配當ノ順位 債權ノ種類ニ因リ各債權者其順序ヲ異ニスルモノアルトキハ之ヲ調査シテ配當ノ順位ヲ定ムルコトヲ謂フ

(丁) 配當ノ割合 例ヘハ甲者ノ配當額ハ何程ニシテ乙者ノ配當額ハ幾何ト云フカ如キ歩合ヲ云フ

此配當表ヲ作成スルニ當リ若シ出頭シタル總テノ利害關係人及ヒ執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ求ムル債權者トカ互ニ一致シタルトキハ其一致ニ基キテ之ヲ作成ス可キモノトス

第六百九十七條 配當表ニ對スル異議ノ完結及ヒ配當表ノ實施ニ付テハ第六百三十條以下ノ規定ヲ準用ス但以下數條ニ於テ別段ノ規定ヲ設ケタルモノハ此限ニ在ラス

第六百九十八條 期日ニ出頭シタル債務者ハ各債權者ノ債權ニ對シ又ハ其債權ノ爲メ主張スル順位ニ對シ異議ヲ申立ツル權利アリ

出頭シタル各債權者ハ自己ノ利害ニ關シテハ他ノ債權者ニ對シ前項ト同一ノ權利アリ

執行スルヲ得ヘキ債權ニ對スル債權者ノ異議ハ第五百四十五條、第五百四十七條及ヒ第五百四十八條ノ規定ニ從ヒテ之ヲ完結ス

第六百九十八條 競落人ハ賣却條件ニ因リ不動産ノ負擔ヲ引受クル外配當表ノ實施ニ際シ買入代金ノ額ニ滿ツルヲ限トシ關係債權者ノ承諾ヲ得テ買入代金ノ支拂ニ換ヘ債務ヲ引受クルコトヲ得若シ債權者競落人ナルトキハ其債權ノ配當額カ買入代金ノ額ニ滿ツル限リハ買入代金トシテ之ヲ計算スルニ因リテ消滅ス然レトモ引受ク可キ債務又ハ計算ス可キ競落人ノ債權ニ對シ適當ナル異議アルトキハ之ニ相當スル代金ヲ支拂ヒ又ハ保證ヲ立ツ可シ

第七百條 配當表ヲ實施シタル後裁判所ハ配當調書及ヒ競落決定ノ正本ヲ登記判事ニ送付シテ左ノ諸件ヲ囑託ス可シ

第一 競落人ノ所有權ノ登記

第二 競落人ノ引受ケサル不動産上負擔記入ノ抹消

第三 第六百五十一條本規定ニ從ヒ爲シタル記入ノ抹消

右登記及記抹消ニ關スル總テノ費用ハ競落人之ヲ負擔ス可シ



第七百一條 數多ノ差押債權者ノ爲メ同時ニ爲ス可キ不動産ノ競賣手續ニ付テハ前數條ノ規定ヲ準用ス

以上五ヶ條ハ法文簡易ニ付キ説明ヲ省ク

第七百二條 裁判所ハ競賣期日ノ公告前利害關係人ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ競賣ニ換ヘテ入札拂ヲ命スルコトヲ得但入札拂ニ付テハ以下數條ニテ別段ノ規定ナキモノハ前數條ノ規定ヲ準用ス

(解) 本條以下數ヶ條ハ入札ノ手續ヲ以テ強制競賣ヲ實行スルコトヲ得ル規定ナリ即チ本條ハ裁判所ハ競賣期日ノ公告前ニ於テ利害關係人ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ競賣ニ換ヘテ入札拂ヲ命スルコトヲ得ルモノトセリ蓋シ本法力入札拂ノ手續ヲ採リタル理由ハ主トシテ從來ノ慣習ニ基タルニ在リ夫レ慣習ノ人身ニ入ルヤ習ヒ基性ト爲ルナカ故ニ強テ變更スルノ要ナシ若シ之テ之ヲ變更スルトキハ却テ強制執行上不便ヲカラサルヘシ是ニ於テ乎入札拂ノ手續ヲ認メタル所以ナリ而シテ入札拂ニ付テハ以下數條ニ於テ特別ノ規定ナキ以上ハ前數條ノ規定ヲ準用スルモノトス

第七百三條 入札ハ入札期日ニ於テ執達吏ニ之ヲ差出ス可シ

入札ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス

第一 入札人ノ氏名及住所

第二 不動産ノ表示

### 第三 入札價額

(解) 抑モ入札競落ト異ナリ買受人タラント欲スル者カ各自密封シタル書面ヲ以テ買受價額ノ申込ヲ爲ス者ナリ故ニ必スシモ買受人タラント欲スル者ニ於テ出頭スルノ要ナク此書面ヲ入札期日ニ於テ執達吏ニ之ヲ差出スヲ以テ足レリトス而シテ入札ニハ一定ノ要件ヲ具備シタル者タルコトヲ要ス其要件トハ本條第一號乃至第三號列記シタル事項即チ是ナリ從テ要件中其一ヲ缺キタル入札ハ無効ナリ

第七百四條 執達吏ハ入札人ノ面前ニ於テ入札ヲ開封シ之ヲ朗讀ス可シ

二人以上同價額ノ入札アルトキハ執達吏ハ其者ヲシテ追加ノ入札ヲ爲サシメ最高價入札人ヲ定ム

一定ノ金額ヲ以テ入札價額ヲ表セスシテ他ノ入札價額ニ對スル比例ヲ以テ價額ヲ表シタル入札ハ之ヲ許サス

(解) 本條第一項ハ入札ノ公平無私ナルコトヲ入札人ニ知ラシムルカ爲メニ必要ナル規定ナリ第二項ハ數人ノ入札カ同一價額ナリシ場合ニ關シテ規定セリ此場合ニハ執達吏ハ同一價額ヲ以テ入札ヲ爲シタル數人ヲシテ追加ノ入札ノ爲サシメサル可ラス而シテ追加ノ入札ヲ爲シタル者ノ中ニ就テ最高價入札人ヲ定ム此最高價入札人ハ即チ落札人ナリトス

第三項ハ入札價額ハ一定ノ金額ヲ以テ表示スヘク他人ノ入札價額ニ對スル比例ヲ以テ價額ヲ表示スルコトヲ許サトル旨ヲ明示シタルニ過キサルナリ



第七百五條 最高價入札人タル呼上ヲ受ケタル者第六百六十四條ノ規定ニ從ヒ保證ヲ立ツ可キ求ヲ受クルモ之ヲ立テサルトキハ其次位ノ入札人ヲ以テ最高價入札人ト定ム但此場合ニ於テハ最初呼上ヲ受ケタル者ハ其入札價額ト次位ノ入札價額トノ差金ヲ負擔スル義務アリ

(解) 最高價入札人タル呼上ヲ受ケタル者ハ即チ落札者ナリ落札者ニ對シテハ不動産ノ競買ヲ爲サントスル者ナシテ保證ヲ立テシムル場合ヲ規定シタル第六百六十四條ニ從ヒ保證ヲ立テシムルモノトス然ルニ落札者ニシテ保證ヲ立ツ可キ求ヲ受クルモ之ヲ立テサルトキハ法律ハ落札者タル資格ヲ剝奪シ次位ノ入札人ヲ以テ最高價入札人ト定ムヘシ此場合ニ於テハ最初呼上ヲ受ケタル者ニ對シテ或ル義務ヲ負擔セシム或義務トハ最高價入札額ト次位ノ入札價額トノ差金ヲ謂フナリ

第三款 強制管理

第七百六條 強制管理ニ付テハ第六百四十二條、第六百四十三條、第六百四十四條第一項第三項及ヒ第六百五十一條乃至第六百五十四條ノ規定ヲ準用ス  
 不動産ノ債權者ノ債權ニ付キ不動産上ノ義務ヲ負フタル場合ニ於テハ第六百四十三條第一號第二號ニ依リ提出ス可キ證書ハ不動産ヲ債務者カ占有スルコトヲ疏明スル證書ヲ以テ足ル

(解) 本條第一項ハ強制管理ニ付テハ強制競賣ニ關スル第六百四十二條、第六百四十三條、第六百四十四條第一項第三項及ヒ競賣手續開始ニ關スル第六百五十一條乃至第六百五十四條ノ規定ヲ準用スヘキモノトセリ第二項ハ不動産ノ債權者ノ債權ニ付キ不動産上ノ義務ヲ負フタル場合ニ關シテ規定セリ此二項ノ場合ニ於テハ不動産ノ強制競賣申立ニ添附スヘキ證書ニ關スル第六百四十三條第一號第二號ニ依リ提出スヘキ證書ハ不動産ヲ債務者カ現ニ占有スルコトヲ疏明スヘキ證書ニテ足レリ從テ強制管理ノ申立ヲ爲スニ際シ其不動産ハ債務者ノ所有物ナルコトヲ証明スルニ及ハサルヤ明カナリ

第七百七條 裁判所ハ強制管理開始ノ決定ニ於テ債務者カ管理人ノ事務ニ干渉スルコト及ヒ不動産ノ收益ニ付キ處分スルコトヲ禁シ又不動産ノ收益ノ給付ヲ爲ス可キ第三者アルトキハ其第三者ニ其後ノ給付ヲ管理人ニ爲ス可キコトヲ命ス可シ  
 既ニ收獲シ若クハ收獲ス可ク又ハ期限ノ到來シ若クハ到來ス可キ果實ハ收益ニ屬ス開始決定ハ等三者ニ對シテハ之ヲ送達スルニ因リ其效力ヲ生ス此送達ハ職權ヲ以テ之ヲ爲ス

(解) 本條ハ強制管理ノ開始ヲ決定スルニ於テ必要ナル方法及ヒ其效力等ニ付テ定メタル者ナリ  
 第七百八條 裁判所ハ強制管理開始ノ決定ヲ爲シタル不動産ニ付キ強制管理ノ申立アルモ更ニ開始決定ヲ爲スコトヲ得ス

右申立ハ執行記録ニ添附スルニ依リ配當要求ノ效力ヲ生シ又既ニ開始シタル強制管理ノ



取消ト爲リタルトキハ開始決定ヲ受ケタル效力ヲ生ス

假差押ノ命令アリタル不動産ニ付テハ本條ノ規定ヲ適用セス

(解) 本條ハ既ニ強制管理ノ開始ヲ爲シタル同一ノ不動産ニ付キ更ニ強制管理ノ申立ヲ爲ス債權者アル場合ヲ豫想シテ規定シタルモノニシテ第五百八十六條第六百四十五條ト其意義殆ント其同一ナリ故ニ法文一過直ニ之ヲ解スルヲ得ルニ因リ余カ詳説ヲ俟タサルナリ

第七百九條 配當要求ハ執行力アル正本ニ因リ且裁判所ノ所在地ニ住居ヲモ事務所ヲモ有セサル者ハ假住所ヲ選定シテ執行裁判所ニ之ヲ爲ス可シ

(解) 本條ニ所謂執行力アル正本ニ因リトハ蓋シ執行力アル正本ニ因ラスノ誤タナラン歟何トナレハ執行力アル正本ニ因リテ配當ヲ要求スル債權者ハ第五百二十七條ニ依リ假住所ヲ選定シ其旨ヲ裁判所ニ届出テサル可ラス又執行力アル正本ニ依リテ配當ヲ要求スル債權者ノ配當要求ノ方法ハ已ニ前條ニ規定スル所ナリ之ニ因リテ之ヲ觀ルトキハ特ニ本條ヲ規定スルノ要ナシサレハ本條ノ規定アリト雖、事ニ害ナシ唯吾人ハ重複ヲ厭フノミ果シテ然ラハ本條ハ枯死ニ等シキ法文ナリト雖、解釋家ノ責任ハ斯ル疑義アル法文ニ對シテハ之ヲ無効ニ解スルヨリモ寧ロ有效ニ解セサル可ラス之ヲ有效ニ解スルトキハ將ニ枯死セントスル法文モ爲メニ綠葉ヲ生スヘシ何チカ有效ノ解釋ト云フカ他ナシ余熟々本法ノ規定ヲ通觀スルニ強制管理ニ付キ執行力アル正本ニ因ラスシテ配當要求ヲ爲ス債權者ノ手續ヲ規定シタル法條ナシ故ニ本條ニ所謂「正本ニ因リ」云々トアル規定ヲ正本ニ因ラス云々ト解釋スルトキハ將ニ枯死ニ瀕セントスル法文モ茲ニ活用セラレ即チ管理ニ付キ執行力アル正本ニ因ラスシテ配當要求ヲ爲ス債權者ノ其手續ヲ規定シタル法ハ本條ナリト看做スヲ得ルナリ

第七百十條 執行裁判所ハ前二條ノ申立及ヒ要求アリタルコトヲ債權者、債務者及管理人ニ通知ス可シ

第七百十一條 管理人ハ裁判所之ヲ任命ス但債權者ハ適當ノ人ヲ推薦スルコトヲ得

管理人ハ管理及ヒ收益ノ爲メ自ラ不動産ヲ占有スル此場合ニ於テ抵抗ヲ受クルトキハ執達吏ヲ立會ハシムルコトヲ得

管理人ノ任命ハ債務者ニ代リ第三者ノ給付ス可キ收益ヲ取立ツル權ヲ授與スルモノトス  
第七百十二條 裁判所ハ債權者ヲ審訊シタル後又適當トスル場合ニ於テハ鑑定人ヲ立會ハシメタル上管理人ニ關シ必要ナル指揮ヲ爲シ又管理人ニ與フ可キ報酬ヲ定メ且管理人ノ業務施行ヲ監督ス可シ

裁判所ハ管理人ニ保證ヲ立テシメ又ハ二十圓以下ノ過料ヲ言渡シ又ハ其職ヲ免スルコトヲ得

第七百十三條 第三者不動産ニ付キ強制管理ヲ許スコトヲ妨クル權利ヲ主張スルトキハ第五百四十九條ノ規定ヲ準用ス

第七百十四條 管理人ハ直チニ不動産ニ付キ得タル收益ヨリ其不動産ノ負擔ニ係ル租稅其



他ノ公課ヲ控除シタル後別段ノ手續ヲ要セスシテ管理ノ費用ヲ辨濟シ其殘額ノ配當ニ付キ債權者間ニ協議調ハサルトキハ其旨ヲ裁判所ニ届出スヘシ  
前項ノ届出アリタルトキハ裁判所ハ第六百九十一條、第六百九十六條乃至第六百九十八條ノ規定ヲ準用シテ配當表ヲ作り其配當表ニ基キ管理人ヲシテ債權者ニ支拂ヲ爲サシム可シ

第七百十五條 管理人ハ毎年及其業務執行ノ終了後各債權者及ヒ裁判所ニ計算書ヲ差出ス可シ

各債權者及ヒ債務者ハ計算書ノ送達アリタルヨリ七日ノ期間内ニ執行裁判所ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

右期間内ニ異議ノ申立ナキトキハ計算ニ付キ全ク異議ナク且管理人ノ卸任人承諾シタルモノト看做ス

異議ノ申立アルトキ裁判所ハ管理人ハ審訊シタル後之ヲ裁判ス可シ若シ異議ノ申立ナク又ハ申立テタル異議ヲ完結シタルトキハ裁判所ハ管理人ヲシテ卸任セシムヘシ

以上第七百十條乃至第七百十五條ハ法文簡易ニ付キ説明ヲ省ク

第七百十六條 強制管理ノ取消ハ裁判所ノ決定ヲ以テ之ヲ爲ス

此取消ハ各債權者不動産收益ヲ以テ辨濟ヲ受ケタルトキハ職權ヲ以テ之ヲ爲ス

若シ管理續行ノ爲メ特別ノ費用ヲ要スルトキ債權者カ必要ナル金額ヲ豫納セサルニ於テハ裁判所ハ強制管理ノ取消ヲ命スルコトヲ得

裁判所ハ右ノ取消ヲ決定スル際登記判事ニ強制執行ニ關スル記入ノ抹消ヲ囑託ス可シ

(解) 本條ハ強制管理ノ取消ニ關スル規定ナリ此取消ハ裁判所ノ決定ヲ以テシ判決ヲ以テスルコトナシトス今本條ノ規定ニ依リテ其場合ヲ舉ケレハニアリ一ハ各債權者カ不動産ノ收益ヲ以テ辨濟ヲ受ケタルトキニシテ一ハ管理續行ノ爲メ特別ノ費用ヲ要スル場合ニ債權者カ其費用豫納セサルトキ是ナリ而シテ裁判所カ右二個ノ場合ニヨリ取消ヲ決定スル際登記判事ニ對シ強制管理ニ關スル記入ノ取消ヲ囑託セサル可ラス取消トハ登記簿ヨリ消除スルノ義ナリ

第三節 船舶ニ對スル強制執行

第七百十七條 商船其他ノ海船ニ對スル強制執行ハ不動産ノ強制競賣ニ關スル規定ニ從ヒテ之ヲ爲ス但事物ノ性質ニ因リテ差異ノ顯ハル、トキ又ハ以下數條ニ於テ別段ノ規定ヲ設ケタルトキハ此限ニ在ラス  
端舟其他槳權ノミヲ以テ運轉シ又ハ主トシテ槳權ヲ以テ運轉スル舟ニハ本節ノ規定ヲ適用セス



(解) 本條ハ商船其他ノ船ニ對スル強制執行ニ關シテ定ム抑モ船舶ハ其性質動産ニシテ不動産ニ非ラス既ニ不動産ニ非サル以上ハ法文ニ不動産ノ強制競賣ニ關スル規定ニ從ヒテ之ヲ爲スト規定シタルハ不當ナルカ如シト雖、深思熟考スルトキハ決シテ不當ニアラサルヘシ蓋シ大ナル船舶ハ通常ノ家屋ヨリモ宏壯ニシテ且價額モ亦頗ル高貴ナルカ故ニ古來他ノ動産ヨリ一種特殊ノ性質ヲ有スル者ト爲シ以テ不動産ニ關スル規定ニ從ハシムルヲ通例トセリ是ニ於テ乎本條ニ於テモ不動産ノ強制競賣ニ關スル規定ニ從フ可キモノト爲シタル所以ナリ然レトモ事物ノ性質ニ因リ差異ノ顯ハルトキ又ハ以下數條ニ於テ別段ノ規定ヲ設ケタルトキハ此限ニアラサルナリ

法文ニ商船其他ノ船舶云々トシタルノミニテハ頗ル漠然タルノ據アルヲ以テ本條第二項ハ端艇其他橋樑ノミニテ以テ運轉シ又ハ主トシテ橋樑ヲ以テ運轉スル舟ニハ本節ノ規定ヲ適用セサルモノト爲シタリ

第七百十八條 船舶ノ強制競賣ニ付テハ船舶カ差押ノ當時碇泊スル港ノ區裁判所ヲ以テ管轄執行裁判所トス

第七百十九條 船舶ハ執行手續中差押ノ港ニ之ヲ碇泊セシム可シ然レトモ商業上利益ノ爲メ適當トスル場合ニ於テハ裁判所ハ總テノ利害關係人ノ申立ニ因リ航行ヲ許スコトヲ得

第七百二十條 強制競賣ニ付テノ申立ニハ左ノ證書ヲ添附ス可シ

第一 債務者カ所有者ナル場合ニ於テハ其所有者トシテ船舶ヲ占有スルコト又船長ナル場合ニ於テハ船長トシテ船舶ヲ指揮スルコトヲ証明スルニ足ル可キ證書

第二 船舶カ船舶登記簿ニ登記アル場合ニ於テハ其船舶ニ關スル有效ナル各登記事項ヲ包含シタル登記簿ノ抄本

債權者ハ公簿ヲ主管スル官廳カ遠隔ノ地ニ在ルトキハ第二號ノ抄本ノ求アランコトヲ執行裁判所ニ申立ツルコトヲ得

第七百二十一條 裁判所ハ債權者ノ申立ニ因リ船舶ノ監守及其保存ノ爲メ必要ナル處分ヲ爲サシム可シ

此處分ヲ爲シタルトキハ開始決定ノ送達前ト雖モ差押ノ效力ヲ生ス  
若シ此處分ヲ續行スル爲メ債權者カ必要ナル金額ヲ豫納セサルトキハ裁判所ハ之ヲ取消スコトヲ得

第七百二十二條 船長ニ對シ爲シタル判決ニ基キ船舶債權者ノ爲メ船舶ノ差押ヲ爲ストキハ其差押ハ所有者ニ對シテモ效力アリ此場合ニ於テハ所有者モ亦利害關係人トス  
差押後所有者若クハ船長ノ變更アルモ手續ノ續行ヲ妨ケス  
差押後新ニ船長ト爲ルタル者ハ之ヲ利害關係人トス此場合ニ於テハ前船長ハ其關係人タル責務ヲ免カル



第七百二十三條 船舶カ差押ノ當時其裁判所管轄内ニ存セサルコトノ顯ハルルトキハ其手續ヲ取消ス可シ

第七百二十四條 競賣期日ノ公告ニハ第六百五十八條第一號ニ掲ケタル旨趣ニ換ヘテ船舶ノ表示及ヒ其碇泊ノ場所ヲ掲ク可シ

第七百二十五條 定繫港ノ區裁判所管轄外ニ於テ差押ヲ爲シタルトキハ執行裁判所ハ競賣期日ノ公告ヲ定繫港ノ區裁判所ニ送付シ其裁判所ノ掲示板ニ揭示ス可キコトヲ囑託ス可シ

以上第七百十八條乃至第七百二十五條ハ頗ル平易ナルカ故余カ説明ヲ俟タスシテ明カナリ

第七百二十六條 船舶ノ股分ニ對スル強制執行ハ第六百二十五條ノ規定ニ從ヒテ之ヲ爲ス其執行ニ付テハ定繫港ノ區裁判所之ヲ管轄ス

(解) 本條ハ船舶ノ股分ニ對スル強制執行ニ關スル規定ナリ船舶ノ股分ハ共有船舶ノ上ニ有スル割持部分ヲ云フ例ヘハ茲ニ價額二万圓ノ共有船舶アリトセンカ此場合ニ於テ其股分ヲ二十二分ヲタルトキハ一股分ハ一千圓ナルカ如キヲ云フ此股分ニ對スル強制執行ハ債權及ヒ不動産以外ノ他ノ財産權ニ對スル強制執行ニ付テ規定シタル第六百二十五條ニ從ヒテ之ヲ爲シ且之カ管轄裁判所ハ定繫港ノ區裁判所ナリトス

第七百二十七條 債權者ハ差押命令ノ申請ニ債務者カ船舶ノ股分ニ付キ所有權ヲ有スルコ

トヲ證ス可キ船舶登記簿ノ抄本又ハ信用ス可キ證明書ヲ添付ス可シ

差押命令ハ債務者ノ外船舶管理人ニモ之ヲ送達ス可シ

差押ハ此命令ヲ船舶管理人ニ送達スルニ因リ債務者ニ送達スルト同一ノ效力ヲ生ス

(解) 本條ハ債務者カ船舶ノ股分所有權ヲ有スル場合ニ於ケル債務者ノ差押命令ノ申請ニ添附スヘキ證書差押命令ノ送達及ヒ差押ノ效力等ニ付テ規定シタル者ナリ  
法文ニ所謂「船舶管理人」トハ船舶ノ股分ニ付テ設ケタル管理者ヲ云フ

第七百二十八條 船舶股分ノ競賣代金ノ配當ニ付テハ第六百二十六條以下ノ規定ヲ準用ス

第七百二十九條 外國ノ船舶ヲ差押ヘタルトキ又ハ登記簿ニ登記セサル船舶ヲ差押ヘタル

トキハ登記簿ニ記入ス可キ手續ニ關スル規定ヲ適用セス

以上二ヶ條ハ法文頗フル平易ナルカ故ニ説明ヲ省ク

### 第三章 金錢ノ支拂ヲ目的トセサル債權ニ付テノ

#### 強制執行

第七百三十條 債務者カ特定ノ動産又ハ代替物ノ一定ノ數量ヲ引渡ス可キトキハ執達吏ハ之ヲ債務者ヨリ取上ケテ債權者ニ引渡ス可シ



(解) 本條ノ規定ニ依レハ二個ノ場合アリ第一特定ノ動産物ノ引渡ナル場合第二代替物ノ一定ノ數量ヲ引渡ス場合是ナリ此二個ノ場合ニ於テハ執達吏ハ之ヲ債務者ヨリ請取リテ債權者ニ引渡ス可キモノトス  
 法文ニ所謂「特定ノ動産」トハ例ヘハ某ノ帽子或ハ池月ト名ケタル馬或ハ越後米ト云フカ如キ特定物ヲ謂ヒ又「代替物」ノ一定ノ數量」トハ例ヘハ白米十俵トカ或ハ醬油一石トカ云フカ如キヲ謂フ

第七百三十一條 債權者カ不動産又ハ人ノ住居スル船舶ヲ引渡シ又ハ明渡ス可キトキハ執達吏ハ債務者ノ占有ヲ解キ債權者ニ其占有ヲ得セシム可シ

此強制執行ハ債權者又ハ其代理人カ受取ノ爲メ出頭シタルトキニ限り之ヲ爲スコトヲ得  
 強制執行ノ目的物ニ非サル動産ハ執達吏之ヲ取除キテ債務者ニ引渡ス可シ若シ債務者不在ナルトキハ其代理人又ハ債務者ノ成長シタル家族若クハ雇人ニ之ヲ引渡ス可シ  
 債務者及ヒ前項ニ掲ケタル者不在ナルトキハ執達吏ハ右ノ動産ヲ債務者ノ費用ニテ保管ニ付ス可シ

債務者カ其動産ノ受取ヲ怠ルトキハ執達吏ハ執行裁判所ノ許否ヲ得テ差押物ノ競賣ニ關スル規定ニ從ヒテ之ヲ賣却シ其費用ヲ控除シタル後其代金ヲ供託ス可シ

(解) 本條ハ不動産又ハ人ノ住居スル船舶ヲ引渡シ又ハ明渡サシムル爲メ強制執行ニ付テ規定シタル者ナリ  
 法文ニ所謂「人ノ住居スル船舶」トハ通例大ナル船舶ナレトモ小ナル船舶ニテモ平素人カ住居スルトキハ之ニ包含スベシ故ニ船舶ノ大小ニ依リテ住居ノ問題ヲ決スルハ不可ナリ又成長シタル家族若クハ雇人」トハ丁年即チ滿二十年以上

ヲ指シタル文字ニアラスシテ丁年以下ニテモ實際辨別心アリト執達吏カ認メタル家族又ハ雇人ヲ指シタル者ナリ

第七百三十二條 引渡ス可キ物カ第三者ノ手中ニ存スルトキハ債務者ノ引渡ノ請求ハ申立

ニ因リ金錢債權ノ差押ニ關スル規定ニ從ヒテ之ヲ債權者ニ轉賣ス可シ

(解) 本條ハ債權者ノ請求スル物件カ第三者ノ手中ニ存スル場合ニ關シテ規定ス元來此場合ニ於テハ債權者ノ債權ヲ保護スルノ必要上ヨリシテ債權者自身ニ直接ニ第三者ニ對シ物件ノ引渡ヲ求メ得ヘキ方法ヲ設ケザル可ラス是レヲ以テ法律ハ債務者ノ引渡ノ請求ハ申立ニ因リ金錢債權ノ差押ニ關スル規定ニ從ヒテ之ヲ債權者ニ轉付スヘキモノトセリ之ヲ要スルニ本條ハ前兩條ニ對スル例外ヲ示シタル者ナリ

第七百三十三條 民法第四百十四條第二項及ヒ第三項ノ場合ニ於テハ第一審ノ受訴裁判所ハ申立ニ因リ民法ノ規定ニ從ヒテ決定ヲ爲ス

債權者ハ同時ニ其行爲ヲ爲スニ因リ生ス可キ費用ヲ豫メ債務者ニ支拂ヲ爲サシムル決定ノ宣言アラシトコトヲ申立ツルコトヲ得但其行爲ヲ爲スニ因リ此ヨリ多額ノ費用ヲ生スルトキ後日其請求ヲ爲ス權利ヲ妨ケス

(解) 本條第一項ハ明治三十一年法律第十一號ヲ以テ本條所定ノ如ク改正セリ蓋シ改正民法典ニ於テハ舊民法所定ノ財産編ナル分類ヲ刪リタルト又改正民法實施後二箇ヨリ改正民法ノ規定ニ依ル可キハ當然ノ事タルカ故ニ本條所定ノ如ク改正セラレタル所以ナリ第二項ハ法文簡明ニ付キ説明スルノ要ナシ

(參照) 改正民法第四百十四條第二項ニ曰ク「債務ノ性質カ強制履行ヲ許サル場合ニ於テ其債務カ作爲ヲ目的ト



スルトキハ債権者ハ債務者ノ費用ヲ以テ第三者ニ之ヲナサシムルコトヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得但法律行為ヲ目的トスル債務ニ付テハ裁判ヲ以テ債務者ノ意思ニ代フルコトヲ得同法同條第三項ニ曰ク不作爲ヲ目的トスル債務ニ付テハ債務者ノ費用ヲ以テ其爲シタル者ヲ除却シ且將來ノ爲メ適當ノ處分ヲ爲スコトヲ請求スルコトヲ得」下  
其他改正民法施行法第五十四條ヲ參照スルコトヲ要ス(明治三十一年法律第十一號)

第七百三十四條 債務ノ性質カ強制執行ヲ許ス場合ニ於テ第一審ノ受訴裁判所ハ申立ニ因リ決定ヲ以テ相當ノ期間ヲ定メ債務者カ其期間内ニ履行ヲ爲ササルトキハ其遲延ノ期間ニ應シ一定ノ賠償ヲ爲スヘキコト又ハ直チニ損害ノ賠償ヲ爲スヘキコトヲ命スルコトヲ要ス

(解) 本條モ亦前條第一項ト同シク民事訴訟法ノ實體法タル民法ノ改正ニ伴ヒ過クル明治三十一年法律第十一號即チ改正民法施行法第五十五條ニ依リテ本條ノ如ク改正セラレタリ

(參照) 明治三十一年法律第十一號第五十五條ヲ參照スヘシ

第七百三十五條 前二條ノ決定ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得但決定前債務者ヲ審訊ス可シ

第七百三十六條 債務者カ權利關係ノ成立ヲ認諾ス可キコト又ハ其他ノ意思ノ陳述ヲ爲ス可キコトノ判決ヲ受ケタルトキニ其判決ノ確定ヲ以テ認諾又ハ意思ノ陳述ヲ爲シタルモノト看做ス反對給付ノ有リタル後認諾又ハ意思ノ陳述ヲ爲ス可キ場合ニ於テハ第五百十

八條及ヒ第五百二十條ノ規定ニ從ヒ執行力アル正本ヲ付與シタルトキ其効力ヲ生ス

(解) 第七百三十五條ハ前二條ノ決定ニ對スル執行方法ヲ定メ第七百三十六條ニ債務者ノ意思表示ヲ目的トスル強制執行ノ方法ヲ定メタル者ナリ

### 第四章 假差押及ヒ假處分

(總說) 本章ハ假差押及ヒ假處分ニ關スル規定ナリ假差押ニ付テハ第七百三十七條乃至第七百五十四條ニ規定シ假處分ニ付テハ第七百五十五條以下ニ之ヲ規定シタリ蓋シ假差押及ヒ假處分ハ何レモ將來ニ係ル強制執行保全ノ必要ニ基キテ設ケタル者ナリ

第七百三十七條 假差押ハ金錢ノ債權ニ換フルコトヲ得ヘキ請求ニ基キ動産又ハ不動産ニ對スル強制執行ヲ保全スル爲メ之ヲ爲スコトヲ得

假差押ハ未タ期限ニ至ラサル請求ニ於テモ亦之ヲ爲スコトヲ得

(解) 假差押ヲ爲スヲ得ヘキ債權ハ金錢ノ債權又ハ金錢ノ債權ニ換フルコトヲ得ヘキ債權ニ付テノミ之ヲ爲スモノニシテ他ノ債權ニ付テハ之ヲ許サス故ニ此等ノ債權者ハ動産タルト將タ不動産タルトヲ論セス債務者ノ所有財産ニ對スル強制執行ヲ保全スル爲メ之ヲ爲スコトヲ得ルナリ而シテ假差押ハ既ニ期限ノ到來セサル請求ニ付テモ亦之ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

法文ニ所謂「金錢ノ債權ニ換フルコトヲ得ヘキ請求」トハ通例物ノ引渡又ハ給付ヲ目的トスル債權及ヒハ不行爲ノ義務ニ對スル請求ノ内財産權上ノ請求ニ屬スルモノト類ヲ謂フナリ

第七百三十八條 假差押ハ之ヲ爲ササレハ判決ノ執行ヲ爲スコト能ハス又ハ判決ノ執行ヲ



爲スニ著シキ困難ヲ生スル恐アルトキ殊ニ外國ニ於テ判決ノ執行ヲ爲スニ至ル可キトキハ之ヲ爲スコトヲ得

(解) 本條ハ如何ナル場合ニ假差押ヲ爲ス可キ得ルヤ其場合ヲ示シタリ即チ假差押ナル者ハ執行保全ノ爲メニ假差押者ノ財産ヲ差押可キ者ナレハ其保全ニ妨ケアル場合ニ限レリ左ノ場合ハ執行保全ニ妨ケアルモノトス

第一判決ノ執行ヲ爲スコト能ハサル場合

第二判決ノ執行ヲ爲スニ著シキ困難ヲ生スル恐レアルトキ殊ニ外國ニ於テ判決ノ執行ヲ爲スニ至ル可キ場合

第七百三十九條 假差拂ノ命令ハ假ニ差押可キ物ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所又ハ本案ノ管轄裁判所之ヲ管轄ス

第七百四十條 假差押ノ申請ニハ左ノ諸件ヲ掲ク可シ

第一 請求ノ表示若シ其請求カ一定ノ金額ニ係ラサルトキハ其價額

第二 假差押ノ理由タル事實ノ表示

請求及ヒ假差押ノ理由ハ之ヲ説明ス可シ

申請ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

(解) 第七百三十九條ハ假差押ハ如何ナル裁判所ニ於テ管轄スヘキヤヲ定メ第七百四十條ハ假差押ノ申請ニ掲クヘキ必要件其要件中ノ請求及ヒ理由ノ説明其他申請ハ書面ノミナラス口頭ニテモ可ナルヲ等ニ關シテ定メタリ

第七百四十一條 假差押ノ申請ニ付テノ裁判ハ口頭辨論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得

請求又ハ假差押ノ理由ヲ説明セサルトキト雖假差押ニ因リ債務者ニ生ス可キ損害ノ爲メ債權者カ裁判所ノ自由ナル意見ヲ以テ定ムル保證ヲ立テタルトキハ裁判所ハ假差押ヲ命スルコトヲ得

又請求及ヒ假差押ノ理由ヲ説明シタルトキト雖モ裁判所ハ保證ヲ立テシメ假差押ヲ命スルコトヲ得

保證ヲ立テタルトキハ其保證ヲ立テタルコト及ヒ如何ナル方法ヲ以テ之ヲ立テタルコトヲ假差押ノ命令ニ記載ス可シ

(解) 假差押ノ申請ニ付テノ裁判ハ口頭辨論ヲ經テ爲スト否トハ裁判所ノ自由ニシテ本條ハ口頭辨論ヲ經スシテ爲ス場合ニ於ケル裁判所ノ權限假差押ニ付キ保證ヲ立テシム可キト及ヒ其結果ニ付テ規定シタル者ナリ

第七百四十二條 假差押ノ申請ニ付テノ裁判ハ口頭辨論ヲ爲ス場合ニ於テハ終局判決ヲ以テ之ヲ爲シ其他ノ場合ニ於テハ決定ヲ以テ之ヲ爲ス

假差押ノ申請ヲ却下シ又ハ保證ヲ立テシムル裁判ハ債務者ニ之ヲ通知スルコトヲ要セス

(解) 本條ハ假差押ノ申請ニ付テノ裁判ハ口頭辨論ヲ經スシテ爲ス場合ニハ決定ヲ以テ裁判シ之ニ反シテ口頭辨論



ノ經タルトキハ終局判決ヲ以テ裁判セサル可ラス又假差押ノ申請ヲ却下シ又ハ保証ヲ立テシムル裁判ハ特ニ之ヲ債務者へ通知スルノ必要ヲ見サルナリ

第七百四十三條 差押ノ命令ニハ假差押ノ執行ヲ停止スルコトヲ得ル爲メ又ハ執行シタル假差押ヲ取消スコトヲ得ル爲メ債務者ヨリ供託ス可キ金額ヲ記載ス可シ

本條ハ讀テ字ノ如ク別ニ説明スルノ要ナシ

第七百四十四條 債務者ハ假差押決定ニ對シテ異議ヲ申立ツルコトヲ得

此異議ニ付テハ假差押ノ取消又ハ變更ヲ申立ツル理由ヲ開示ス可シ  
異議ノ申立ハ假差押ノ執行ヲ停止セス

〔解〕 本條ハ別ニ説明スルマテモナク假差押ノ決定ニ對スル債務者ノ不服ハ異議ヲ以テ申立ツルヲ得ルヲ及ヒ其異議ニ關スル必要ナル手續ヲ明示シタル者ナリ

第七百四十五條 異議ノ申立アリタルトキハ裁判所ハ口頭辨論ノ爲メ當事者ヲ呼出ス可シ  
裁判所ハ終局判決ヲ以テ假差押ノ全部若クハ一分ノ認可、變更又ハ取消ヲ言渡シ又自由ナル意見ヲ以テ定ムル保證ヲ立ツ可キコトノ條件ヲ附シテ之ヲ言渡スコトヲ得

〔解〕 本條ハ債務者ヨリ異議ノ申立アリタル場合ニ於ケル裁判手續ヲ規定シタル者トス

〔實例〕 假處分異議件 明治二十八年第八十二號  
全 年九月二十日

大審院判決要旨左ノ如シ

民事訴訟法第七百五十九條ニ依レハ假處分ハ特別ノ事情アル場合ニ限り保證ヲ立ケシメ取消ヲ許スヲ得ヘキモ其事情ナキニ於テハ仮令保證ヲ立ルモ取消ヲ許スヘカフサルモノトス然ラハ假差押ニ關スル第七百四十五條ハ明カニ七百五十九條ノ規定ニ抵觸スルヲ以テ七百五十六條但書ニ依リ之ヲ假處分ニ準用シ得ヘカフサルモノトス

○假處分決定ニ對スル抗告ノ件 明治三十二年第二十五號  
全 三十二年五月一日決

大審院ノ決定要旨左ノ如シ

假處分命令取消ノ申立ハ民事訴訟法第七百四十五條ニ違背シ終局判決ヲ爲サス決定ヲ以テ裁判ヲ爲シタル場合ニハ法律ニ明文ナキヲ以テ抗告スル事ヲ得ス

第七百四十六條 本案ノ末々擊屬セサルトキハ假差押裁判所ハ債務者ノ申立ニ依リ口頭辯論ヲ經スシテ相當ニ定ムル期限内ニ訴ヲ起ス可キコトヲ債權者ニ命ス可シ  
此期間ヲ徒過シタル後ハ債務者ノ申立ニ因リ終局判決ヲ以テ假差押ヲ取消ス可シ

決本條ハ讀テ字ノ如ク説明スルノ要ナシ

第七百四十七條 債務者ハ假差押ノ理由消滅シ其他事情ノ變更シタルトキ又ハ裁判所ノ自



由ナル意見ヲ以テ定ム可キ保證ヲ立テントノ提供ヲ爲シタルトキハ假差押ノ認可後ト雖モ假差押ノ取消ヲ申立ツルコトヲ得

此申立ニ付テハ終局判決ヲ以テ之ヲ裁判ス其裁判ハ假差押ヲ命シタル裁判所又本案カ既ニ繫屬シタルトキハ本案ノ裁判所之ヲ爲ス

(解) 本條ノ規定ニ依レハ債務者ガ假差押ノ認可後ト雖假差押ノ取消ヲ申立ツルコトヲ得ル場合ニアリ

第一 假差押ノ理由消滅シタルトキ 例ハ第七百三十八條ニ示ス所ノ事實消滅スルカ如キチ云フ

第二 其他ノ事情ノ變更シタルトキ 例ハ假差押ヲ受クルニ至リタル債權ニ變動ヲ生シタルカ如キチ云フ

第三 裁判所ノ自由ナル意見ヲ以テ定ム可キ保證ヲ立テントノ提供ヲ爲シタルトキ (事理明瞭ナルカ故ニ)

(説明スルノ要ナシ)

假差押ノ取消申立ニ付テハ終局判決ヲ以テ裁判シ其裁判ハ假差押ヲ命シタル裁判所又ハ本案カ既ニ繫屬シタルトキハ本案ノ裁判所之ヲ裁判スルモノトス

(實例) 地所登記請求ノ件 三十年抗告第二十九號  
三十年七月二十二日決定

大審院ノ決定要旨左ノ如シ

民事訴訟法第七百五十九條ニ依リ爲シタル假處分取消ノ申請ニ付テハ同法第七百四十七條ニ從ヒ終局判決ヲ以テ裁判スヘキモノニシテ決定ヲ以テ裁判ス可キモノニアラス

第七百四十八條 假差押ノ執行ニ付テハ強制執行ニ關スル規定ヲ準用ス但以下數條ニ於テ

差異ノ生スルトキハ此限ニ在ラス

第七百四十九條 假差押ノ命令ニハ其命令ヲ發シタル後債權者又ハ債務者ニ於テ承繼アル場合ニ限り執行文ヲ附記スルコトヲ要ス

假差押命令ノ執行ハ命令ヲ言渡シ又ハ申立人ニ命令ヲ送達シタルヨリ十四日ノ期間ヲ徒過スルトキハ之ヲ爲スコトヲ許サス

右執行ハ債務者ニ差押命令ヲ送達スル前ト雖モ之スコトヲ得

第七百五十條 動産ニ對スル假差押ノ執行ハ各差押ト同一ノ原則ニ從ヒテ之ヲ爲ス  
債權ノ假差押ニ付テハ其命令ヲ發シタル裁判所ヲ以テ管轄執行裁判所トス

債權ノ假差押ニ付テハ第三債務者ニ對シ債務者ニ支拂ヲ爲スコトヲ禁スル命令ノミヲ爲ス可シ

假差押ノ金錢ハ之ヲ供託ス可シ其他假差押物ノ競賣及ヒ假差押有價證券ノ換價ハ一時之ヲ爲サス然レトモ假差押物ニ著シキ價額ノ減少ヲ生スル恐アルトキ又ハ其貯藏ニ付キ不相應ナル費用ヲ生ス可キトキハ執行裁判所ハ申立ニ因リ其物ヲ競賣シ賣得金ヲ供託ス可キ旨ヲ執達吏ニ命スルコトヲ得



條七百五十一條 不動産ニ對スル假差押ノ執行ハ假差押ノ命令ヲ登記簿ニ記入スルニ因リテ之ヲ爲ス

第七百五十二條 假差押執行ノ爲メ強制管理ヲ爲ス場合ニ於テハ保全ス可キ債權ニ相當スル金額ヲ取立テ之ヲ供託ス可シ

第七百五十三條 船舶ニ對スル假差押ノ執行ハ假差押ノ當時碇泊スル港ニ碇泊セシムルコトニ因リ之ヲ爲ス裁判所ハ債權者ノ申立ニ依リ船舶ノ監守及ヒ保存ノ爲メ必要ナル處分ヲ爲ス

第七百五十四條 假差押命令ニ於テ定メタル金額ヲ供託シタルトキハ執行裁判所ハ執行シタル假差押ヲ消取ス可シ

假差押ノ續行ニ付キ特別ノ費用ヲ要シ且之カ爲メ必ナル金額ヲ債權者カ豫納セサルトキモ亦執行裁判所ハ假差押ノ取消ヲ命スルコトヲ得  
右裁判ハ口頭辨論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得

假差押ヲ取消ス決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

(解) 以上第七百四十八條乃至第七百五十四條ハ別ニ説明スルマテモナク假差押ノ裁判ノ執行ニ關スル諸般ノ手續

ヲ規定シタル者ナリ

第七百五十五條 係争物ニ關スル假處分ハ現状ノ變更ニ因リ當事者一方ノ權利ノ實行ヲ爲スコト能ハス又ハ之ヲ爲スニ著シキ困難ヲ生スル恐アルトキ之ヲ許ス

(解) 本條以下假處分ニ關スル手續ヲ定メタル者ニシテ就中本條ハ假處分ハ如何ナル場合ニ之ヲ許ス可キヤス明カニセリ抑モ假處分ハ假差押ノ如ク金錢ノ債權及ヒ金錢ノ債權ニ換ルヲ得ヘキ請求ニ付キ強制執行ヲ保全スル爲メニ許ス者ニアラスシテ財産權上ノ請求ニ非ラサル總テノ請求ニ付強制執行ヲ保全スル爲メニ爲ストキ得ヘシ是レ假差押ト假處分ト相異ナル要點ナリ今本條ノ規定ニ依リ係争物ヲ保護スル爲メニ爲ス假處分ノ條件ヲ擧ケレハ

第一金錢ノ支拂ヲ目的トセサル債權ニ付キ之ヲ爲スト

第二現状ノ變更ニ因リ權利ノ實行ヲ爲スト能ハス若クハ之ヲ爲スニ著シキ困難ヲ生スルノ恐レアルコト即チ是ナリ故ニ係争物ヲ保全スル爲メニ爲ス假處分ニシテ此ニ條件ヲ具備セサルトキハ其假處分ハ成立セサルナリ

(實例) ○溝渠復舊事件ニ關スル假處分命令ニ對スル異議申立件 明治二十六年第四百九十號 全二十七年二月二十一日

大審院ノ判決要旨左ノ如シ

民事訴訟法五百二十二條二項ハ執行文ノ付與ニ對スル異議ノ場合ニ於ケル規定ニシテ同法七百五十五條以下ハ確定判決以前ニ於ケ係争物ニ關シ假處分ヲ爲ス場合ニ於ケル規定ナルヲ以テ共ニ確定判決ノ執行ヲ續行セシムル場合ニ適用スヘキモノニアラス



第七百五十六條 假處分ノ命令其他ノ手續ニ付テハ假差押ノ命令及ヒ手續ニ關スル規定ヲ準用ス但以下數條ニ於テ差異ノ生スルトキハ此限ニ在ラス

第七百五十七條 假處分ノ命令ハ本案ノ管轄裁判所之ヲ管轄ス

右裁判ハ急迫ナル場合ニ於テハ口頭辨論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得

(解) 第七百五十六條ハ假處分ニ關スル總テノ手續ハ以下數條ニ於テ別段ノ規定ナキ以上ハ假差押ノ命令及ヒ手續ニ關スル規定ヲ準用スル旨ヲ示シ第七百五十七條ハ假處分ノ命令ニ關スル管轄裁判所及ヒ其裁判方法ヲ示シタル者ナリ

第七百五十八條 裁判所ハ其意見ヲ以テ申立ノ目的ヲ達スルニ必要ナル處分ヲ定ム

假處分ハ保管人ヲ置キ又ハ相手方ニ行爲ヲ命シ若クハ之ヲ禁シ又ハ給付ヲ命スルコトヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

假處分ヲ以テ不動産ヲ讓渡シ又ハ抵當ト爲スコトヲ禁シタルトキハ裁判所ハ第七百五十一條ノ規定ヲ準用シテ登記簿ニ其禁止ヲ記入セシム可シ

(解) 本條ハ第一項ニ於テ申立ノ目的ヲ達スル爲メニ必要ナル處分ヲ定ムルコトハ裁判所ノ自由ナル意見ニ從ヒ實際ノ事情ニ適切ナル處分ヲ命スルモノトシ、第二項ニ於テハ其必要ナル處分ノ重ナル場合ヲ掲ケ第三項ハ假處分ヲ以テ不動産ノ讓渡又ハ抵當ヲ禁シタル場合ニ於ケル裁判所ノ職務ヲ規定シタル者ナリ

第七百五十九條 特別ノ事情アルトキニ限り保證ヲ立テシメテ假處分ノ取消ヲ許スコトヲ得

(解) 本條ハ既ニ命シタル假處分ヲ取消スコトヲ得ル場合ヲ定メタル者ナリ左ニ之ヲ取消ノ要件ヲ掲ケ

第一 特別ノ事情存スルトキニ限ルコト 例ハハ假處分ヲ履行スルニ於テハ頗ル困難アリト認メタル場合ノ如シ

第二 保證ヲ立テシムル事 例ハハ金錢又ハ有價証券ヲ以テ保證ト爲スカ如シ

右二條件ハ必要ノ條件ナルカ故ニ其一ヲ缺クトキハ取消ヲ許サトルヤ明カナリ

(實例) 地所登記請求ノ件 明治三十年抗告第二十九號 全年七月二十二日決定

大審院ノ決定要旨左ノ如シ

民事訴訟法第七百五十九條ニ依リ爲シタル假處分取消ノ申請ニ付テハ同法第七百四十七條ニ從ヒ終局判決ヲ以テ裁判スヘキモノニシテ決定ヲ以テ裁判ス可キモノニアラス

第七百六十條 假處分ハ爭アル權利關係ニ付キ假ノ地位ヲ定ムル爲ニモ亦之ヲ爲スコトヲ得但其處分ハ殊ニ繼續スル權利關係ニ付キ著シキ損害ヲ避ケ若クハ急迫ナル強暴ヲ防ク爲メ又ハ其他ノ理由ニ因リ之ヲ必要トスルトキニ限ル

(解) 本條ハ爭アル權利關係ニ付キ假ノ地位ヲ定ムル爲メノ假處分ニ關スル規定ニシテ左ニ其條件ヲ掲ケ  
第一 爭アル權利關係ニ付キ權利ヲ有スルコト



第二 繼續スル權利關係ニ付キ著シキ損害ヲ避ケ若クハ急迫ナル強暴ヲ防ク爲メ又ハ他ノ理由ニ依リ假處分ヲ必要ナリトスルコト

右ニ條件ハ必要ノ條件ナリ故ニ其一ヲ缺クトキハ爭アル權利關係ニ付キ假ノ地位ヲ定ムル爲メノ假處分ハ法律上成立スルコトナシトス

第七百六十一條 急迫ナル場合ニ於テハ係争物ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ハ假處分ノ當否ニ付テノ口頭辨論ノ爲メ本案ノ管轄裁判所ニ相手方ヲ呼出ス可キ申立ノ期間ヲ定メ假處分ヲ命スルコトヲ得

此期間ヲ徒過シタル後區裁判所ハ申立ニ因リ其命シタル假處分ヲ取消ス可シ  
右裁判ハ口頭辨論ヲ經スシテ之ヲ爲スユトヲ得

第七百六十二條 本章ノ規定ニ於ケル本案ノ管轄裁判所ハ第一審裁判所トス但本案カ控訴審ニ繫屬スルトキニ限リ控訴裁判所トス

第七百六十三條 急迫ナル場合ニ於テ口頭辨論ヲ要セサルモノニ限リ裁判長ハ本章ノ申立ニ付キ裁判ヲ爲スコトヲ得

以上三ヶ條ハ法文頗ル簡明ナルカ故ニ余カ解説ヲ俟タヌシテ明カナリ

### 第七編 公示催告手續

第七百六十四條 請求又ハ權利ノ届出ヲ爲サシムル爲メノ裁判上ノ公示催告ハ其届出ヲ爲ササルトキハ失權ヲ生スル効力ヲ以テ法律ニ定メタル場合ニ限リ之ヲ爲スコトヲ得  
公示催告手續ハ區裁判所之ヲ管轄ス

(解) 本條ハ公示催告ノ効力、公示催告ヲ爲シ得可キ場合及ヒ公示催告手續ノ管轄裁判所ニ關スル規定ナリ抑モ公示催告手續タルヤ裁判上ノ催告手續ノ一ニ屬シ未定又ハ不知ノ相手方ニ對シテ請求又ハ權利ノ届出ヲ爲スヘク若シ其届出ヲ爲サルトキハ失權ノ効力ヲ生スル者ナリ而シテ公示催告手續ナル者ハ法律ニ定メタル場合ニ限リ之ヲ爲スヲ得從テ法律ニ明文ナキトキハ之カ手續ヲ爲スヲ得サルナリ此公示催告手續ハ如何ナル裁判所ノ管轄ニ屬スヘキヤト云フニ本條第二項ハ區裁判所ナリト規定シタリ

第七百六十五條 公示催告ノ申立ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

此申立ニ付テノ裁判ハ口頭辨論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得  
申立ヲ許ス可キトキハ裁判所ハ公示催告ヲ爲スコク其公示催告ニハ殊ニ左ノ諸件ヲ掲ク可シ

第一 申立人ノ表示

第二 請求又ハ權利ヲ公示催告期日マテニ届出ツ可キコトノ催告



第三 届出ヲ爲ササルニ因リ生ス可キ失權ノ表示

第四 公示催告期日ノ指定

(解) 公示催告ノ申立ハ書面ニテモ又ハ口頭ニテモ之ヲ爲ス可キ得ル者ニシテ此申立ニ付テノ裁判ハ口頭辨論ヲ經ザルモ之ヲ決定スルコトヲ得ルナリ而シテ裁判所カ其申立ヲ許可シタル場合ニハ本條第三項第一號乃至第四號ニ列記シタル要件ヲ具備シタル公示催告ヲ爲スヘキモノトス

第七百六十六條 公示催告ニ付テノ公告ハ裁判所ノ掲示板ニ揭示シ及ヒ官報又ハ公報ニ掲載シテ之ヲ爲シ其他法律ニ別段ノ規定ヲ設ケサルトキハ第五百十七條第三項ノ規定ニ從ヒテ之ヲ爲ス

第七百六十七條 公示催告ヲ官報又ハ公報ニ掲載シタル日ト公示催告期日トノ間ニハ法律ニ別段ノ規定ヲ設ケサルトキハ少ナクトモ二个月ノ時間ヲ存スルコトヲ要ス

(解) 第七百六十六條ハ公示催告ニ付テノ公告ハ如何ナル公告方法ニ依リテ之ヲ公示ススキヤヲ定メ第七百六十七條ハ公示催告ヲ掲載シタル日ト公示催告期日トノ間ニ存スル時間ヲ定メタル者ナリ

第七百六十八條 公示催告期日ノ終リタル後ト雖モ除權判決前ニ届出ヲ爲ストキハ適當ナル時間ニ之ヲ爲シタルモノト看做ス

(解) 前條ノ規定ニ依レハ公示催告ニ定メタル期日ノ終リマテニ届出ヲ爲サル者ハ凡テ其權利ヲ失フニ似タリ然

レトモ仮令公示催告期日ノ終リタル後ト雖除權判決前ニ請求又ハ權利ノ届出ヲ爲サル場合ニハ法律ハ適當ナル時間ニ之ヲ爲シタルモノト看做シ以テ届出ノ效力ヲ有スル者ト爲シタリ除權判決トハ不定者クハ不知ノ者カ請求又ハ權利ヲ届出サルノ結果、其請求又ハ權利ヲ行使スルノ權利ヲ失ハシムル判決ヲ云フ

第七百六十九條 除權判決ハ申立ニ因リテ之ヲ爲ス

右判決前ニ詳細ナル探知ヲ爲ス可キ旨ヲ命ズルコトヲ得

除權判決申立ヲ却下スル決定及ヒ除權判決ニ付シタル制限又ハ留保ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

(解) 本條ニ除權判決ハ申立ニ因リテ爲ス、其判決前ニ於テ命スヘキ事項及ヒ除權判決ニ對スル即時抗告等ニ付テ規定シタル者ナリ  
法文ニ所謂「制限」トハ請求者ノ要求ニ或種ノ制限ヲ附シテ容ルカ如キヲ云ヒ「留保」トハ一方ニ於テハ除權判決ヲ與ヘ他ニ於テハ除權ノ時期ヲ保タシメ以テ其判決ヲ確定セシメサル場合ヲ云フ

第七百七十條 申立人ノ申立ノ理由トシテ主張シタル權利ヲ争フコトノ届出アリタルトキハ其事情ニ從ヒ届出テタル權利ニ付テノ裁判確定スルマテ公示催告手續ヲ中止シ又ハ除權判決ニ於テ届出テタル權利ヲ留保ス可シ

第七百七十一條 申立人カ公示催告期日ニ出頭セサルトキハ其申立ニ因リ新期日ヲ定ム可シ此申立ハ公示催告期日ヨリ六箇月ノ期間内ニ限り之ヲ爲スコトヲ許ス



第七百七十二條 公示催告手續ヲ完結スル爲メ新期日ヲ定メタルトキハ其期日ノ公告ヲ爲スコトヲ要セス

第七百七十三條 裁判所ハ除權判決ノ重要ナル旨趣ヲ官報又ハ公報ニ掲載シテ公告ヲ爲スコトヲ得

以上第七百七十條乃至第七百七十三條ハ一證明瞭一点ノ難句ナシ故ニ説明ヲ省ク

第七百七十四條 除權判決ニ對シテハ上訴ヲ爲スコトヲ得ス

除權判決對シテハ左ノ場合ニ於テ申立人ニ對スル訴ヲ以テ催告裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所ニ不服ヲ申立ツルコトヲ得

第一 法律ニ於テ公示催告手續ヲ許ス場合ニ非ラサルトキ

第二 公示催告ニ付テノ公告ヲ爲サス又ハ法律ニ定メタル方法ヲ以テ公告ヲ爲ササルトキ

第三 公示催告ノ期間ヲ遵守セサルトキ

第四 判決ヲ爲ス判事カ法律ニ依リ職務ノ執行ヨリ除斥セラレタルトキ

第五 請求又ハ權利ノ届出アリタルニ拘ハラヌ判決ニ於テ其届出ヲ法律ニ從ヒ顧ミサ

ルトキ

第六 第四百六十九條第一號乃至第五號ノ場合ニ於テ原狀回復ノ訴ヲ許ス條件ノ存スルトキ

(解) 本條第一項ハ除權判決ニ對シテハ上訴ヲ爲スヲ禁シタリ夫レ判決ハ通常ノ中間判決ヲ除クノ外ハ凡テ獨立シテ上訴スルヲ得ルヲ原則トス除權判決ハ此原則ニ對スル例外ニ外ナラサルカ故ニ上訴スルヲ得サルモノトス第二項ハ除權判決ニ對シテハ申立人ニ對スル訴ヲ以テ催告裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所ニ不服ヲ申立ツルヲ得ルモノトシ其場合ヲ第一號乃至第六號ニ列記シタリ

第七百七十五條 不服申立ノ訴ハ一ヶ月ノ不變期間内ニ之ヲ起ス可シ此期間ハ原告ガ除權判決ヲ知リタル日ヲ以テ始マル然レトモ前條第四號及ヒ第六號ニ掲ケタル不服申立ノ理由ノ一ニ基キ訴ヲ起シ且原告カ右ノ日ニ其理由ヲ知ラサリシ場合ニ於テハ其期間ハ不服ノ理由ノ原告ニ知レタル日ヲ以テ始マル除權判決ノ言渡ノ日ヨリ起算シテ五ヶ年ノ滿了後ハ此訴ヲ起スコトヲ得ス

第七百七十六條 裁判所ハ第二百二十條ノ條件存セサルトキト雖モ數箇ノ公示催告ノ併合ヲ命ズルコトヲ得

此兩條ハ一讀以テ其意ヲ解スルニ易シ故ニ余カ解釋ヲ俟タサル規定ナリ



第七百七十七條 盜取セラレ又ハ紛失若クハ滅失シタル手形其他商法ニ無効ト爲シ得ヘキコトヲ定メタル證書ノ無効宣言ノ爲ニ爲ス公示催告手續ニ付テハ以下數條ノ特別規定ヲ適用ス

此規定ハ法律上公示催告手續ヲ許ス他ノ證書ニ付キ其法律中ニ特別規定ヲ設ケサル限りハ之ヲ適用ス

(解) 本條以下數條ハ手形其他商法ニ無効ト爲シ得ヘキコトヲ定メタル證書ノ無効宣告ノ爲メニ爲ス公示催告ノ手續ニ關スル規定ナリ而シテ本條中別ニ説明スヘキ点ナシト雖唯一ノ説明スヘキ点アリ即チ「商法ニ無効ト爲シ得ヘキコトヲ定メタル證書」是ナリ此證書ハ例ヘハ指圖証券及ヒ無記名証券ノ類ヲ云フ蓋シ此種ノ證書ノ發行人ハ其證書面ニ記載シタル債務ヲ該證書ト引キ換ニ支拂ハサル可ラサルヲ以テ若シ所持人カ其證書ヲ盜取セラレ又ハ紛失若クハ滅失シタルトキハ發行人ニ對シテ權利ヲ主張スルコトヲ得ス是ニ於テ乎此證書ヲ無効ト爲シ始メテ自己ノ權利ヲ主張スルコトヲ得ヘシ是レ本條以下數條ノ規定ヲ必要トスル所以ニシテ蓋シ偶然ニ非サルナリ

第七百七十八條 無記名証券又ハ裏書ヲ以テ移轉シ得ヘク且零式裏書ヲ付シタル證書ニ付テハ最終ノ所持人公示催告手續ヲ申立ツル權アリ

此他ノ證書ニ付テハ證書ニ因リ權利ヲ主張シ得ヘキ者此申立ヲ爲ス權アリ

(解) 本條ニ所謂「無記名証券」トハ無記名式ニテ發行シタル總テノ証券ヲ云ヒ裏書ヲ以テ移轉シ得ヘク且略式裏書ヲ付シタル證書トハ裏書讓渡ヲ禁セサル證書ニシテ而モ正式ノ裏書ヲ爲サス簡略ナル裏書ニテ讓渡シ得ヘキモノヲ

云フ此等ノ證書ニ付テハ最終ノ所持人公示催告手續ヲ申立ツル權利ヲ有スルナリ又「此他ノ證書」トハ裏書讓渡ヲ禁セサル證書ニシテ而モ正式ノ裏書ヲ付シタルモノヲ云フ此種ノ證書ニ付テハ證書ニ依リ權利ヲ主張シ得ヘキ者ヨリ公示催告ノ手續ヲ申立ツル權利アリ

第七百七十九條 公示催告手續ハ證書ニ表示シタル履行地ノ裁判所之ヲ管轄ス若シ證書ニ其履行地ヲ表示セサルトキハ發行人カ普通裁判籍ヲ有スル地ノ裁判所之ヲ管轄シ其裁判所ナキトキハ發行人カ發行ノ當時普通裁判籍ヲ有セシ地ノ裁判所之ヲ管轄ス

證書ヲ發行スル原因タル請求ヲ登記簿ニ記入シタルトキハ其物ノ所在地ノ裁判所ノ管轄ニ專屬ス

第七百八十條 申立人ハ申立ノ憑據トシテ左ノ手續ヲ爲ス可シ

第一 證書ノ謄本ヲ差出シ又ハ證書ノ重要ナル旨趣及ヒ證書ヲ十分ニ認知スルニ必要ナル諸件ヲ開示スルコト

第二 證書ノ盜難、紛失、滅失及ヒ公示催告手續ヲ申立ツルコトヲ得ルノ理由タル事實ヲ説明スルコト

第七百八十一條 公示催告中ニ公示催告期日マテニ權利ヲ裁判所ニ届出テ且其證書ヲ提出ス可キ旨ヲ證書ノ所持人ニ催告ス可ク又失權トシテ證書ノ無効宣言ヲ爲ス可キ旨ヲ戒示



ス可シ

第七百八十二條 公示催告ノ公告ハ裁判所ノ掲示板ニ掲示シ且官報又ハ公報ニ掲載シ及ヒ新聞紙ニ三回掲載シテ之ヲ爲ス

公示催告裁判所ノ所在地ニ取引所アルトキハ取引所ニモ亦此公告ヲ掲示ス可シ

第七百八十三條 公示催告ヲ官報又ハ公報ニ掲載シタル日ト公示催告期日トノ間ニハ少ナクトモ六ヶ月ノ時間ヲ存スルコトヲ要ス

第七百八十四條 除權判決ニ於テハ證書ヲ無効ナリト宣言ス可シ

除權判決ノ重要ナル旨趣ハ官報又ハ公報ヲ以テ之ヲ公告ス可シ

不服申立ノ訴ニヨリ判決ヲ以テ無効宣言ヲ取消シタルトキハ其判決ノ確定後官報又ハ公報ヲ以テ公告ス可シ

(解) 以上六ヶ條ハ一讀以テ其意ヲ解スルニ易シ故ニ各條ノ大意ヲ明カニスレハ足レリ第七百七十九條ハ公示催告手續ハ如何ナル地ノ裁判所ニ於テ管轄スヘキヤヲ示シ第七百八十條ハ公示催告申立人カ其申立ノ憑據トシテハ如何ナル手續ニ從フ可キヤヲ列記(第一號及第二號)シ第七百八十一條ハ公示催告中ニハ如何ナル事項ヲ掲クヘキヤヲ定メ第七百八十二條ハ公示催告ノ方法ニ關シテ定メ第七百八十三條ハ証券無効ノ爲メニスル公示催告手續ニ付テノ公示催告期日ニハ特別ノ時間ヲ要スル旨ヲ定メ第七百八十四條ハ除權判決ニ於テ宣言ス可キ證書ノ無効及ヒ其効果ニ付テ定メタル者

第七百八十五條 除權判決アリタルトキハ其申立人ハ證書ニ因リ義務ヲ負擔スル者ニ對シテ證書ニ因レル權利ヲ主張スルコトヲ得

(解) 本條ハ除權判決アリタル場合ニハ如何ナル効果ヲ生スヘモヤチ明カニセリ抑モ除權判決ハ證書ニ對スル總テノ權利者ノ權利ヲ除却スルモノト解スルコトヲ得ス何トナレハ其申立人ヲシテ其證書例ヘハ盜取セラレ又ハ紛失シ若クハ滅失シタル證書以前ニ有シタル權利ニ復活セシムルヲ正當トス是ヲ以テ法律ハ其申立人ハ證書ニ因リ義務ヲ負担スル者ニ對シテ證書ニ因レル權利ヲ主張スルコトヲ得ルモノト爲シタル所以ナリ

### 第八編 仲裁手續

第七百八十六條 一名又ハ數名ノ仲裁人ヲシテ争ノ判斷ヲ爲サシムル合意ハ當事者カ係争物ニ付キ和解ヲ爲ス權利アル場合ニ限り其效力ヲ有ス

(解) 本條以下仲裁手續ニ關スル規定ナリ仲裁手續トハ當事者カ意思ノ合致ニ依リ仲裁人ヲ選定シ其者ヲシテ當事者間ノ權利關係ヲ判斷セシムル訴訟法上ノ手續ヲ謂フ然ラハ即チ如何ナル場合ニ仲裁人ヲシテ判斷セシム可キ者ナリヤ是レ本條ノ規定スル所ニシテ左ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス  
第一當事者カ仲裁人ヲシテ争ノ判斷ヲ爲サシタル合意ヲ爲シタルコト 故ニ當事者間ニ於テ此合意ナキトキハ仲裁人ヲシテ其争ヲ判斷セシムルコトヲ得ス茲ニ所謂仲裁人ハ一名タルト數名タルトヲ問ハス(尤モ當事者間ニ合意トハ契約ト同一義ナリ)



第二當事者カ係争物ニ付キ和解ヲ爲ス權利ヲ有スルコト 故ニ和解ヲ爲スノ權利ナキ者例ヘハ幼者、白痴瘋癲者ノ如キハ和解ヲ爲ス權利ナシ蓋シ仲裁人ヲ設ケテ争ニ係ル事件ヲ判斷セシムルハ稍キ裁判官ノ裁判ニ均シキ所アレトモ仲裁人ハ裁判官ニアラス又判斷ハ依然トシ判斷ニシテ裁判ニアラス換言スレハ一人ノ判斷ニシテ和解ト其性質ヲ同フスル所多シ故ニ和解ヲ爲ス權利ナキ者ニ於テ此契約ヲ爲スモ無効ト定メタルハ其當ヲ得タルモノトス和解トハ當事者カ互ニ讓歩シテ既ニ生シタル争ヲ止ムルコトヲ約スルニ依リテ成立スル者ヲ云フ

之ヲ要スルニ右ノ二要件ヲ具備スルトキニ限り仲裁手續ヲ爲スコトヲ得ヘシ從テ此條件中其一ヲ缺クトキハ仲裁手續無効ニ歸スルナリ

**第七百八十七條** 將來ノ争ニ關スル仲裁契約ハ一定ノ權利關係及ヒ其關係ヨリ生スル争ニ關セサルトキハ其效力ヲ有セス

(解) 本條ハ將來ノ争ニ關スル仲裁契約ノ効力ニ付テ規定セリ將來ノ争ニ關スル仲裁契約ハ如何ナル場合ト雖、効力ヲ有スル者ニアラス即チ仲裁契約ハ一定ノ權利關係及ヒ其關係ヨリ生スル争ニ關スル事柄ヲ目的トシタル場合ニハ効力ヲ有スル者ニラザル場合ニハ効力ヲ有セサルナリ

**第七百八十八條** 仲裁契約ニ仲裁人ノ選定ニ關スル定ナキトキハ當事者ハ各一名ノ仲裁人ヲ選定ス

(解) 本條ハ仲裁契約ニ仲裁人ノ選定ニ關スル定メナキ場合ニ關セリ此場合ニ於テハ各一名ノ仲裁人ヲ選定スルモノトス

**第七百八十九條** 當事者ノ雙方カ仲裁人ヲ選定スル權利ヲ有スルトキハ先ニ手續ヲ爲ス

方ハ書面ヲ以テ相手方ニ其選定シタル仲裁人ヲ指示シ且七日ノ期間内ニ同一ノ手續ヲ爲ス可キ旨ヲ催告ス可シ

右期間ヲ徒過シタルトキハ管轄裁判所ハ先ニ手續ヲ爲ス一方ノ申立ニ因リ仲裁人ヲ選定ス

(解) 本條ハ別ニ説明スルマテモナク仲裁手續ノ合意ニ於テ當事者カ双方ニテ仲裁人ヲ選定スヘキコト明約シテ其選定權ヲ有スル場合及ヒ其仲裁合意ヲ完結ス可キ方法ヲ規定シタルニ過キス

**第七百九十條** 當事者ノ一方ハ相手方ニ仲裁人選定ノ通知ヲ爲シタル後ハ相手方ニ對シテ其選定ニ羈束セラル

(解) 本條ハ當事者ノ一方タル甲者カ其相手方タル乙者ニ對シテ仲裁人選定ノ通知ヲ爲シタル後ノ効力ヲ定ム即チ此通知ヲ爲シタル後ハ必ス甲者ノ相手方タル乙者ノ方ニ於テモ相當ノ者ヲ選定スヘキコト當然ナルカ故ニ最早甲者ノ意思ヲ以テ其選定シタル仲裁人ヲ變更スルコトヲ得サル者ト爲サトル可ラス若シ其レ甲者ノ通知後ト雖、隨意ニ之カ變更ヲ爲スコトヲ得ルモノトセンカ爲メニ相手方タル乙者ハ意外ノ不利益ヲ招クニ至ルナラン是ニ於テカ本條末段ハ其選定ニ羈束セラルト規定シタル所以ナリ

**第七百九十一條** 仲裁契約ヲ以テ選定シタルニ非サル仲裁人カ死亡シ又ハ其他ノ理由ニ因リ欠缺シ又ハ其職務ノ引受若クハ施行ヲ拒ミタルトキハ其仲裁人ヲ選定シタル當事者ハ



相手方ノ催告ニ因リ七日ノ期間内ニ他ノ仲裁人ヲ選定ス可シ此期間ヲ徒過シタルトキハ管轄裁判所ハ其催告ヲ爲シタル者ノ申立ニ因リ仲裁人ヲ選定ス可シ

(解) 本條所定ノ「仲裁契約ヲ以テ選定シタルニ非サル仲裁人カ死亡シ又ハ其他ノ理由ニ因リ欠缺シ又ハ其職務ノ引受者クハ施行ヲ拒ミタルトキ」トハ仲裁契約ヲ以テ豫メ選定シタル仲裁人ニ非スシテ後ニ當事者カ擇ミタル仲裁人ニ變動ヲ生シタル場合ニ外ナラサルヘシ斯ル場合ニ於テハ切角仲裁人ヲ選定シタル目的カ不能ニ歸スルカ故ニ其仲裁人ヲ選定シタル當事者ハ相手方ノ催告ニ因リ七日ノ期間内ニ他ノ仲裁人ヲ選定シ以テ係争物ノ判斷ヲ爲サシメサル可ラス而シテ此七日ノ期日ヲ徒過シタル場合ニハ管轄裁判所ハ其催告ヲ爲シタル者ノ申立ニ依リ仲裁人ヲ選定スヘキモトス

第七百九十二條 當事者ハ判事ヲ忌避スル權利アルト同一ノ理由及ヒ條件ヲ以テ仲裁人ヲ忌避スルコトヲ得

此他仲裁契約ヲ以テ選定シタルニ非サル仲裁人カ其責務ノ履行ヲ不當ニ遅延スルトキハ亦之ヲ忌避スルコトヲ得

無能力者、聾者、啞者及ヒ公權ノ剝奪又ハ停止中ノ者ハ之ヲ忌避スルコトヲ得

(解) 本條ハ仲裁人ヲ忌避スルコトヲ得ル規定ナリ夫レ仲裁人ノ職務タルヤ當事者間ニ於ケル係争事件ヲ判斷スル任務ヲ有スルヲ以テ固ヨリ偏頗ノ所爲アルル許サス何トナレハ偏頗ノ所爲アル仲裁人ハ名ハ仲裁人ナレトモ其實ハ當事者ノ一方ヲ援助スルモノナリト云ハサル可ラス從テ斯ル仲裁人ハ係争事件ニ付キ到底公平無私ヲ期スルコト能ハサルハ

智者ヲ俟タスシテ明カナリ是レ本條ノ規定アル所以ナリ

第七百九十三條 仲裁契約ハ當事者ノ合意ヲ以テ左ノ場合ノ爲メ豫定ヲ爲ササリシトキハ其効力ヲ失フ

第一 契約ニ於テ一定ノ人ヲ仲裁人ニ選定シ其仲裁人中ノ或ル人カ死亡シ又ハ其他ノ理由ニ因リ欠缺シ又ハ其職務ノ引受ヲ拒ミ又ハ仲裁人ノ取結ヒタル契約ヲ解キ又ハ其責務ノ履行ヲ不當ニ遅延シタルトキ

第二 仲裁人カ其意見ノ可否同數ナル旨ヲ當事者ニ通知シタルトキ

(解) 本條ハ仲裁契約カ或原因ノ爲メニ効力ヲ失フモノトセリ蓋シ仲裁契約タルノ効力ヲ完全ニ保タシメントスルニハ豫メ法律上契約ヲ以テ特ニ其事項ヲ定ムルコトヲ要ス然ラサレハ後日ニ至リ本條第一號及ヒ第二號ノ場合ニ遭遇セシカ當然仲裁契約ノ効力ヲ失フノ恐レアリトス

第七百九十四條 仲裁人ハ仲裁判斷前ニ當事者ヲ審訊シ且必要トスル限りハ争ノ原因タル事件關係ヲ探知ス可シ

仲裁手續ニ付キ當事者ノ合意アラサル場合ニ於テハ其手續ハ仲裁人ノ意見ヲ以テ之ヲ定



第七百九十五條 仲裁人ハ其面前ニ任意ニ出頭スル證人及ヒ鑑定人ヲ訊問スルコトヲ得  
仲裁人ハ證人又ハ鑑定人ヲシテ宣誓ヲ爲サシムル權ナシ

(解) 第七百九十四條ハ仲裁人カ仲裁判斷ヲ爲スノ手續ヲ規定シ第七百九十五條ハ仲裁人カ証人又ハ鑑定人ヲ訊問スル場合ニ於ケル手續上ノ制限ヲ規定シタル者ナリ

第七百九十六條 仲裁人ノ必要ト認ムル判斷上ノ行爲ニシテ仲裁人ノ爲スコトヲ得サルモノハ當事者ノ申立ニ因リ管轄裁判所之ヲ爲ス可シ但其申立ヲ相當ト認メタルトキニ限  
ル

證人又ハ鑑定人ニ供述ヲ命シタル裁判所ハ證據ヲ述フルコト又ハ鑑定ヲ爲スコトヲ拒ミ  
タル場合ニ於テ必要ナル裁判ヲモ亦爲ス權アリ

(解) 本條ニ所謂「仲裁人ノ必要ト認ムル判斷上ノ行爲ニシテ仲裁人ノ爲スコトヲ得サルモノ」トハ仲裁判斷ヲ爲スニ當リ仲裁人カ証人若クハ鑑定人ノ審札ヲ必要トスル事情アルニ拘ハラズ此等ノ者カ任意ニ出頭セサルトキハ仲裁人ハ如何トスルヲ能ハサル弊アルヲ免カレンス故ニ此場合ニ於テハ當事者ノ申立ニ因リ管轄裁判所ハ公力ヲ以テ之ヲ審訊スルモノトス然レトモ管轄裁判所カ之ヲ爲スニハ其申立ヲ相當ト認メタル場合ニ限ルナリ  
第二項ハ一讀以テ其意ヲ窺知スルニ易シ故ニ余カ解説ヲ俟タサルナリ

第七百九十七條 仲裁人ハ當事者カ仲裁手續ヲ許ス可ラサルコトヲ主張スルトキ殊ニ法律

上有效ナル仲裁契約ノ成立セサルコト、仲裁契約カ判斷ス可キ等ニ關係セサルコト又ハ  
仲裁人カ其職務ヲ施行スル權ナキコトヲ主張スルトキト雖モ仲裁手續ヲ續行シ且仲裁判  
斷ヲ爲スコトヲ得

(解) 本條ハ仲裁人ハ當事者カ仲裁手續ヲ許ス可ラサルコトヲ主張スルトキト雖、仲裁手續ヲ續行シ且仲裁判斷ヲ爲  
スニ妨ケナキ場合ノ重ナル者ヲ明カニセリ

第七百九十八條 數名ノ仲裁人カ仲裁判斷ヲ爲スコキトキハ過半數ヲ以テ其判斷ヲ爲スコ  
シ但仲裁契約ニ別段ノ定アルトキハ此限ニ在ラズ

(解) 本條ハ數名ノ仲裁人カ仲裁判斷ヲ爲ス方法ヲ定ム例ヘハ係争事件ニ付仲裁人五名アリト假定センカ此場合ニ  
於テハ過半數ニ依リテ判斷ス可キ者ナルカ故ニ三名ノ仲裁人ノ意見ハ二名ノ仲裁人ノ意見ヲ左右スルヲ得ヘシ然  
トモ仲裁契約ニ特別ノ事柄ヲ定メタルトキハ其契約ニ羈束セラルトキ固ヨリ當然ノ事トス  
法文ニ所謂「過半數」トハ多數決ノ意義ニ解釋スヘシ

第七百九十九條 仲裁判斷ニハ其ノ作リタル年月日ヲ記載シテ仲裁人之レニ署名捺印ス可  
シ

仲裁人ノ署名捺印シタル判斷ノ正本ハ之ヲ當事者ニ送達シ其原本ハ送達ノ證書ヲ添ヘテ  
管轄裁判所ノ書記課ニ之ヲ預ケ置ク可シ



(解) 凡ノ仲裁手續ノ正確及ヒ仲裁判斷ノ公明ヲ保証センカ爲ニハ其作成シタル年月日ヲ記載ス可キハ勿論仲裁人ナシテ之ニ署名捺印セシメサル可ラス斯ク仲裁人ノ署名捺印シタル判斷ノ正本ハ之ヲ當事者ニ送達シ其原本ハ送達証書ニ添附シ以テ仲裁判斷ヲ管轄スル裁判所ノ書記課ニ預ケ置ク可キ者ナリ

第八百條 仲裁判斷ハ當事者間ニ於テ確定シタル裁判所ノ判決ト同一ノ效力ヲ有ス

(解) 本條ハ別ニ説明スルマテモナク仲裁判斷ノ効力ハ當事者ニ於テ確定シタル裁判所ノ判決ト同一ナリトノヲ規定シタルニ過キス從テ確定判決ニ於テ生ス可キ總テノ効力ハ仲裁判斷ノ場合ニ於テモ亦生スルヤ蓋シ疑ナキナリ

第八百一條 仲裁判斷ノ取消ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ申立ツルコトヲ得

- 第一 仲裁手續ヲ許ス可カラサリシトキ
- 第二 仲裁判斷カ法律上禁止ノ行爲ス可キ旨ヲ當事者ニ言渡シタルトキ
- 第三 當事者カ仲裁手續ニ於テ法律ノ規定ニ從ヒ代理セラレサリシトキ
- 第四 仲裁手續ニ於テ當事者ヲ審訊セサリシトキ
- 第五 仲裁判斷ニ理由ヲ付セサリシトキ
- 第六 第四百六十九條第一號乃至第五號ノ場合ニ於テ原狀回復ノ訴ヲ許ス條件ノ存スルトキ

仲裁判斷ノ取消ハ當事者カ別段ノ合意ヲ爲シタルトキハ本條第四號及ヒ第五號ニ掲ケタル

ル理由ニ因リ之ヲ爲スコトヲ得ス

(解) 本條ハ仲裁判斷ノ取消ハ如何ナル場合ニ之ヲ申立ツルコトヲ得ルヤ其場合ヲ第一號乃至第六號ニ規定セリ故ニ第一號乃至第六號ノ原因中其一アルトキハ仲裁判斷取消ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ヘシ然レトモ當事者間ニ於テ別段ノ合意ヲ爲シタル場合ニ於テハ本條第四號及ヒ第五號ニ掲ケタル理由ニ依リ仲裁判斷ノ取消ヲ求ムルコトヲ得サルナリ

第八百二條 仲裁判斷ニ因リ爲ス強制執行ハ判決ヲ以テ許ス可キコトヲ言渡シタルトキニ限り之ヲ爲スコトヲ得

右執行判決ハ仲裁判斷ノ取消ヲ申立ツルコトヲ得ヘキ理由ノ存スルトキハ之ヲ爲スコトヲ得ス

(解) 本條ハ仲裁判斷ニ因リ強制執行ヲ爲スニハ如何ナル手續ニ從フ者ナルヤヲ規定セリ夫レ既ニ第八百條ニ於テ説明シタル如ク仲裁判斷ノ効力ハ當事者ニ於テハ確定シタル裁判所ノ判決ト同一ナルカ故ニ理論上ヨリ云フトキハ之ニ因リテ直ニ執行スルモ差支エナキカ如シ然レトモ實際上ヨリ觀察スルトキハ之ニ因リテ直ニ執行セシムルハ頗フル危険ニ屬スルモノト云ハサル可ラス是ニ於テ本條第一項ハ執行判決ヲ以テ其許ス可キコトヲ言渡シタルトキニ限り云々ト規定シタリ況ンヤ仲裁判斷ハ判決ニアラサルニ依リ執行判決ヲ以テスルノ必要アルニ於テチヤ右ノ執行判決ハ前條ニ規定シタル理由ノ存スル場合ニハ之ヲ爲スコトヲ得ス從テ前條ニ規定シタル理由ノ存セサル場合ニ限り執行判決ヲ言渡スコトヲ得ルヤ明ナリ

第八百三條 執行判決ヲ爲シタル後ハ仲裁判斷ノ取消ハ第八百一條第六號ニ掲ケタル理由